

一般社団法人 日本保健福祉ネイリスト協会

# 第4回（学術）研究集会

## 演題抄録集

開催日：2023年11月4日（土）

オンライン（WEB）開催

学会長 荒木 ゆかり

一般社団法人  
日本保健福祉ネイリスト協会  
(JHWN)

**理念**

我々は美容サービスを通じて生活に彩りを放ち  
万人が輝きある人生を送れるようサポートすることで  
社会に貢献する。

**福祉ネイリストの使命**

美容を通じて感動を与えることを使命とする。

## 学長巻頭言

2020年以降、あらゆる分野に多大な影響を与えた新型コロナウイルスが蔓延し、医療、介護・福祉現場の皆様におかれましては大変なご苦労があった事と推察いたします。しかし2023年5月、新型コロナウイルスが遂に「5類」へと移行しました。福祉ネイリストは介護・福祉現場において訪問の自粛などを余儀なくされましたが、ようやく最近、美容レクリエーションとして各施設に訪問の再開をさせていただけるようになりました。ご協力いただいている各施設様には改めて心よりお礼申し上げます。

今年は当協会主催の「(学術)研究集会」も4回目を迎えることになりました。思えば、福祉ネイリストとしてネイルを施した際に喜んでいただいたばかりでなく、「整容に興味を示すようになった」や「積極的に会話をするようになった」など、予想以上のネイルの“力”を感じ、それは何なのかと疑問に思ったことが発端でした。その後、佐藤三矢先生（現 東京通信大学人間福祉学部教授）と出会い、先生のお力添えにより、2019年に「第1回日本保健福祉ネイリスト協会(学術)研究集会」を開催するまでになりました。福祉ネイリストは研究の知識を全く持ち合わせておりませんでしたが、佐藤三矢教授のご指導により、勉強会を重ね、研究演題の抄録集を作成できるようになりました。全国において一人一人の福祉ネイリストが、訪問の際に研究課題を見つけ、積極的にネイルの研究に取り組む動きが活発化しつつあることは、大変に喜ばしいことであると思います。回を重ねるごとにユニークな研究も増え、研究初心者ならではの目線が、興味深い新鮮な内容に繋がっているのではないかと自負しております。

さて、演題発表の他に、今回は「福祉ネイル導入の実際」としてリハビリティサービスコンパスウォークの石原剛様に介護施設が感じる福祉ネイルの可能性についてご講演いただきます。また佐藤三矢教授とは「福祉ネイリストの未来へのベクトル」と題した対談を行わせていただきます。ご参加いただける皆様に有意義な時間をお届けできるように精いっぱい勤めて参りますのでお手元の抄録と共にご聴聽いただけますと幸いです。

最後になりましたが当協会の第4回(学術)研究集会を開催するにあたって、ご協力いただいた各関係者の皆様に深く感謝申し上げます。

2023年11月吉日

一般社団法人 日本保健福祉ネイリスト協会

代表理事

荒木 ゆかり



## 指先のパッチ・アダムス

『パッチ・アダムス トゥルー・ストーリー』(原題 : Patch Adams) という映画を見た方も多いのではないか。道化の姿で患者さんを笑わせる実在の医師パッチ・アダムスをロビン・ウィリアムズが演じた映画である。

パッチ・アダムスは、医学生の時に、小児患者の病室で無口で沈んでいる子供たちを前にして浣腸用の赤いボールを鼻につけ、皆を笑わせた。そしてある日のパッチ・アダムスは、仲間たちとともに、死ぬ前にサファリに行きたいと言う患者を、風船の動物と輪ゴム銃であたかもサファリに行ったように楽しませた。そしてまたある日には、パスタでいっぱいの風呂に入るのが夢だと言う患者にホントにパスタいっぱいの風呂を作り、入れて喜ばせた。

パッチ・アダムスは、こういう。「死の床にある人と、みじめな気持ちになるのではなく、生きていることを喜びたい、お祝いをしたいんだ。これが僕のやり方だ。苦しんでいる人たちのもとに愛と思いやりとユーモアを持っていく。苦しみの一番根底のところに行って、苦しみをまるごと取り除いてしまうんだ。」と。

福祉ネイリストの方々は、爪に相手の好きな動物を描く。爪に相手の懐かしい景色を描く。爪に相手の愛する花を描く。爪はもちろん、自分の一部である。病気になっている自分を好きになれない人もいるかもしれない。ハンディキャップを負っている自分を好きになれない人がいるかもしれない。鮮やかなネイルにてその心に花を咲かせることができるのではないか。

パッチ・アダムスはこういう。I love me. と。

自分の爪を見つめて（いかなる境遇にあっても）自分を好きになってもらおう。

当院所属の福祉ネイリストとともに、この運動とエビデンス（福祉ネイルが良い影響を与えるという証拠）確立のための、微力ながらお手伝いをしようと思う。

今後、福祉ネイルがパッチ・アダムスのように医療、福祉の世界を変えていける（かもしれない）から。

2023年11月吉日  
一般社団法人 日本保健福祉ネイリスト協会 顧問  
公益社団法人 地域医療振興協会  
公立黒川病院 管理者 角田 浩

## 第4回研究集会の開催によせて（実行委員長ご挨拶）

2019年に日本で初めて開催されたネイルに関する研究集会も、今回で第4回目の開催の運びとなりました。第2回、第3回の開催においては、COVID-19の影響により、福祉ネイリストの皆様方は施設訪問に制限がある中でも、福祉ネイリストだからこそできる可能性と価値を、研究という客観的指標を用いて示し続けてくださいました。

私自身、作業療法士として医療・介護の現場で働いてきており、ネイルが有している力に魅了され、2016年に福祉ネイリストの資格を取得いたしました。第3回研究集会においては、認知症高齢者を対象とした彩爪介入（さいそうかいにゅう）研究を発表させていただき、微力でありながらも、ネイルが生みだす効果の可能性を見出すことができたのではないかと思っております。

私たちネイリスト、とりわけ「福祉ネイリスト」は、ネイル施術を通して奇跡のような場面を目の当たりにすることがあります。会話や触れ合いを大事にする福祉ネイルは、高齢者の方や病気・障がいを有する方に対して、さまざまな効果が期待できるのではないかと私自身強く感じております。しかしながら、ネイルに関する先行研究の実態としては、現段階では十分なエビデンスが蓄積されているとは言えないのが実情です。

2023年7月時点での日本保健福祉ネイリスト協会（JHWN）が輩出した福祉ネイリストは、全国で1,800名を超えており、福祉ネイルの認知度や研究集会抄録集の価値は年々増加していることは間違いないと自負しております。しかし、今回演題発表される方の中には、研究に取り組んだことのない福祉ネイリストの方々が多くいらっしゃいます。そのような中で、JHWNの学術顧問である佐藤三矢先生、及び、福祉ネイリストの坂本将徳さん（広島大学大学院保健学研究科博士課程後期）のご指導の下で、約1年をかけて研究における勉強会を重ねてまいりました。「医療・福祉の現場に美容（ネイル）が当たり前になる世の中にするため」に、今回発表いただく皆様方の想いは皆同じだと思っております。

末筆ながら、イノベーションが生まれている今、皆様におかれまして、健康を尊みながら今後益々のご活躍を心より祈念申し上げます。

2023年11月吉日

一般社団法人 日本保健福祉ネイリスト協会

福祉ネイリスト／作業療法士

高橋 慶香

## JHWN 倫理審査委員会より

このたびの第4回研究集会でエントリーされた全ての演題につきましては、倫理審査委員長が中心となって組織されている日本保健福祉ネイリスト協会の倫理審査委員会ならびに第4回研究集会の勉強会での度重なる検討と審議を経たうえで倫理的側面に配慮しながら全ての取り組みが実施され、この演題抄録集への抄録掲載に至っております。そのため、各抄録における倫理的側面への配慮に関する記述が割愛されているものが存在していることをご了承ください。

2023年11月吉日

一般社団法人 日本保健福祉ネイリスト協会

倫理審査委員長／学術顧問

佐藤 三矢

（東京通信大学 人間福祉学部 教授）

## 優秀演題の表彰

---

JHWN 研究集会では以下の三賞を設け、優れた演題を表彰する。

『JHWN 学会賞』・・・学術的視点から鑑みた審査を実施し、学術的な価値が高いと判断される演題を選出。

『JHWN 協会賞』・・・日本保健福祉ネイリスト協会または福祉ネイルの現場における今後の発展への寄与度が非常に高いと判断される演題を選出。

『JHWN 奨励賞』・・・事例検討または萌芽的な取組段階の演題の中から、保健福祉領域において社会的な有為性が高いと判断される演題を選出。

## 「JHWN 学会賞」の審査基準

---

以下、①～⑤の内容に照合して審査を行う（25点満点）。

※上位複数名が同点首位の場合には、学術顧問と協会理事長の2名が協議の上で受賞者複数名を選出する。

### ①研究デザイン：「一連の手順内容は適切か？」

- 高い水準にて適正（5点）
- 適正（3点）
- 適正さに欠ける部分が存在している（1点）
- 不適正（0点）

### ②サンプル数：「研究デザインに合致した対象者の属性やサンプルサイズであるか？」

- 高い水準にて適正（5点）
- 適正（3点）
- 適正さに欠ける部分が存在している（1点）
- 不適正（0点）

### ③得られた数値の解析：「得られた数値の量や質に対して適切な解析が行われているか？」

- 高い水準にて適正（5点）
- 適正（3点）
- 適正さに欠ける部分が存在している（1点）
- 不適正（0点）

### ④考察の内容：「考察の内容は、偏見や思い込み（希望的観測）、感情的・直感的な予想ではなく、先行研究などを参考として科学的に根拠のある適切な考察が行われているか？」

- 高い水準にて適正（5点）
- 適正（3点）
- 適正さに欠ける部分が存在している（1点）
- 不適正（0点）

**⑤学術的価値の高さ**：「演題内容(テーマ)ならびに全般的な一連の記述内容において、保健福祉関連の学際領域における新規性や寄与度がどれくらいの水準で存在しているか？」

**⑤-1)** 高い水準にて新規性がある (3点)

新規性がある (2点)

新規性が低い (0点)

**⑤-2)** 寄与度が非常に高い (2点)

寄与度が中等度 (1点)

寄与度が低い (0点)

## 「JHWN 協会賞」の審査基準

---

前項（JHWN 学会賞）における**①～④**に以下**⑥**を付け加えて審査を行う（25点満点）。

※上位複数名が同点首位の場合には、学術顧問と協会理事長の2名が協議の上で受賞者複数名を選出する。

**⑥新規性や寄与度**：「演題における一連の内容において、JHWN 協会または福祉ネイル現場における今後の発展への寄与度がどれくらい高いか？」

寄与度が非常に高い (5点)

寄与度が高い (3点)

寄与度が中等度 (1点)

寄与度が低い (0点)

## 「JHWN 奨励賞」の審査基準

---

前述における**①・④・⑤**の内容に照合して審査を行う（15点満点）。

※上位複数名が同点首位の場合には、学術顧問と協会理事長の2名が協議の上で受賞者複数名を選出する。

## 審査委員について

---

- ・優秀演題の選出審査は「JHWN 学術推進課」の委員が所定の基準に照合して客観的に実施する。
- ・「JHWN 学術推進課」は、以下に示す三つの下部組織（倫理審査委員会、学会開催委員会、学術評議委員会）より構成される。

【学会開催委員会】・・・学会長／荒木理事長、実行委員長／高橋慶香、委員／佐藤三矢、坂本将徳

【学術評議委員会】・・・委員長／佐藤三矢、副委員長／荒木ゆかり、委員／坂本将徳、高橋慶香

【倫理審査委員会】・・・委員長／佐藤三矢、副委員長／坂本将徳、委員／荒木ゆかり、高橋慶香

**※「発表される演題」における「筆頭演者」が当該委員（審査委員）である場合、その演題における審査には審査委員が加わってはならない。**

# JHWN 第4回(学術)研究集会／演題目次(発表者順)

## 介入系研究

---

【演題番号 No. 1】・・・・1ページ

回復期リハビリテーション病棟における福祉ネイルの気分に与える影響の検討

～唾液アミラーゼ・POMS2 を用いて～

発表者:佐久間 ともみ／福祉ネイリスト(JHWN 宮城県名取校), 看護師

【演題番号 No. 2】・・・・5ページ

認知症高齢者への継続的な福祉ネイル介入における効果検証

発表者:角尾 友美／福祉ネイリスト(JHWN 東京都自由が丘校), 米国アドバンスマニキュアリスト, 介護福祉士, 認知症ケア専門士

【演題番号 No. 3】・・・・10ページ

ハンドトリートメントに使用する保湿剤の高齢者の肌への影響に関する研究

発表者:柴田 葵衣／福祉ネイリスト(JHWN 大阪府茨木校), 社会福祉士, 精神保健福祉士

## 調査系研究

---

【演題番号 No. 4】・・・・14ページ

子育て中（未就園児）の母親への福祉ネイル介入の効果

～子育て世帯の育児ストレス軽減へのアプローチ～

発表者:石井 智子／福祉ネイリスト(JHWN 東京都秋葉原校)

【演題番号 No. 5】・・・・19ページ

美容レクリエーションにおけるネイルの可能性およびビジョンの考察

～介護現場の職員様へのアンケート調査を通じて～

発表者:宮上 昌悟／株式会社TAT(コンシューマー事業部 課長)

【演題番号 No. 6】・・・・25ページ

福祉ネイルの認知度と福祉ネイルの価格に関するアンケート調査

～初めての爪みがき体験を通して～

発表者:岡林 華奈子／福祉ネイリスト(JHWN 三重県津校), 介護福祉士, 介護支援専門員

【演題番号 No. 7】・・・・29ページ

福祉ネイリストによる営業活動で得られたもの

－ 営業勉強会 Neo における営業成績 －

発表者:多賀 由佳／福祉ネイリスト(JHWN 岐阜県美濃加茂校)

【演題番号 No. 8】・・・・34 ページ

美容レクリエーションに関する意識調査

発表者:斎藤 祐貴／福祉ネイリスト(JHWN 千葉県浦安校)

【演題番号 No. 9】・・・・45 ページ

障がい者スイマーに対する福祉ネイル介入

～選手本人と周囲の人々における変容に着目して～

発表者:内海 紀公子／福祉ネイリスト(JHWN 東京都秋葉原校)

## 事例検討

---

【演題番号 No. 10】・・・・48 ページ

健常高齢者への福祉ネイルが与える QOL の向上による興味・関心の変化

発表者:北川 貴惟／福祉ネイリスト(JHWN 岡山県北房校)、理学療法士、準中級レクリエーション・インストラクター、住環境福祉コーディネーター2級

【演題番号 No. 11】・・・・52 ページ

高齢者施設における福祉ネイル利用の拡大を目指した美容サービスの取り組み

発表者:戸田 美那／福祉ネイリスト(JHWN 千葉県浦安校)

【演題番号 No. 12】・・・・55 ページ

男性の障がい者における福祉ネイルへの関心度（ケーススタディ）

～レクリエーションの一環としての福祉ネイルの待ち時間と施術中における会話の変化～

発表者:辻村 さおり／福祉ネイリスト(JHWN 大阪府心斎橋校)

【演題番号 No. 13】・・・・59 ページ

深爪の改善に対して福祉ネイリストが介入できることに関する検討

～自閉症を有する日本知的障害者水泳連盟所属の水泳選手1名との関わりを通じて～

発表者:石井 智子／福祉ネイリスト(JHWN 東京都秋葉原校)

# 回復期リハビリテーション病棟における福祉ネイルの気分に与える影響の検討

## ～唾液アミラーゼ・POMS2 を用いて～

佐久間ともみ<sup>1) 2)</sup>、木嶋沙綾香<sup>1)</sup>、小磯麻有<sup>1)</sup>、鈴木文枝<sup>2)</sup>、瀧島美紀<sup>2)</sup>、赤間弘治<sup>2)</sup>、

岩城利光<sup>2)</sup>、角田浩<sup>2)</sup>、本郷道夫<sup>2)</sup>

1) 日本保健福祉ネイリスト協会、2) 公立黒川病院

キーワード：回復期リハビリテーション病棟、福祉ネイル、唾液アミラーゼ、POMS2

### 1. はじめに

「福祉ネイル」とは、高齢者、障害者、療養中の人々へ向けたネイルケアで、単に爪の清潔整容だけでなく、マニキュアを施す美容的要素に加え、ネイル動作によって自然に行われるスキンシップや会話を通じたコミュニケーションにより、生活に笑顔や彩りを添え、穏やかな気分、well-beingを導くことを目的とする。

入院患者は、病院という非日常的な空間の中で過ごしており、特に回復期リハビリテーション(以下、回リハ)病棟の患者は、自宅(社会)復帰のためのリハビリテーションを目的に病院の環境下で数ヶ月に及ぶ入院を強いられ、慢性的なストレス状態にあると考えられる。そのため、多くの回リハ病棟では様々なレクリエーションが実施されている<sup>1)</sup>。欧米においてはメイクアップを行うことでwell-beingやQOLが改善することが報告されており、早期からマニキュアなどの美容ケアサービスを取り入れる病院が少なくないと言われている<sup>2)</sup>。筆者はその活動の一つとして、2017年1月から院内に「福祉ネイル」を導入し希望者を対象に福祉ネイルを開始した。実際に、福祉ネイルを受けた患者には積極的な言動や笑顔が得られ、何らかのポジティブな感情が発現されている事象を経験してきた。

これまでに、マニキュアは高齢者の気持ちを改善する効果があることが報告されている。QOLスケールによる評価<sup>3)</sup>では、SCL-Cにてストレス度の低下、PGC モラールスケールでは自己達成感の向上、STAI-1・STAI-2 では不安尺度の軽減など、質問紙を用いた自己評価による感情への陽性の効果が報告されている。しかし、これまでの報告はネイルの効果について計量心理学的に数量評価はされてい

るもの、被施術者の主観に基づく評価であり、他者の評価あるいは客観的な生物学的指標による評価は見られない。そこで今回、福祉ネイルについて科学的・客観的に検証するため、主観的反応の計量評価 POMS2 とともに生体反応として交感神経機能の指標となる唾液アミラーゼを用いた客観的効果検証による評価を試みた。

### 2. 対象

研究に同意を得られた回復期リハビリテーション病棟入院中の女性患者25名を対象とした。その約8割がネイル未経験であった。

対象者25名(年齢21~97歳)を無作為ブロック法にて、Nail群12名(73.4±13.1歳)、Control群13名(76.2±22.0歳)の2群に分けた。

#### 倫理的配慮

介入試行にあたり、本人およびその家族に、本研究の目的と方法、研究に参加しない場合でも不利益を受けないこと、同意をした後でも隨時これを撤回できること、個人情報保護に関する事項を口頭及び書面で説明し同意を得た。なお、本研究は公立黒川病院の倫理委員会の承認を得て実施した。また、本演題発表に関連して開示すべき利益相反関係にある企業はない。

### 3. 方法

#### 1) 介入方法

火・水・木曜日の連続した3日間、1日20分間ずつ時間を設けた。ネイルケア効果の確認のため、介入にはネイルを行う「ネイル日」、対照群にはネイルを行わず同時間を安静に過ごす「安静日」を設定した。ネイル介入の順序効果を排除するために、クロスオーバー法を導入し、ネイルを先に行う群

を Nail 群(安静日 1・ネイル日・安静日 2)、非介入の安静日を先に行う群を Control 群(安静日 1・安静日 2・ネイル日)とし、群間比較を行った(図 1)。

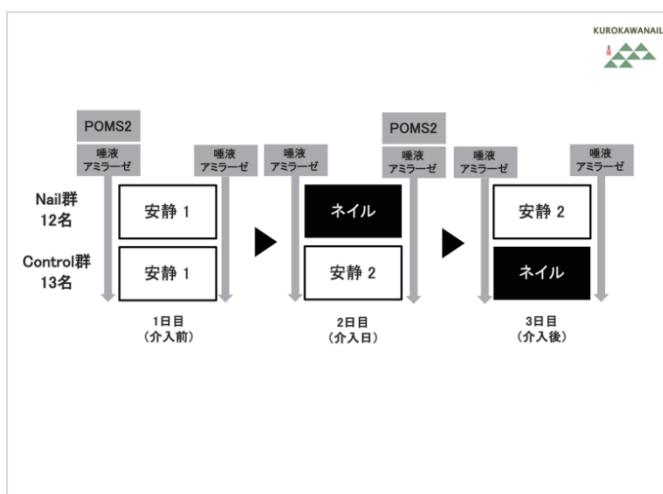


図 1.介入の流れ

## ①ネイル日

福祉ネイリスト2名が福祉ネイルを実施した。福祉ネイルの手順は、手指消毒、爪切り、ファイリング(爪へのやすりがけ)、両手の爪にカラーリング(マニキュア塗布)、1本の爪にネイルアート(手書きで絵を描く)を20分間で実施した。本研究では、マニキュア、アートはそれぞれ10種類ずつ準備し、対象者に各1種類ずつ好きなものを選択させた。

## ②安静日

安静日1、安静日2とともに20分間ベッドもしくは車椅子で安静時間を設けた。安静時間は、研究者との会話は行わなかった。

なお、各セッションは昼食後1時間以上の時間を空けて開始し、昼食以降の飲食、リハビリテーション、入浴等の活動は控えさせた。

## 2) データ評価項目

### ①唾液アミラーゼ値

唾液アミラーゼ値は各セッションの開始直前および終了直後に測定した。唾液採取は、NIPRO唾液アミラーゼモニター(形式DM-3.1)(ニプロ株式会社、大阪市)専用の唾液採取チップを被験者の舌下に20秒間留置して行った。検体は直ちに専用の簡易測定器にて唾液中のアミラーゼ値を測定した。唾液アミラーゼ値は、直前の食事や水分摂取の影響を受けるため、食後1時間以上経過していること

を確認した。

統計値は、平均値±標準誤差で表し、対応のあるt検定にて統計解析を行った。

②POMS2 (Profile of Mood States 2nd Edition)

POMS2の質問紙へ記入は、1日目（安静日1）安静前と2日目セッション終了時（ネイルもしくは安静直後）に行った。

POMS2は35個の質問からポジティブな気分状態2項目（F-友好、VA-活気・活力）、ネガティブな気分状態5項目（AH-怒り・敵意、CB-混乱・当惑、DD-抑うつ・落ち込み、FI-疲労・無気力、TA-不安・緊張）、総合的気分状態の1項目（TMD-総合的気分状態）、計8項目の気分を数値化するものとして国際的に標準化された尺度である<sup>3)</sup>。

POMS2 の下位尺度 8 項目について、介入前と介入後を二元配置反復測定分散分析にて統計解析を行った。

## 4. 結果

### 1) 唾液アミラーゼ値

Nail群、Control群とともに安静日1、安静日2のいずれにおいても前後で有意な変動を認めなかつた。福祉ネイル前後では、Nail群で $17.0 \pm 4.8$  kIU/Lから $51.3 \pm 10.1$  kIU/L ( $p < 0.01$ 、対前値)、Control群で $32.9 \pm 11.2$  kIU/Lから $86.4 \pm 17.4$  kIU/L ( $p < 0.05$ 、対前値)と両群ともに福祉ネイル後に有意な上昇を認めた(図2)。

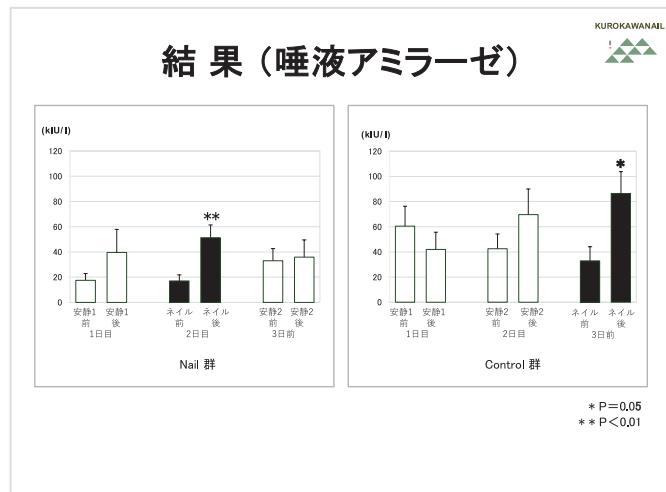


図2. 結果(唾液アミラーゼ)

2) POMS2 における Nail 群の「VA-活気・活力」について、介入前の平均値が  $51.17 \pm 7.83$  であった

のに対し、介入後の平均値が  $60.75 \pm 9.63$  へと有意に上昇した ( $p < 0.01$ )。また「TA-緊張・不安」について、介入前の平均値  $52.25 \pm 9.45$  と介入後の平均値  $43.50 \pm 5.85$  とを比較検討した結果、顕著な低下が認められた（図 3）。なお、Control 群の POMS2 下位尺度 8 項目全てにおいて前後での有意差は認められなかった。

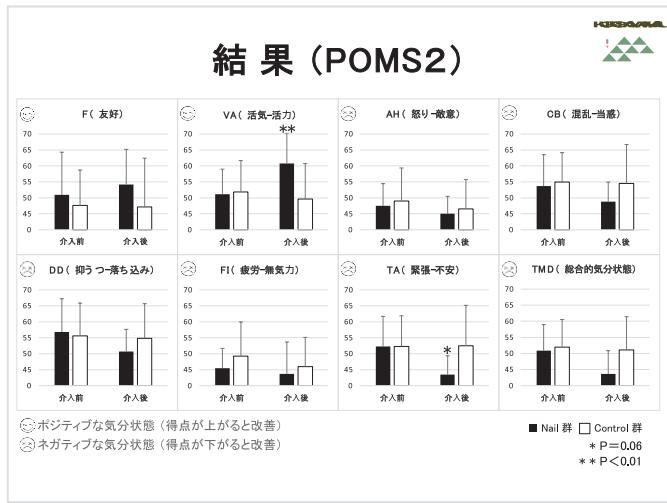


図 3. 結果 (POMS2)

## 5. 考察

今回、福祉ネイル介入において、対象者の主観による POMS2 指標では、AH(怒り・敵意)以外の 7 項目において改善傾向が確認され、特に TA (緊張・不安) 得点の顕著な軽減、そして VA (活気・活力) 得点の有意な上昇が認められた。客観的指標としての唾液アミラーゼ値では統計学的に有意な上昇が認められた。クロスオーバー法による検討では、順序効果はなく、純粋に福祉ネイルが各指標の改善に影響したと判断できる。福祉ネイルの効果が、POMS2 では全般的な気分が評価され、唾液アミラーゼ値では交感神経機能が反映されたと考えられた。

従来、唾液アミラーゼ値はストレスによって上昇し<sup>4)</sup>、自律訓練によるリラクセーションではその低下が報告されている<sup>5)</sup>。一方で、身体運動<sup>6)</sup>やエキサイティング<sup>7)</sup>なゲームでは唾液アミラーゼを上昇させることができると報告されている。このことは、唾液アミラーゼは必ずしもストレスの反映ではなく、その機序は不明であるが身体活動や精神活動によって自律神経活動の変化を介して変動が起こることを示している。病院でのネイル介入は対象者にとってエキサイティングな快刺激であり、交

感神経機能を反映する唾液アミラーゼが有意に上昇したと言えるのではないか。特に今回のネイルケア介入のような wellness といった陽性の感情変化での観察は報告がなく、今回の福祉ネイルによる唾液アミラーゼ値上昇は、POMS2 で得られた全般的な気分の改善により、精神活動に何らかのプラスの影響を与えたと考えられる。

また、福祉ネイルは実施時のみならず、様々な効果が期待される。顔や髪に施す化粧は鏡を通してしか見られないが、マニキュアは鏡を必要とせず、場所や時間に影響を受けずに介入後の爪を見ることが出来るメリット<sup>8)</sup>、1 ヶ月に渡って指先に彩りが続くことによる長期的な効果、見舞い家族とのコミュニケーションのきっかけを作り出すことなどが挙げられる。リハビリテーションには投薬や検査等といった治療に加えて、理学療法士や作業療法士、言語聴覚士による生活自立に視座したトレーニングが重要であり、それには対象者の意欲も必要となる。そのため、快刺激としての福祉ネイルは、リハビリテーションのモチベーション向上にも有用となる可能性がある。福祉ネイルは、マニュキュアやアートを自分の好みで選択することができ、20 分という短時間の触れ合いやコミュニケーションで自然と笑顔や活力が生まれる。

以上のことから、福祉ネイルはリハビリテーション中の女性患者を支える「新しいカタチ」として、入院患者への医療的ケアの一つとなると考えられる。

## 6. まとめ

福祉ネイルは、患者の主観による POMS2 において、緊張-不安感を軽減し、活気-活力を増加させる傾向が確認され、客観的指標である唾液アミラーゼ値を上昇させた。福祉ネイルは長期の入院生活においての快刺激となり、患者にプラスの影響を与えることが確認された。

## 引用文献

- 水上静, 安達佳子, 神谷千春, 山本詠子, 畠山実鈴, 押川なおみ, 中林美奈子:回復期リハビリテーション病棟における高齢者に対してのレクリエーションの効果 ストレス評価指標(唾

液アミラーゼ)を用いて.

リハビリナース 1(2): 219-222, 2008.

- 2) 佐藤三矢:(2018) 科学研究費助成事業研究成果報告書, 認知症の行動・心理症状に対するマニキュア療法の有効性の検証, 2023年8月4日閲覧,  
<https://kaken.nii.ac.jp/ja/file/KAKENHI-PROJECT-26502018/26502018seika.pdf>.
- 3) 堤谷めぐみ, 小川奈美子, 若林紋, 他: 化粧やネイルケアが高齢者のライフスタイルやQOLと免疫能の向上に及ぼす影響, コスマトロジー研究報告(16), p. 76-86, 2008.
- 4) Nater UM, Rohleder N: Salivary alpha-amylase as a non-invasive biomarker for the sympathetic nervous system: current state of research, Psychoneuroendocrinology, 34, p. 486-96, 2009.
- 5) Kiba T, Abe T, Kanbara K, et al.: The relationship between salivary amylase and the physical and psychological changes elicited by continuation of autogenic training in patients with functional somatic syndrome, Bio Psycho Soc Med, 11: 17, 2017.
- 6) Koibuchi E, Suzuki Y.: Exercise upregulates salivary amylase in humans (Review), Exp Ther Med, 7, p. 773-777, 2014.
- 7) Hamed Aliyari et al.: The Beneficial or Harmful Effects of Computer Game Stress on Cognitive Functions of Players, Basic Clin Neurosci, 2018.
- 8) 坂本将徳: 認知症高齢者におけるBPSDとQOLの改善を目的としたマニュキュア介入～準ランダム化比較試験を用いた検証～, 第1回(学術)研究集会演題抄録集(一般社団法人日本保健福祉ネイリスト協会), p. 5-6, 2019.

# 認知症高齢者への継続的な福祉ネイル介入における効果検証

角尾友美<sup>1)</sup>, 高橋慶香<sup>1)</sup>

1) 日本保健福祉ネイリスト協会

キーワード：福祉ネイル，認知症，ハンドトリートメント

## 1. はじめに

近年、福祉ネイルが世間に少しずつ広がりを見せ、にわかにテレビや雑誌に取り上げられるようになってきているが、全国で活躍するようになっている福祉ネイリストが、福祉ネイル介入による対象者への研究成果をまとめた抄録の存在を知っているだろうか。私は日本保健福祉ネイリスト協会（JHWN）の研究集会の全ての演題抄録集を手に取って熟読した。そして、私も自分の手でネイル介入の効果検証をしてみたいとの思いに駆られた。抄録を読んで興味をもった演題は「認知症高齢者を対象とした取り組み」である。私は介護福祉士として認知症グループホームに勤務しており、ネイル介入によって、認知症を呈する目の前の利用者様のBPSDの減少、認知症の改善に効果があるのであれば、実施すべきであると感じた。

第1回研究集会で発表された研究の中に、対象者に対して効果の期待できる取組みを6ヶ月以上持続させることができた場合には、対象者における前向きな行動変容を示す可能性があるという報告<sup>1)</sup>がある。しかし、これまでの演題において福祉ネイリストによる認知症高齢者を対象とした6ヶ月間の継続的な介入による効果を探索した報告が存在していない。そこで今回、本研究を企画しトライアルを実施した。

## 2. 対象

対象は認知症グループホームに入所する8名の認知症高齢者とした。性別の内訳は男性1名、女性7名であり、対象者の年齢は79歳から96歳であった。

## 3. 方法

### 1) ネイル介入期間・頻度

介入期間を6ヶ月間とし、2週間に1回の頻度で

計12回の福祉ネイル介入を実施した。男性対象者とネイルをしたくないという対象者には、ハンドトリートメントを行った。

### 2) 介入内容

9本の指に対象者の好きな色のポリッシュを塗布し、そのうち1本の爪にアートすることとした。アートは、対象者と一緒に考え、できる限り希望のものを描く（健康観察のため1本は塗布を避けた）。

### 3) 使用した評価尺度

I. 認知機能の評価：MMSE

II. 認知症の行動・心理症状：DBD

III. 生活の質の評価：QOL-D

IV. 施設スタッフへのアンケート

※この他に日中生活の表情や会話の変化から客観的な評価の実施も試みた。

### 4) 評価頻度

- ・ネイル介入の1か月前にはI～IIIの評価を実施。
- ・ネイル介入中は1ヶ月に1回の頻度でI～IIIの評価を実施。
- ・ネイル介入後にIVの評価を実施。

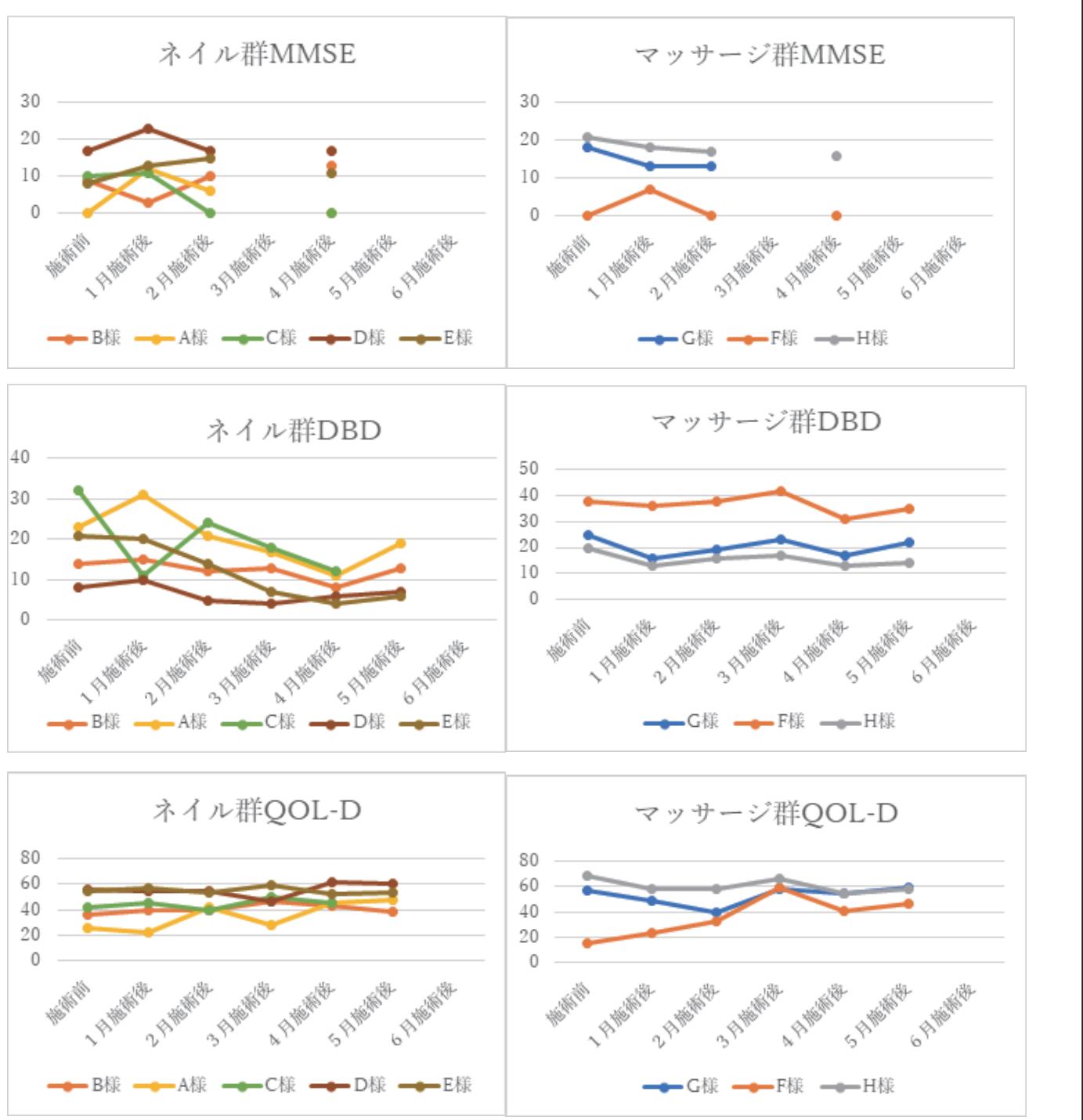
## 4. 結果

I, II, IIIの評価結果の推移を図1に示した。なお、IVのアンケート結果を以下に列挙する。

### 1) 施設職員からの回答(11名うち男性2名)

- ①ネイル介入が始まってから利用者様に変化はありましたか。
- ・ネイルを喜んで見ている：8名
  - ・ネイルにあまり関心を示さない：3名
  - ・ネイルをしていることに困惑している：1名
  - ・その他

こちらからの声掛けで気にされる。はじめは気にされているがそのうち気にしなくなる。あまり爪を見ている様子はない。



※現場職員間での新型コロナウィルス感染による行動制限に伴い、6ヶ月目の施術は行なえなかった。

図1. MMSE, DBD, QOL-D の推移

- ②ネイルをしている利用者様への声掛けに変化はありましたか
- ・変化なし：0名
  - ・ポジティブな声掛けが増えた：11名  
(例／可愛いですね・お若い証拠ですよね・よくお似合いでしょ・オシャレしてどちらにお出かけですか？・素敵なお手本ですね・心が嬉しくなります・利用者様の喜ぶ反応をみることができます・嬉しくなるなど)

- ③施設に入居している利用者様がネイルをすることにメリットを感じますか。
- ・羨ましい：2名
  - ・話題が増える：7名
  - ・褒めやすい：6名
  - ・その他  
(施設のアピールになる・綺麗にすることは年を重ねても嬉しいことだと思う・写真に残すことができて家族に喜ばれる・面会時の話題になるなど)

④施設に入居している利用者様がネイルをすることにデメリットを感じますか。

- ・不衛生：0名
- ・爪が長くなりやすい：5名
- ・健康観察しにくい：2名
- ・特になし：4名
- ・その他  
(爪の長さの把握ができない・チアノーゼが分かれにくいなど)

⑤メリットとデメリットはどちらが大きいと思いますか

- ・メリット：7名
- ・デメリット：0名
- ・同じぐらい：4名

⑥ネイルをしている利用者様のことで気づいたことがあれば教えてください。

(利用者様同士の会話が増えて良いなと思う・他者から褒められてうれしそうにしている・ご自身の爪の長さを気にされるようになられた・爪を切っていいのか迷う時がある・喜ぶ方と戸惑う方がいた・ネイルを見ることで楽しく生活できると思う・本人の活性化につながると思うなど)

#### 【各対象者の変化】

●ネイル群：A様(要介護4/アルツハイマー型認知症)

令和4年4月に要介護5の認定を受ける。返事はできるが内容の理解は乏しいとの判断であった。A様は、特に洒落が好きだった等の情報はなくネイル介入を開始。食事・排泄以外の時間はご本人の強い希望により、居室で臥床して過ごされる。入居間もなかったこともあり、介護拒否や飲水拒否等も時折みられた。初回のMMSEは「わからない、わからない」とパニックになられ0点。ネイル介入は居室で臥床しながら行い、臥床していても疲れたと介入を拒まれることもあった。続けていくうちに、ベッド上で手を天井に仰ぎ、「きれいね！」「塗ってもらったの！」とおっしゃられることが増える。

また、鏡を見てご自身から整髪に取り組む、入念に手を洗う等の行為が少しずつ増えてくる。「伊勢丹に行かなくちゃ！」等、言葉数の少ないA様が想起回想されることもあった。「もうちょっと、この爪をつけてみたいの。」「ちょっと爪が伸びてから切ってほしい」等、身だしなみに関する発言が増加。今では、他利用者様とレクリエーションに参加され、楽しそうに雑談できるようになった。そして、1日の臥床時間が少しずつ減少し、令和5年の認定調査では要介護5から要介護4になった。また、6か月後にはネイル介入も居室で臥床せずにを行うことができるようになる。MMSE評価はその時の体調の様子によってお断りされることがあったため、実施できない月もあった。QOL-D評価は少しずつ増加、DBD評価も少しずつ減少。要介護4となった直後の4月から5月にかけてのDBD評価の点数が上がってしまっているのは、夜間排泄がおむつ交換からトイレができるようになり、今までと違った行動障害がでてきたためである。

●ネイル群：B様（A様の姉/要介護2）

A様と一緒に令和4年11月に入所される。A様と一緒に八百屋を経営されており、おしゃれやネイルはしたことがないとのことだった。ネイルをする際は色を選ばれ、素敵ねと喜ばれるが、生活面での変化はあまりみられなかった。ただし、自発的な他者とのコミュニケーションは少ないが、日中は居室ではなく人が多く集まる食堂でテレビを見るなどして過ごされる事が多かった。QOL-D評価、DBD評価を見ても6か月間あまり増減の無い結果となった。

●ネイル群：C様(要介護5/前頭側頭型認知症)

昔お洒落が好きだったとの情報があり、初回はネイルをとても喜ばれる。普段は爪切りが苦手だが、ネイル介入の際は快く爪切りをさせてくださいた。ただし、体調が悪いときはネイル介入 자체を拒否されることがあり、体調のいい時間を選び、手の拘縮が辛くない様車椅子に直接クッションを付けるなどして対応した。素敵ですねとお声がけすると、その時は喜ばれるが、それ以上はない。手洗いの時に、時々ネイルを見られていることはあつ

たが、自発的にネイルの話をされることはなかつた。体調にむらがあり、MMSEを気分よく受けてくださるときとそうでない時があった。また、DBD評価では、排泄トラブルの解消により施術前から1月施術後にかけて点数が減少している。体調不良で入院され、6月の介入と評価は中断。

### ●ネイル群：D様(79歳)

お洒落が好きだったとの情報はなく、ネイルをしたことはないけれども、せっかくだからやってみたいとのことで、ネイル介入開始。派手じゃないものを選ばれるが、少しずつラメのあるものにも興味を示される。

始めは恥ずかしがっていたアートも半年後には拒否なく描かせてくれる。ただ、時々どうして爪に何か塗ってあるのかと疑問にもたれ、職員に質問することがあり、その都度説明を行うことで困惑されるという事はなかった。他利用者様と爪の話をする時はキラキラした表情をされる。今回使用した評価では表しにくかったが、他利用者様との共通の話題としてのコミュニケーションツールとして利用している。

### ●ネイル群：E様(96歳)

昔よくネイルをしていたとのことで、ネイル介入をとても喜ばれる。派手な色は好まず、始めはアートにも興味はなかったが、次第にラメ入りやアートにも挑戦されるようになる。昔ネイルをしていた頃の話など思い出されて、嬉しそうに話される。ネイル介入直後は、“お金を払わないと！”と普段よりも転倒リスクが増えてしまうが、無料券を配布するなどして、安心してネイル介入できる環境を整えた。自発的に爪を布で磨き、手の光を持続させようとする行動が増える。QOL-D評価は6か月通して一定であり DBD評価は減少傾向にあるが、4月に転倒され、ネイル介入が途中で中断している。その後骨折による情緒不安定も落ち着きネイル介入を再開している。

### ●トリートメント群（F様G様H様）

トリートメント群におけるF様は、1月の時点では入居して間もないこともあり、コミュニケーションがうまくとれない状態であった。MMSEの評価は実施できなかつたが、DBD評価の数値は高い値から徐々に下降していき、QOL-Dによる評価の数値は上昇していった。

トリートメント群におけるG様とH様は、3つの評価が共に同じような傾向が認められており、6ヶ月間を通して顕著な変化は認められなかつた。トリートメントを行った直後は「とても気持ちが良かった」・「ありがとう」・「話を聞いてくれて嬉しかった」などの感謝の言葉をかけていただいた。

## 5. 考察

### 1) アンケート結果に関する考察

アンケート結果より、利用者様へのネイル介入が、利用者様だけではなく、施設スタッフにも良い影響を与えたと考える。施設スタッフの前向きな変化は、行動制限のあるコロナ禍では特に利用者様にとって良好な環境の変化であると思われる。また、利用者様自身がネイルを希望され、介入を行う環境であれば「困惑される、あまり爪を気にしていない」等のアンケートの回答は減少すると予想される。

また、ネイル介入のデメリットとして「爪が長くなりやすい・健康観察しにくい」といった回答があげられたが、「2週間後には必ずオフを実施する」・「オフをいつでも誰でもできる環境を用意する」・「特に健康観察が必要な利用者様の場合には爪磨きやクリアカラーで対応する」等の配慮することで、メリットとデメリットが同じくらいだと感じるといった評価は今後減少するのではないかと考える。

### 2) 対象者（ネイル群）に関する考察

A様について、要介護5から要介護4になったことは大きな変化であった。施設スタッフの日々のケアや独居生活から集団生活になってきたこと、排泄コントロール等状態が良くなつたことも深く関わってはいるが、ベッドからきれいな指先を見つめて「きれいね！」と笑顔になられる毎日の“良い感じ”である時間を6ヶ月間以上持続させたことが、前向きな行動変容を示すような変化となり、A様の生活に影響を与えたと言えるのではないだろうか。

その一方で、B様はA様と一緒に入所されており、A様と姉妹であるにもかかわらず大きな変化がみられなかつた。このことについては、B様は入所当初から他者とコミュニケーションをとることができ、テレビなどに関心を持つことができたからではないかと考えられる。つまりネイルがB様にとっての感動や刺激にまでは至らなかつたのではないかと推察される。

B様と同様に、C様はお笑い番組が大好きであり、テレビを見て笑っていることが多く、ネイルが新たな刺激となって生活面での変化にまで至らなかつたのではないかと考える。

D様とE様に関しては、もともと、BPSDが少なく、QOLも高いことから変化がわかりにくいが、目中の生活に物足りなさを感じているという共通の課題があつた。D様に関しては自発的にネイルの話題を出されるまでには至っていないが、ネイルをした後はとても嬉しそうな表情をされていた。爪を磨く行為を始められたE様に関しては、転倒等による環境の変化がなければ、今回の結果と異なる内容に至つたかもしれないと考えられる。

ネイル自身が人から与えられたものとしてではなく、活動を頑張った報酬（ご褒美）としてのネイルやトリートメント等、今後はネイルにプラスアルファの価値を付けて介入を行つてみたい。

### 3) 対象者（ハンドトリートメント群）に関する考察

トリートメントを実施した直後は感謝の言葉をかけていただいたが、ネイル介入よりも視覚的なフィードバックが少なかつたためか、介入 자체があまり記憶に残らなかつた。ネイルに無関心な利用者様がトリートメント群となつたが、視覚的フィードバック効果を感じていただくために今後は爪磨きを試したい。

## 6.まとめ

6ヶ月という期間は、季節や環境の変化、体調や精神面での変化、転倒や入院、コロナの行動制限といった様々な要因によって利用者様の環境が一定ではないことを再確認した。今回、利用者様それぞれの気持ちに寄り添つた介入方法を創意工夫しながら 6ヶ月間の介入を続けることができた。

MMSE、QOL-D、DBDといった評価を今回は用いたが、その評価では測れない効果があつたと感じる。効果があつた利用者様は、爪がきれいなことに何らかの感動を感じられた方ではないかと思う。利用者様の変化によって施設スタッフの変化も感じることができた。今後、外出に出かけたり、ご家族や外部の方と自由に面会したり、指先を見ていただく機会があれば更に効果が上がる可能性はあると思われる。興味本位で手がけた研究活動であったが、6ヶ月間の継続的な介入と評価を行うことは、非常に大変なものであった。何度も挫折しそうになったが、最後まで続けることができたのは、ご家族様からの同意書がきっかけであった。8名の方それぞれに症状や家族環境が違つてはいるものの、全てのご家族及び後見人の方が同意してくださり、その思いに応えたい一心で続けることができた。これからも、目の前の一人一人の方の人生が、今よりもさらに輝きあるものになるようにサポートしていきたい。

## 引用文献

- 1) 杉岡美奈：重度の重複した障がいを有する対象者における短期間のネイル介入による QOL の高まりについて-顕著な視覚障害を有するシングルケースにおける心身機能の変化に関する検討 -. 日本保健ネイリスト協会第 1 回学術研究集会演題抄録集, pp. 19-20. 2019
- 2) 高橋慶香, 中尾将吾, 杉岡美奈 他 : パイロットスタディ ; 認知症高齢者を対象として「彩爪介入」を用いた「回想法の効果検証」を目的とした取組み. 日本保健ネイリスト協会第 3 回学術研究集会演題抄録集, pp. 1-7. 2022
- 3) 高橋慶香: 彩爪介入が認知症高齢者と家族(主介護者)に与える影響に関する検討. 日本保健ネイリスト協会第 3 回学術研究集会演題抄録集, pp. 54-59. 2022

# ハンドトリートメントに使用する保湿剤の高齢者の肌への影響に関する研究

柴田葵衣<sup>1) 2)</sup>, 土橋麻子<sup>1) 2)</sup>, 伊藤裕紀子<sup>1) 2)</sup>

1) 合同会社フルリール 福祉ネイルスペース Petal, 2) 日本保健福祉ネイリスト協会

キーワード：ハンドトリートメント，保湿剤，水分量，油分量

## 1. はじめに

皮膚の機能は年齢とともに低下するため、高齢者の皮膚は成人と比較して脆くなり、皮膚トラブルが発生するリスクが高まる。そのため、高齢者には日常のケアの中で皮膚トラブルを予防するスキンケアを行うことが必要である。そのためには予防が第一選択であるが、皮膚障害や皮膚トラブルが発生した場合には、皮膚の健康を回復させることが重要となる<sup>1)</sup>。

そのスキンケアの一つとして、福祉ネイリストの施術で行っているハンドトリートメントは「皮膚トラブルを予防するスキンケア」として喜ばれている実態がある。

加齢に伴って皮膚は乾燥しやすいのが一般的であり、ドライスキンとも呼ばれる皮膚乾燥は、表皮最外層にある角層中の水分量の減少による結果である。ドライスキンになると水分蒸発量が増加したり、かゆみを発生させたりする<sup>2)</sup>。藤野ら<sup>3)</sup>によれば、保湿剤はドライスキンに対する支援方法の一つとして推奨されており、高齢者の肌には保湿が重要であること考えられている。

日本保健福祉ネイリスト協会（JHWN）では、以前は「ホホバオイル」を使用してハンドトリートメントを行っていたが、皮膚により水分を与えることが可能なゲルクリームを使用することとなつた経緯がある。

そこで今回、ゲルクリームが高齢者の肌に対して、どの様な影響があるかを検証したいと考えた。

また今回、高齢者の肌に対してオイルとゲルクリームを混ぜてハンドトリートメントを行った場合と、単体でゲルクリームを使用した場合とで効果の差があるのか否かを知ることを通じ、ハンドトリートメントを実施するうえでの高齢者の肌に最適なものを提案することに繋がるのではないかと考え、本研究を実施した。

## 2. 対象

特別養護老人ホームあす～る吹田を利用されており、ハンドトリートメントの施術を行うことに承諾が得られた69歳～97歳までの男女26名を対象者とした。介入を開始し、2回連続で施術を行うことができた23名を最終的な研究対象とした。

## 3. 方法

ハンドトリートメントで使用する保湿剤の種類を変え、肌の水分量と油分量の計測を行った。まず、1週目の介入時には右腕に「①オイルを36滴のみ」とし、左腕には「②クリームを3gのみ」を使用してハンドトリートメントを施術した。そして2週目の介入時に右腕に「③クリームを3gとオイル2滴を混ぜたもの」、左腕には「④クリームを1.5gとオイル18滴（半々）を混ぜたもの」を使用してハンドトリートメントを施術した。

ハンドトリートメントの施術前には、保湿剤を塗布する前の肌の水分量・油分量の計測を行い、保湿剤を塗布しハンドトリートメントの施術を行った「直後・施術から30分後・1時間後」も同様に計測を実施した（図1）。計測器は、Anyty（エニティ）社製のモイスチャーチェッカー3R-MCA01を使用し、計測場所は前腕内側手首から指3本分とした。

計測結果から、使用した保湿剤①～④における水分量と油分量を「施術前・施術直後・施術から30分後・1時間後」の平均値について、水分量と油分量の保湿剤ごとの変化を比較した。

26名中2回連続で対象となつた23名を研究対象としたが、計測器の不具合により10名の記録に欠損値が生じた。そのため、対象の23名から欠損値が生じた10名の記録を除いた13名の記録から平均値を出しグラフ化を行つた。

得られた数値の解析として、施術前と施術1時間後の差についてT検定を用いた比較検討を実施した。

- ・使用する保湿剤
- ①オイル36滴のみ
  - ②クリーム3gのみ
  - ③クリーム3gとオイル2滴のMix
  - ④クリーム1.5gとオイル18滴（半々）のMix

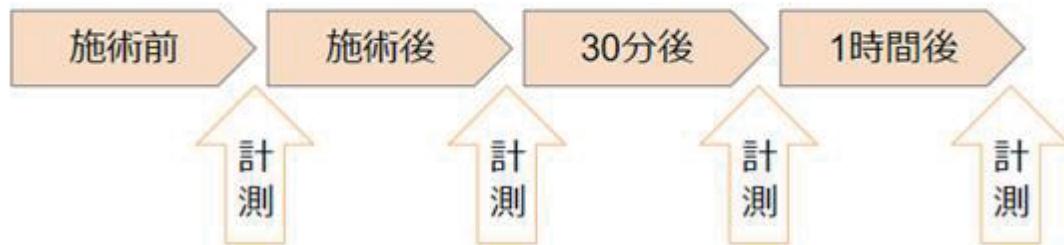


図1. 使用した保湿剤と計測方法

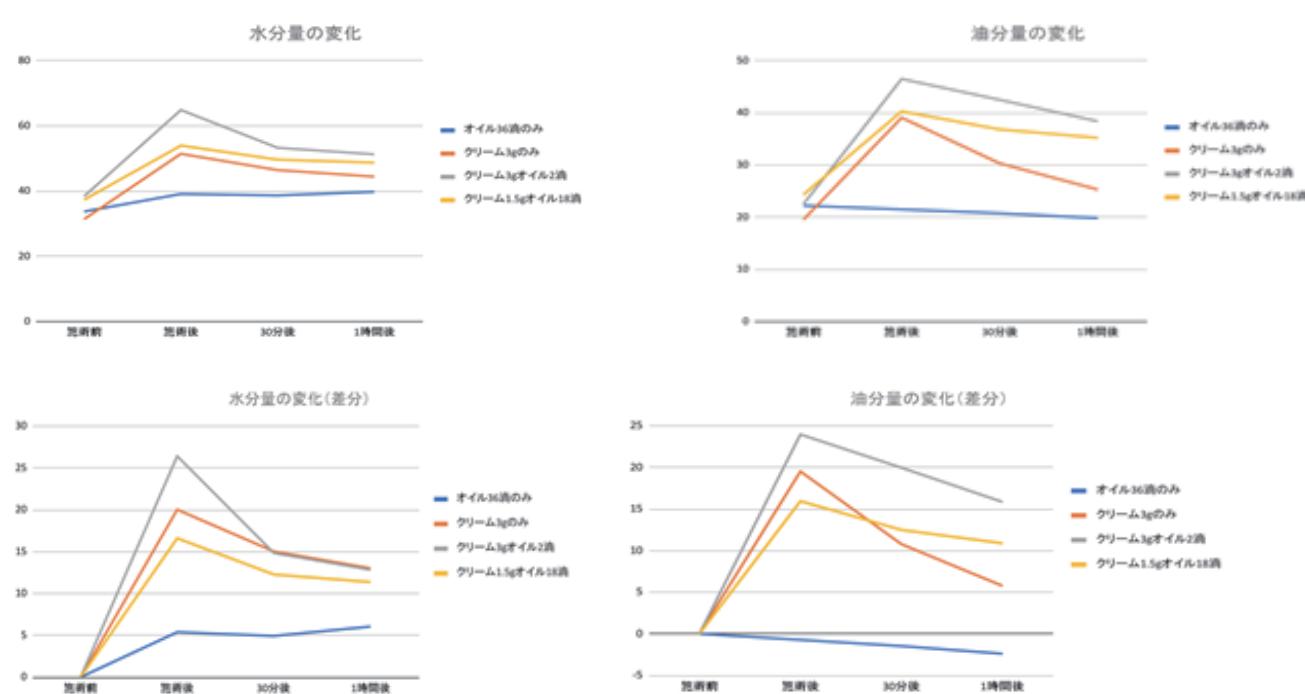


図2. 保湿剤における水分量および油分量の推移

#### 4. 結果 (図2, 表1)

水分量・油分量ともにクリーム3gにオイル2滴を混ぜた保湿剤が最も保湿が継続できていた。油分量を保ち続けようと思えば、クリームのみではなくクリームに少しでもオイルを混ぜた保湿剤を使用することが効果的である結果となった。水分量は使用した4種類の保湿剤全てで有意差がみられた。油分量に関しては、オイル36滴のみの保湿剤を使用したときの油分量のみ有意差が見られな

かった。

#### 5. 考察

水分量においては、T検定から使用した4種類の保湿剤全てのp値が0.05以下であったため有意差がみられ、施術前の肌の状態よりはどちらかの保湿剤を塗布しハンドトリートメントの施術することで、1時間後も保湿効果が出ていることが分かった。

## 対応のあるT検定

### 水分量 (%)

オイル36滴のみ	クリーム3gのみ	クリーム3gオイル2滴	クリーム1.5gオイル18滴				
t値	-2.7588	t値	-6.3966	t値	-5.6294	t値	-5.8839
p値	0.0173	p値	0	p値	0.0001	p値	0.0001

### 油分量 (%)

オイル36滴のみ	クリーム3gのみ	クリーム3gオイル2滴	クリーム1.5gオイル18滴				
t値	1.5256	t値	-3.2477	t値	-5.4519	t値	-5.9808
p値	0.153	p値	0.007	p値	0.0001	p値	0.0001

表 1. 統計解析の結果

油分量に関しては、オイル 36 滴のみ以外の保湿剤では有意差が見られたため、水分量と同様に保湿効果が出ていることが分かる。オイル 36 滴のみの保湿剤を使用してハンドトリートメントの施術をした時の油分量を見ると、施術前の肌の状態よりも施術直後から 1 時間後にかけて数値が下がっている。しかし、T 検定で確認したところ有意差はないという結果が出た。そのため、グラフで見るとオイル 36 滴のみの保湿剤を使用してハンドトリートメントを行うと油分量は元の肌の状態より悪くなっているように感じるがそうではなく誤差であることが証明された。この誤差は、測定位置のズレ等が考えられる。

検定結果から、水分量は T 値 -6.3966 のクリーム 3g のみが最も効果があったことが分かるが、クリーム 3g オイル 2 滴でも -5.6294、クリーム 1.5g オイル 18 滴でも -5.8839 とクリーム 3g のみと比較してもほとんど差は見られず、水分量はクリームを含むことで高い保湿効果が得られることが考えられる。

皮膚に対して、より水分量を与えることを目的として従来のオイルからクリームの使用に変わった背景があったが、今回の研究結果からもクリームのみの単体使いでも水分量は比較的高い結果が得られた。

しかし油分量を見てみると、クリームのみの単体使いでは他の保湿剤よりも維持されていない事が分かる。そのため、油分量も保ち続けようすると単体使いよりもオイルを混ぜた保湿剤を使用

する必要がある。お互いの不足部分を補い合えるため単体使いよりも、混合して使用する方が水分量・油分量の両方でよりよい結果が得られたと考える。

水分量の変化をみてみるとクリームのみで施術した時も継続して保湿されているが、油分量での変化を見てみると、クリームのみでは継続して高い数値が得られない為、クリームのみを使用したハンドトリートメントではなく、クリームにオイルを少しでも混ぜた保湿剤を使用することが高齢者の肌には適していると考えられる。しかし、クリームとオイルの割合を半々（クリーム 1.5g、オイル 18 滴）の保湿剤を使用してハンドトリートメントを行った時には、使用感にべたつきを感じられ、施術後には「拭き取ってほしい」という声もあり、結果からもオイルの割合が多いほど保湿されるとは言い辛く、べたついた状態のままでは転倒のリスク等も考えられるため、クリームの量に対して、オイルの割合が多ければよいとは言い切れない。

クリーム・オイルともに単体使いよりも両方を混ぜた保湿剤を使用した方が、水分量・油分量の保湿の継続が見られた。混合の保湿剤はクリーム 3g オイル 2 滴、クリーム 1.5g オイル 18 滴(半々)の 2 種類のみだったが、オイル 18 滴から 2 滴の幅は広く、オイルの量をクリームの量に対して半分まで増やしてしまうと使用感にも施術されている人にもべたつきが感じられるとともに、結果としてもそこまで継続的な保湿効果はないことから、

混合する時のオイル量はクリームの量に対して半分以下が望ましいと考える。

26名中2回連続で対象となった23名を研究対象としたが、計測器の不具合により同じ数値が計測された10名の記録を省き、正常な数値が得られた残りの13名の記録から平均値を出した。そのため、23名全ての記録から平均値を出すことが出来ていればより細かく正確な結果が得られていたと考える。1週目と2週目で天候も異なり、フロアの気温に大きな差はなかったが湿度は約20%近くの差が生じたため、1週目に使用したクリーム3gのみ・オイル36滴のみの時よりも、2週目に使用したクリーム3g オイル2滴・クリーム1.5g オイル18滴の方が、施術前の高齢者の肌の水分量・油分量の平均値が高く、保湿剤によるバラつきが見られた。緊張からくる発汗等の個人差だけではなく、気温や湿度などで結果が大きく左右される事が分かった。そのため、保湿剤を2種類ずつ2週に分け計測するのではなく同じ日に4種類の保湿剤を使用した施術を行い計測することで、保湿剤の種類による施術前の平均値のバラつきを少なくすることができ、バラつきが生じたとしてもそれは湿度や個人差が主な要因として考えられる。

## 6. まとめ

今回の研究では、水分量・油分量ともに高い保湿効果を得るために単体使いよりもクリームにオイルを混ぜた保湿剤が最適であることが分かった。また、水分量・油分量や使用感など総合的に見ると今回使用した保湿剤の中ではクリーム3g オイル2滴の配合が最もよいのではないかと考えられるが、気温や湿度等にも左右されることが本研究からは分かったので、クリーム3g オイル2滴を基準にその日の気候や施術場所の湿度、高齢者のその時の肌の状態等に合わせてクリームやオイルの割合を変えて施術する対応が求められる。

本研究は施術直後、30分後、1時間後の時間経過しか計測出来ておらず解析結果から30分後、1時間後の数値に差はみられなかったため、2時間後・3時間後、また翌日など長い時間経過での計測を行い肌の状態を知ることで、継続的な保湿効果を得るためにどのくらいのペースでハンドトリ

ートメントを行うことが最適なのかを今後の研究に繋げていき、使用する保湿剤、施術ペース等全てにおいて最適なハンドトリートメントの施術を今後も探求していきたい。

## 謝辞

本研究実施にあたりまして、ご協力を賜りました対象者およびハンドトリートメントの施術者の皆様方、研究協力施設におけるスタッフの皆様に心より御礼申し上げます。また、計測器を貸していただいた株式会社ベルマン様に深謝致します。

## 引用文献

- 1) 一般社団法人 日本保健福祉ネイリスト協会 テキスト
- 2) 葛西さとみ、加賀麻衣子、山田紀代美：施設入所高齢者の皮膚の乾燥症状に関する実態と主観的及び客観的データとの関連. 北日本看護学会誌 6(1) : pp. 11-18. 2003
- 3) 藤野由紀子、安田智美、道券夕紀子 他：在宅高齢者の予防的スキンケアに関する研究-保湿成分入り入浴剤とローションの比較-. 富山大学看護学会誌 15(2) : pp. 105-116. 2016

# 子育て中（未就園児）の母親への福祉ネイル介入の効果 ～子育て世帯の育児ストレス軽減へのアプローチ～

石井智子<sup>1)</sup>

1) 日本保健福祉ネイリスト協会

キーワード：福祉ネイル，子育て，育児ストレス，アンケート調査

## 1. はじめに

福祉ネイリストとしての活動領域を広げるべく自分自身の育児経験（育児不安、ストレス）をふまえて、福祉ネイルが子育て中の母親に対しても寄与できることがあるのではないかと考え、このたび未就園児のお子様を持たれている母親を対象とした福祉ネイル（マニキュアカラーリング）の施術を実施し、アンケート調査を実施する取り組みを行ったので報告させていただく。

### 【研究の目的】

アンケート調査を実施し、育児の負担度と施術満足度との関連性の検討を通じて、子育て中の母親への福祉ネイル介入の有効性について探究する。

### 【意義】

少子高齢化が社会問題として指摘されている本邦において、福祉ネイルの活動を高齢者の方以外にも拡大していくことの有意性を示すことができれば、福祉ネイリストが社会問題の解決に寄与する糸口を見出すことにつなげることができる。

## 2. 対象

千葉県柏市における地域子育て支援拠点事業「はぐはぐひろば若柴（子育て支援センター）」に通われている就学前の3歳児以下の子供がいる母親（77名）を対象とした。

## 3. 方法

対象者の母親に対して福祉ネイル（マニキュアカラーリング）の施術を行い、施術後と施術1週間後の2時点において、同内容のアンケート調査を実施した。施術時間を1人15分と設定し、施術内容としてはファイリング・マニキュアカラーリング10本（アートなし）とした。施術中、お子様の対応を施設職員様に行っていただいた。

施術時間を1人15分と設定した理由としては施

設職員様と相談を重ねたところ「母子分離がまだ難しい育児期間であること」を鑑みれば通常の施術時間よりも短くすることが望ましいことが考えられたためである。そのため、爪を彩る事に重点を置き、施術時間を15分間とした。

施術直後に1回目のアンケート調査を実施し、施術1週間後に同じ内容のアンケート（別紙①）を施設様専用のアプリで利用者様に配信していただき、2回目の回答を行っていただいた。

## 4. 結果

施術した77名の母親にご回答いただいた結果を以下に示す。

表1. 参加者様の年齢層と人数

10代	20代	30代	40代	50代
0名	23名	48名	6名	0名

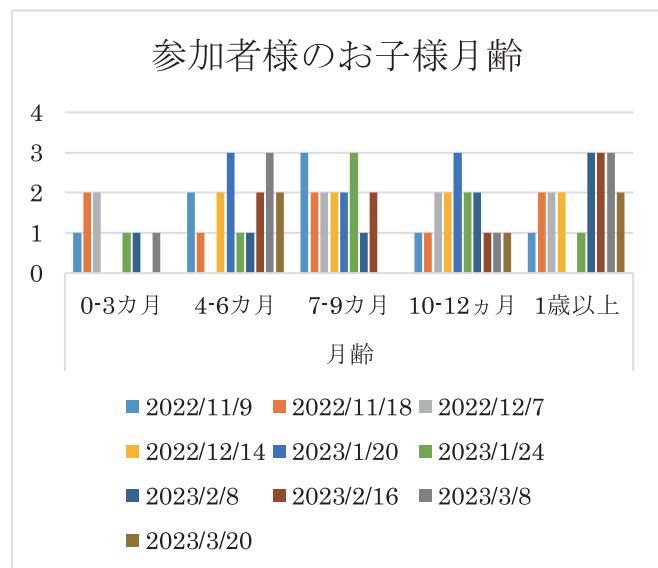


図1. 月齢分布



図2. 母親一人あたりの子供の数

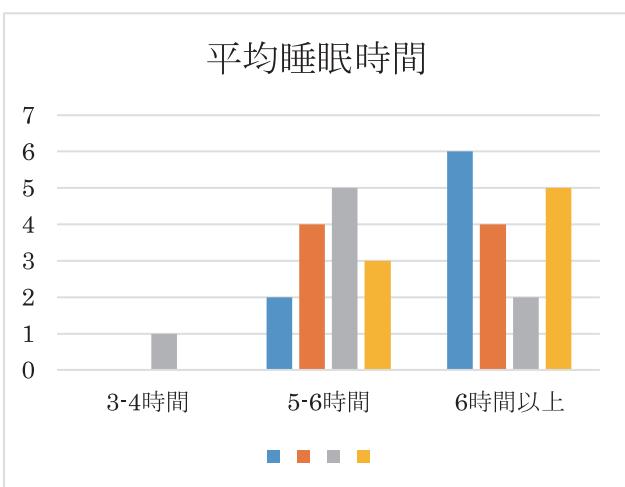


図3. 母親の平均睡眠時間

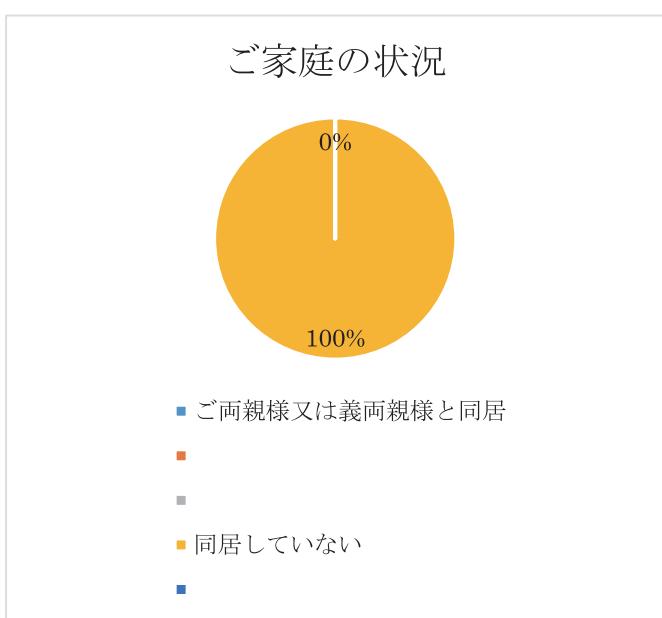


図4. 同居者の有無

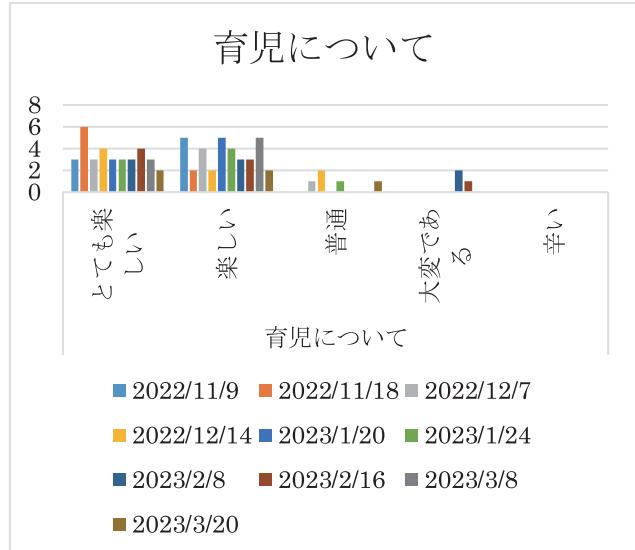


図5. 育児に対して抱いている感情

施術満足度の結果を図6と図7に示す。また、得られた自由記述のコメントを用いてAIテキストマイニングを活用した可視化を試みた(図8)。

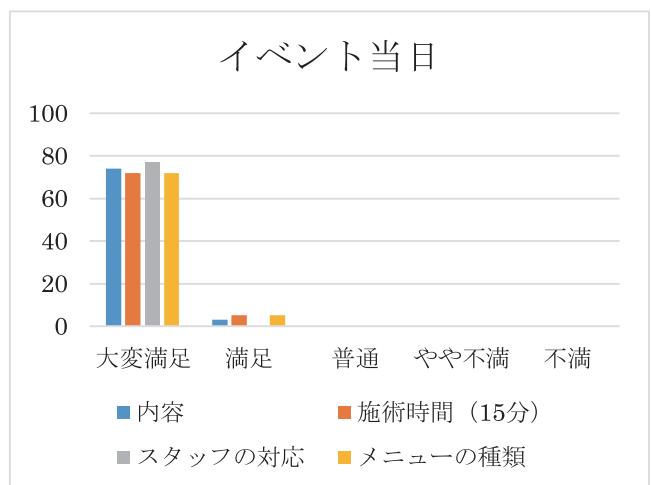


図6. 施術の満足度(イベント当日)

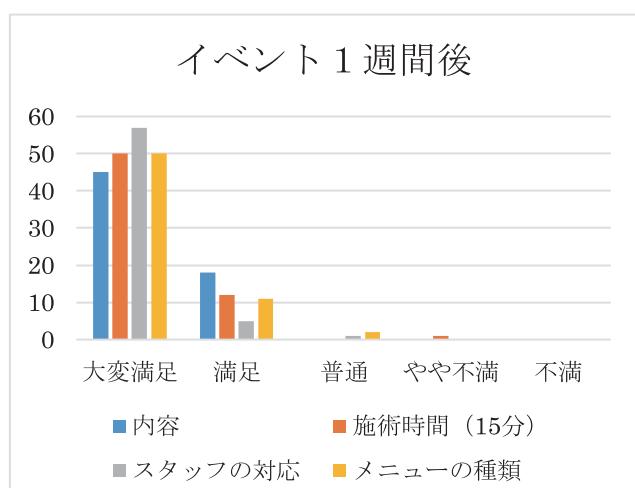
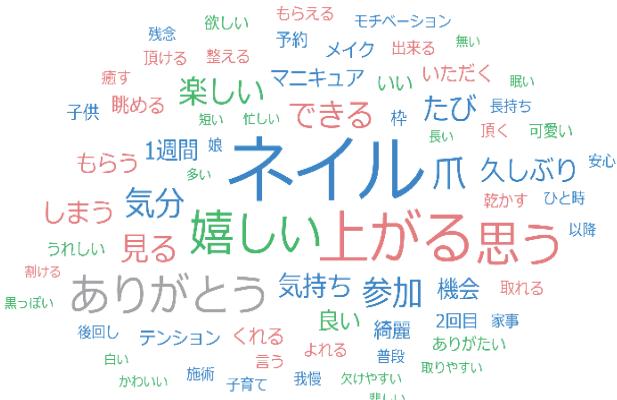
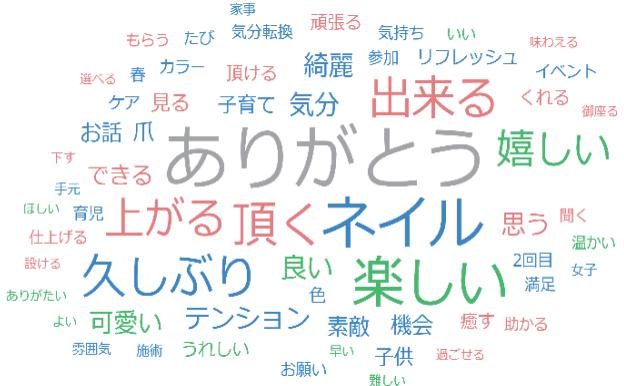


図7. 施術の満足度(イベントから1週間後)

## ●イベント当日



## ● イベント終了1週間後



使用サイト：株式会社ユーザーローカル(<https://textmining.userlocal.jp/>)

## ●イベント当日



## ●イベント終了後1週間



使用サイト：ワードクラウド(<https://wordcloud.jp.com/>)

## ●イベント当日



### ●イベント終了から1週間後



使用サイト：株式会社ファンブライト(<http://lab.fanbright.jp/>)

図8. AIテキストマイニングを活用した可視化

## 5. 考察

### 1) 本取り組みの対象者

今回、全 77 世帯すべてが核家族として生活をされており、1 世帯当たりの子供の人数は平均 1.28 人であった。2022 年 6 月に発表された令和 3 年（2021）人口動態統計月報年計（概数）の概況<sup>1)</sup>によると、2021 年の合計特殊出生率は 1.30 であることから、本取り組みにおける対象者における 1 世帯当たりの子供の人数は全国平均より下回っているものの同等の状況であることがわかった。

また、育児負担度に関するアンケート結果では、育児に対して 89.6% の母親が「楽しい」または「とても楽しい」と回答していた一方で、約半数にのぼる母親（46.8%）が毎日の平均睡眠時間が 6 時間未満であった。このことから、核家族であることが要因となって育児負担が母親に集中していることが推察され、精神面においては育児に対する肯定的な感情を抱きながらも、身体的には負担度が高くなっているかもしれないと思われる。

### 2) 施術に対する満足度

次に、施術への満足度については、施術当日が 100% の方が「満足」または「大変満足」と回答し、施術 1 週間後は有効回答率が 81.8% ではあったが回答者全員が「満足」または「大変満足」と回答されており、マニキュアカラーリングによる精神的な満足度は 1 週間程度は高い水準で維持できる可能性が伺えた。

また、AI テキストマイニングによる視覚的な結果からも、精神的に前向きな感情を表すポジティブな言葉が多かったり大きくなったりして表れており、施術当日と施術後 1 週間の図（3 つのサイトでの実行結果の比較）からも顕著な変化が見られないことから前述の「マニキュアカラーリングが精神面に寄与する肯定的な効果が 1 週間程度は維持される」という考察内容を支持していると考える。ただし今回、マニキュアカラーリングにおける「よれやすい」・「剥げる」・「欠けやすい」といった課題も挙げられており、このような点を可能な限り解決できるような介入方法を検討していくことが重要と考えられる。

今回の調査では、全ての調査対象が核家族であったことから、育児負担度については家庭間での差異はなかったことに加えて、施術満足度については全ての回答者が「満足している」と答えた事実が存在している。よって、子育て中の母親への福祉ネイル介入は育児中の精神面におけるリフレッシュや育児への意欲向上へ繋がり、継続的に介入していくことは意義のあることであると推察された。

### 3) 高い満足度に繋がった理由

今回の結果に繋がった理由としては、イベントの開催場所である子育て支援センターはぐはぐひろば若柴様の施設職員の方々が、施術時は子供を完全に預かって頂ける環境を実現して下さり、母親も施術時間は一人の時間を担保され、精神的にリラックス出来たことが大きく寄与していると考えられる。私は 3 人の我が子の育児経験を有しているが、子供向けのイベントは非常に多くの施設でも開催はされているものの「母親向け」のイベントは少ない傾向にあるのが実情であった。そのため育児期間中は自分一人で気分がリラックスできたりリフレッシュできたりする機会が少なく、睡眠時間の少なさとあいまって育児に対してネガティブな感情を抱くこともあった。そのような状況の中、私は育児に行き詰まった時にネイルをすることで気分がリフレッシュし、一時的にプラスの感情に自分を導くことが出来た経験があり、今回のイベントの立ち上げに至った。

今回、私自身の育児経験の中でネイルに救われたことを施設職員の方々に共感していただけたことによって、このイベントの立ち上げを実現することが出来た。そのため、イベントが実施されている際には、取り組みにご協力いただいた施設側の方々においても今回のイベントの目的や意義を十分に共有（共感）していただくことに繋がっていた。このような「スタッフ間での目的意識の強い共有」は、私自身の一人よがり的な取り組みに陥ることなく、良好な結果を生み出させていった大きな要因の一つであると考えられるため、今後何らかのイベントを起動させ、健全に遂行していく上で重要なポイントであると強く認識した。ま

た、今回の調査では子育て支援センターはぐはぐひろば若柴様の施設利用者を登録・管理するためのアプリを用いて施術1週間後のアンケートを配信と回答集計が実現できたことは、イベント参加者の手間を最小限に省くことに繋がり、結果として80%以上の有効回答率が得られることも非常に有意義であった。

施術中に3名の母親から言われた印象的な言葉があり、「育児しているお母さんは世界で一番孤独だと思う」というものがあった。実際、核家族では夫が仕事から帰宅するまでの時間帯においては、子供が言語を発することもままならない育児期間中は、コミュニケーションの時間が著しく少なくなり、まともな会話が成立しないことが多い。今回の対象者となった母親の皆様方においても、少なからず同様の状況下に置かれていたことから、福祉ネイルの施術時に福祉ネイリストと手と手が触れあい、目を見て対話をする15分間という短い時間であっても対象者における育児ストレスの軽減傾向が認められ、多くの母親から前向きな気持ちを示す発言を非常に多く導くことが実現できたものと推察される。

#### 4) 福祉ネイリストの社会貢献と職域拡大

日本保健福祉ネイリスト協会（JHWN）では、福祉ネイリストが果たすべきミッションの一つとして「ネイルサロンにご来店いただけない方もとへ出張ネイルサービスを実践する」というミッションが挙げられている。今回の取り組みを通じて福祉ネイルの対象者は高齢者や障がい者のみならず、地域社会における「核家族における子育て中の母親」もネイルサロンへ足を運びにくい背景を抱えており、新たな対象者となりえることがわかった。また、今回のイベント開催のための場を提供して下さった子育て支援センターはぐはぐひろば若柴様のような「公共の子育て支援施設」は全国に多数存在している。

よって、今回のようなスタイルの取り組みを全国的に拡大化していくには、少子化社会における子育て支援という本邦の社会的な問題に対して、福祉ネイルが解決の一助となりえると推察される。そのためには今後、育児ストレスの軽減に繋げる

ための福祉ネイル介入の活動を全国へ展開していくよう、育児経験を持つ福祉ネイリストや同じ志を持っている全国の福祉ネイリストと情報を共有しながら活動の輪を広げていくことが重要であると考えられる。

## 6. まとめ

育児中の母親に対して福祉ネイルの介入が育児ストレスの軽減に繋がる可能性が今回の取り組みを通じて推察された。このことは今後、福祉ネイルの認知度を子育て分野の現場において高めていったり、活動を拡大していったりする際に活用できる有意義な根拠資料となりえる。

本取り組みのような活動を全国的に拡大させることができれば、福祉ネイリストによる社会問題の解決の一助となりえることに加えて、福祉ネイリストの新たな職域拡大へと繋がる可能性が示唆された。

## 謝辞

今回の取り組みにおいて、イベント開催の場所の提供とともに母親へのネイル施術中における子供の見守りや対応、そして一連のアンケート調査の実施において、多大なるご尽力を賜りました子育て支援センターはぐはぐひろば若柴様に心より深謝いたします。

## 引用文献

- 1) 厚生労働省：令和3年(2021)人口動態統計月報年計（概数）の概況. 2023年9月8日閲覧,  
<https://www.mhlw.go.jp/toukei/saikin/hw/jinkou/geppo/nengai21/index.html>

# 美容レクリエーションにおけるネイルの可能性およびビジョンの考察 ～介護現場の職員様へのアンケート調査を通じて～

宮上昌悟<sup>1)</sup>

1) 株式会社 TAT

キーワード：美容レクリエーション、ネイル、介護現場、アンケート調査

## 1. はじめに

私が所属する株式会社 TAT のコンシューマー事業部では「おしゃれだけではない健康としてのネイルの普及」を目的とし、TAT だけではなく他企業と一緒に「ネイルの社会的価値」を創造したいという想いで取り組んでいる。

近年、スポーツや福祉の分野でもネイルの価値が高まってきており、その啓蒙活動に取り組んでおり、実際に産学連携や教育機関におけるアスリートネイルの講座、身だしなみ講座などを実施している実態がある。また、ネイルが持っている効力を活用しての QOL 向上やメンタルヘルスの向上、みだしなみに関する実体験も含めた講座に取り組んでいる。

産学連携の具体例としては 2022 年に通信制高校のクラーク記念国際高等学校様と「ネイルの新しい価値を創造すること」に視座しながら「物事の本質を見極めて社会に出ても活躍できる人材育成」を目的としたプロジェクト型授業にて、日本保健

福祉ネイリスト協会（以下、JHWN と表現）の荒木代表理事と学術顧問の佐藤先生にもご協力いただき、リモート授業の開催を実現できた。

そして今回、介護レク広場を運営する B C C 株式会社様とのご縁により、レクリエーションについてのアンケートを実施することになり、興味深い知見が得られたので報告させていただく。

## 2. 対象（図 1, 図 2 参照）

39 都道府県の 20 代～70 代のデイサービス、有料老人ホームなどに従事する 176 名（このうち介護職員は 94 名）。

## 3. 方法

2023 年 4 月 28 日～5 月 28 日を調査機関とし、介護レク広場の新年度応援キャンペーンにおいて HP 上でのアンケート調査を実施した。アンケート回答者には抽選でプレゼント発送させていただくこととし、アンケート内容は、JHWN の荒木代表理事に共有いただいたものを使用した。

【性別・年齢】

	男性	女性	無記入	合計
20代	1	11	1	13
30代	9	17	2	28
40代	12	54	0	66
50代	7	34	1	42
60代	9	14	1	24
70代～	2	1	0	3
合計	40	131	5	176

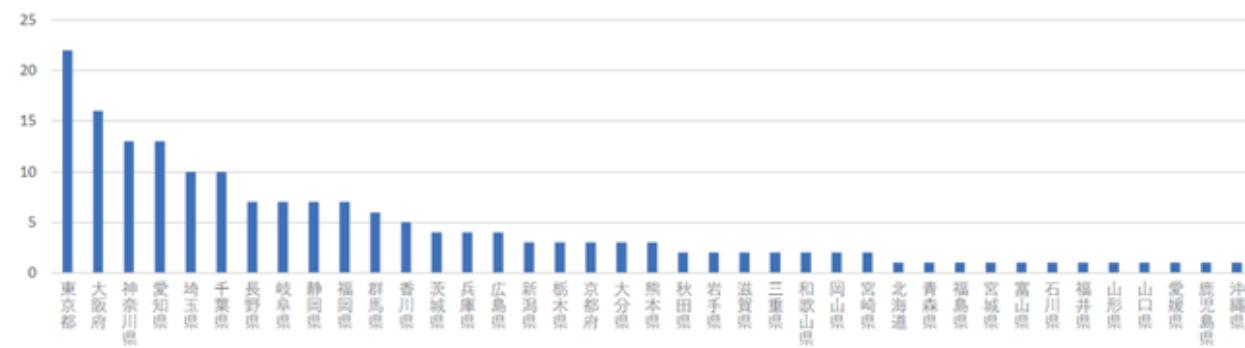
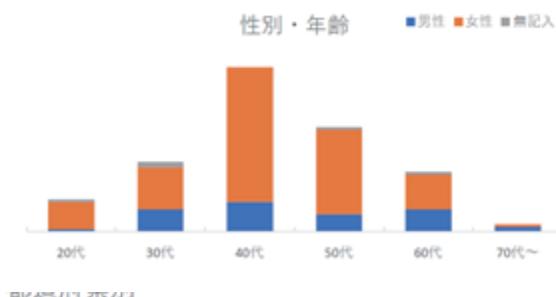


図 1. アンケート回答者の基本属性①（年齢、性別、居住地）

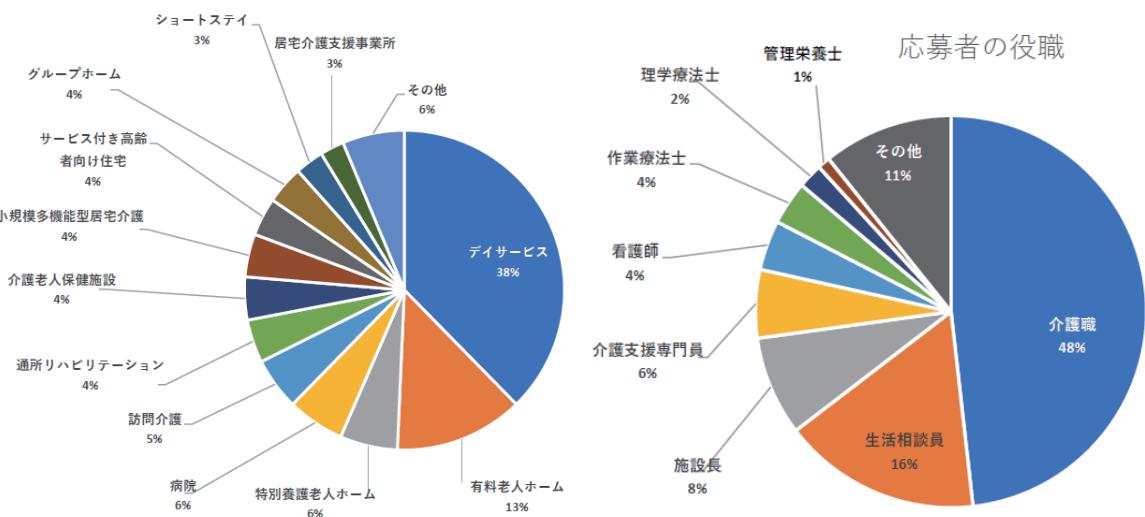
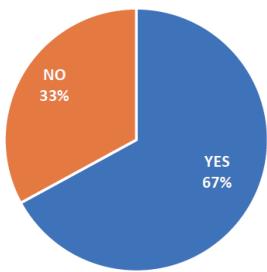


図2. アンケート回答者の基本属性②（所属施設および事業者のタイプ、役職および職種）

Q1. 美容レクリエーションがある事を知っていますか。

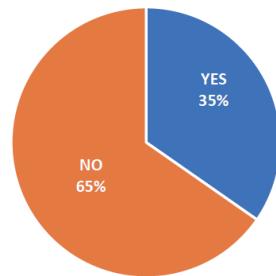
【名前を聞いたことがある程度でも YES】

YES	118
NO	58



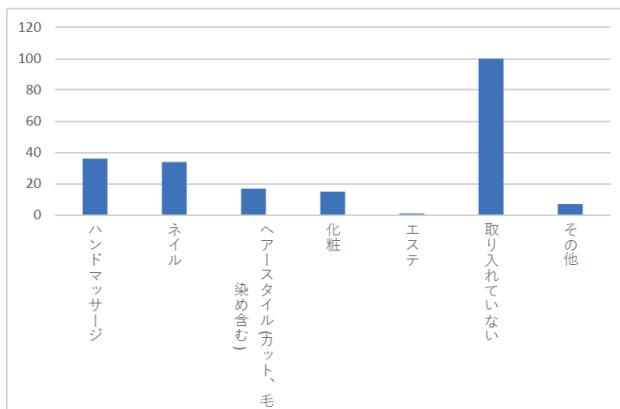
Q2. 何らかの美容レクリエーションを取り入れてますか。

YES	61
NO	115



Q3. 取り入れている方に質問です。どのようなレクリエーションを取り入れていますか。

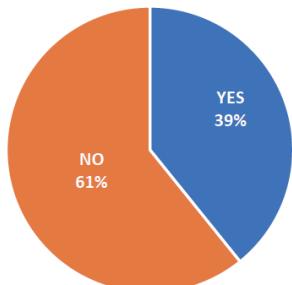
ハンドマッサージ	36
ネイル	34
ヘアースタイル(カット、毛染め含む)	17
化粧	15
エステ	1
取り入れていない	100
その他	7



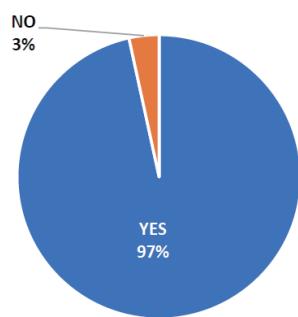
Q4. 美容レクリエーションにおける利用者様の変化についてお伺いします。

利用者様の状態が良くなったと感じる事はありますか。

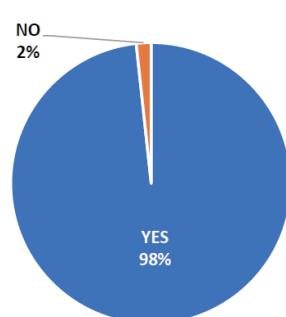
YES	69
NO	107



YES	170
NO	6



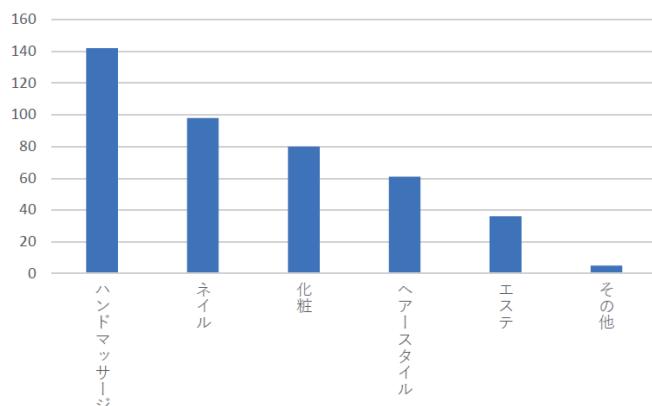
YES	173
NO	3



Q7.今後美容レクリエーションを取り入れるなら何を取り入れたいですか。

【複数選択可】

ハンドマッサージ	142
ネイル	98
化粧	80
ヘアースタイル	61
エステ	36
その他	5



#### その他の内容

フットケア

フットケア 巻爪のケア

身体に刺青のようなかっこいいタトゥーシールなどを貼るレクを取り入れてみたいです。

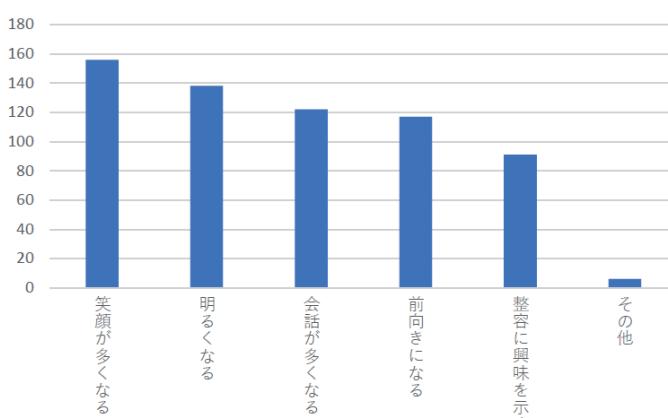
好きな洋服を、着ていただく等、ビューティーチェンジ体験等

足浴もいいなと。エステでやるように、足用バケツにお湯はってお風呂がない日にやれたら

Q8.美容レクリエーションを取り入れることによってどのような効果を期待しますか。

【複数選択可】

笑顔が多くなる	156
明るくなる	138
会話が多くなる	122
前向きになる	117
整容に興味を示す	91
その他	6



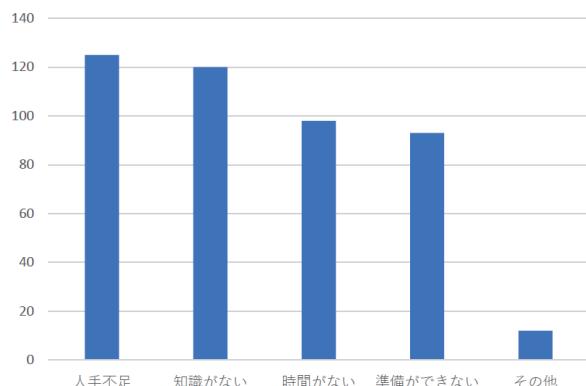
#### その他の内容

- ・自信がつく
- ・気持ちが若々しくなり、色々な創作に取り組む可能性があると思います。
- ・モチベーションが上がる承認。欲求がみたされる。他者から称賛され機会が増えることで
- ・リハビリなどの意欲が上がり、外出も楽しみになったり、日々に目的を持てるようになる。
- ・外出の機会や人と会う機会が増える。特に女性は、いくつになっても綺麗になると人に見て欲しくなったりするのではないか、と思います。
- ・ご家族との交流が増える。（ご本人が綺麗になる事で面会や外出への意欲が出たり、ご家族もそんなご本人を外に連れていきたくなる…かも。）・爪割れやスキントラブルなどを防止する観点や、良い香りや身嗜みが整う事でQOL向上に繋げていきたい。

Q9. 美容レクリエーションをする為に問題や課題はありますか。

【複数選択可】

人手不足	125
知識がない	120
時間がない	98
準備ができない	93
その他	12

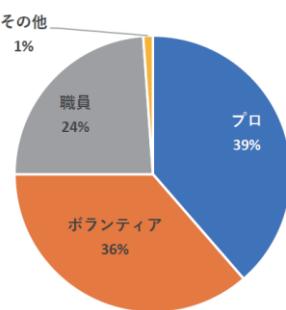


他の内容

- 職場の理解
- コスト
- 感染症対策。
- お金がない
- 費用、対費用効果
  
- ご家族からのクレームも不安材料です。
- 材料代があまりでないかもしれない
- 男性の利用者様がいて、美容に興味を持たれない可能性がある。
- アレルギーなど敏感肌の利用者が何人いるか把握していない
- 女性のネイルや化粧に代わる、男性の方へのレクが無い為、取り入れにくく、無難に誰でも大丈夫なハンドやヘアスタイル等になってしまふ気がします。
- 加算対象などにならないので美容レクリエーションをやっても会社にはメリットが少ない。備品の購入や職員の人出が取られ、通常の業務の妨げになる場合もある。日常的に行うレクリエーションというよりイベントとして年に何回か行うのが限界。

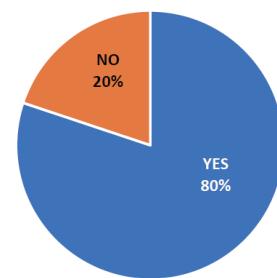
Q10. 美容レクリエーションをするなら誰(またはどのような団体)に頼みたいですか

プロ	68
ボランティア	64
職員	42
その他	2



Q11. 美容レクリエーションを知るセミナーがあれば参加してみたいですか。

YES	141
NO	35



他の内容

- 本当はプロにお願いしたいのですが、金銭的な問題もあるので、ボランティアさんか格安なお値段で、というのが本音です。
- 全員に一斉にできるレクとは違い、個別のサービスだとその時間はサービス提供時間として算定できるのかわからないから、スタッフがするしかないのではないか。

図3. アンケートの質問項目による回答結果

#### 4. 結果

今回のアンケートの回答者は40代～50代女性が全体の約半分（88名）となっており、都道府県

では東京都（22名）、大阪府（16名）、神奈川県（13名）、愛知県（13名）の順に多く回答が集まった（図1）。

なお、アンケートの質問項目ごとに対する具体的な回答内容については図3を参照していただきたい。

## 5. 考察

### 1) 美容レクリエーションの潜在的なニーズ

今回のアンケート結果からは、美容レクリエーションを必要とする潜在的なニーズを把握することが出来た。アンケート項目にある「Q2 何からの美容レクリエーション取り入れていますか?」における「No」の回答が115名であるのに対して、「Q5 の介護現場において美容レクリエーションは必要だと思われますか?」への「Yes」の回答が170名という結果となり、この数字は伸びしろの可能性があるものと考えられる。

回答事業者の属性として多く確認することができたデイサービス・有料老人ホームなどは、従来から日中における時間割の中にレクリエーションを取り入れているところが多く存在している。また、有料老人ホームは他の事業所との差別化を目指し、付加価値としてのレクリエーションを探しているとの見解があることを株式会社BCC様からヒアリングすることができたので、ターゲットとしては間違いない属性であると感じられる。

アンケート項目のQ4について「美容レクの導入によって対象者の状態が良くなつたと感じる」と回答したのは4割弱という結果となつた。これら約4割の回答者における「美容レクを取り入れた際の変化」について掘り下げると共通のポジティブな見解傾向がみえてきた。キーワードになるのは「明るくなつたこと」と「会話」である。そして共に根底にあるものは「笑顔」ということとなつた。回答者から得られた実際のコメントを以下に示す。

### 「明るくなつたというもの」

- 個人的に爪磨きをさせていただいたところ、・目がキラキラした・爪の輝きがうれしい・手のぬくもりがうれしい。などと喜んでいただけた!
- 今の事業所ではないですが、前職でオイルマッサージ(ハンド)を行っていたり、職員がネイルや化粧をして差し上げたりしていて、大変喜ばれていたり、ご家族様からも明るくなつたなど

お礼のお言葉を頂きました。

### 「会話に関するもの」

- 自宅でお嬢様にネイルをしてもらったというご利用者様は、他利用者様やスタッフと交流される機会が増えたように感じます。
- 女性らしさがup。笑顔がキラキラしている。お話が弾む。いきいきしている。
- ホットタオルをあてただけでも認知症のかたの笑顔がみられたり、ハンドマッサージすると会話が弾んだりと楽しくコミュニケーションとれました。
- ハンドマッサージでは、肌艶や皮膚の強化、内出血の軽減し、リラックスされ、笑顔が増えている。ネイルは、会話する時間が増えて喜ばれているし、指を眺めては明るくなつた。
- 普段無口な人、言葉が出づらい人から言葉が出たり、会話が弾む、無表情の人から笑顔が出たり、感情が豊かになっている。
- 利用者様方同士での会話が弾み、昔自分が化粧をしていた時代の思い出話が盛り上がった。
- 認知症の方の笑顔が増え、他のご利用者様とのコミュニケーションのきっかけになった。
- 普段表情変化や発話しない方が、自分で色を選択し、この指も塗ってなど自発性が出た。認知症で普段落ち着きがなく、暴れることが多かつたがネイルをしている時間は、落ち着き、笑顔がみられた。

### 「その他」

- おしゃれ心に火が付いたようです。服装にも気を配るようになりました。
- 整形に興味が出てきたようです
- 他のプログラムは拒否している人が、化粧の時間は参加するようになりました。
- オシャレに関心を持つようになった。人の目を気にするようになった。
- ご家族様からも明るくなつたなどお礼のお言葉を頂けました。
- 表情が明るくなつた。ネイルは、家族に見せる、病院で、褒められたなど、お話される方がイキイキとされています。

※ご家族への報告など、外出意欲を感じる、繋がる  
ような回答も得ることができた。

## 2) 今後に向けての提案

今回のアンケート調査の結果を鑑み、今後に向けた提案を検討した。ネイルを取り入れた施設や事業所からの実例を見れば、QOL向上に対する喜びの声を多く聞くことができた。さらなる福祉業界へネイルを普及させる為には「より多くの事業所にご理解いただくこと」や「ご家族にも同等に理解いただき、当事者以外も体験していただくこと」も大切であると考える。

課題である人材不足に関しては、外国人の人材や学生でも担えるような福祉ネイリストジュニアのような仕組みを検討してみても良いと考える。

前述の通信制高校のクラーク記念国際高等学校様との产学連携を経て、本来は幼児教育の専攻であったが福祉ネイルを知って社会福祉学部へ編学したという学生も存在しているので、教育機関（福祉関係の学科など）への啓蒙活動も必要であると感じた。以上のことから、未来の成り手を増やすための活動も必要であると感じられる。

そしてハンドマッサージからのネイルサービスへの導線（ステップアップ）や、今後取り入れたい項目のフットケアやフットバスにおける安心安全な商品の提供も必要であると考えらえる。「ハンドケアで手を綺麗にしたら、次は爪のケア」といった具合の流れを従事者の方から提案できれば良いと考える。

美容レクレーションそのものが、様々なカテゴリーとの親和性が高いことから、より認知度を向上させていくためのコラボイベントなどを積極的に実施していくことができれば理想的ではないかと考えられる。

## 6. まとめ

QOL向上という福祉ネイリストの取り組みを継続的に世の中に発信していくこと、未来の福祉ネイリストの育成が必要と思われる。そのためにはネイル業界、福祉業界、学生、外国人など様々な角度からの流入も必要になってくるのではないかと考えられる。

専門知識が必要とされるはずであるレクリエーションの存在を「レクリエーション=単なる遊び」と捉えている事業者もいらっしゃるそうなので、「外出意欲の向上」や「会話で口の運動にもつながるので誤嚥防止になる」などのレクリエーションによる効果に関する部分も事業者側に理解していただくことによって、レクリエーション導入のための予算確保に繋げていく地道な努力が必要である。また、人材開発支援助成金などを活用することによって、福祉ネイリストになるためのカリキュラム受講者の増加に繋がっていく可能性が高まることも、事業者様に知っていたくことの必要ではないかと考えられる。

私どもは今後もネイルの社会的価値を創造していきたい。

# 福祉ネイルの認知度と福祉ネイルの価格に関するアンケート調査 ～初めての爪みがき体験を通して～

岡林華奈子<sup>1)</sup>, 伊藤佳代子<sup>1)</sup>, 多賀由佳<sup>1)</sup>, 小林千夏<sup>1)</sup>

1) 日本保健福祉ネイリスト協会

キーワード：福祉ネイル，認知度，爪みがき，アンケート調査

## 1. はじめに

2021年は新型コロナウイルスの流行によって、すべての施設訪問が休止を余儀なくされた。しかし、マイナス面ばかりではなくZoomを通じて全国の福祉ネイリストと繋がり、普段は単独で活動をしている自分にとっては心強い仲間ができた。福祉ネイリストのコミュニティで情報交換をしていく中で、私自身が抱えていた悩み事が他県の福祉ネイリストと共に通していることに気づいた。

福祉関係の現場においては、外部組織による「レクリエーションの提供に対してはボランティアであれば受け入れる」という感覚が根強く存在しているのが実情である。レクリエーション提供において「費用が発生する」という理由で施設側から難色を示されることが多く、このことが定期的な訪問や利用開始までの過程を阻害することが多い。

そこで、「外部レクリエーションは無料」という印象を打破すべく問題解決に向けての糸口が見つからないかと考えた。まずは福祉ネイルの認知度についての質問と、性別年齢問わず気軽にできる「爪みがき」を多くの方に体験していただき、体験後の時点において「体験したからこそ感じたこと」をアンケート形式で調査した。アンケート調査の結果から有意義な傾向が示されたため、報告する。

## 2. 対象

地域や年齢、性別を問わず初めて爪みがきを体験する10代～90代の男女193名を対象とした。

## 3. 方法

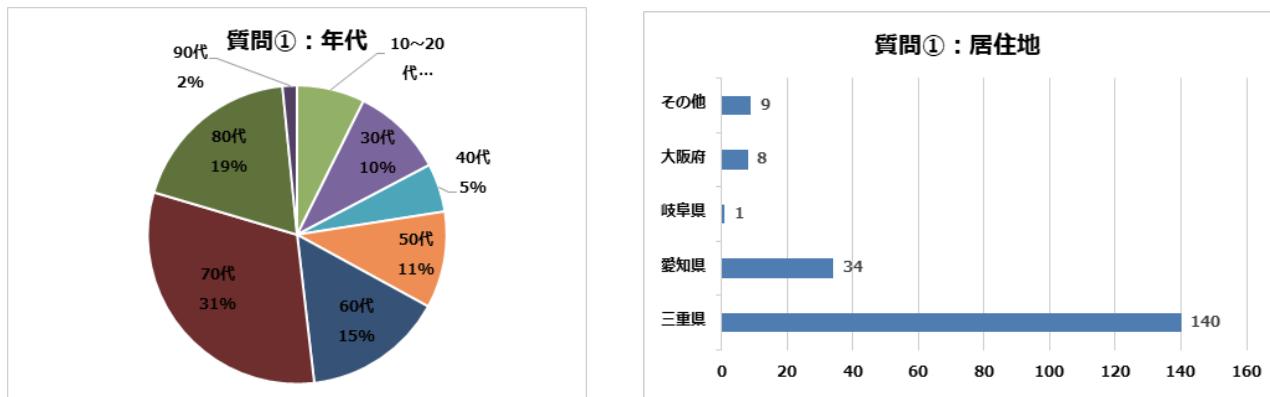
紙媒体の質問形式とし、回答方法を「単一選択・複数選択・自由記述形式」のアンケートとした。質問数は全7項目で、福祉ネイルの印象や爪磨きを体験する前後の感想、価格帯等に関する質問を体験後にアンケート用紙に記入していただいた。

## 4. 結果

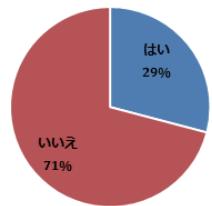
アンケート調査の具体的な結果を別紙グラフに示した。以下は「自由記載項目のまとめ」である。

- ・癒しの時間となった。
- ・あっという間にピカピカにしてもらうことができて感動した。
- ・自分の爪がこんなにツヤツヤになるとは思ってなかつた。
- ・何も塗っていなくても爪がピカピカになるだけで楽しい気分になった。
- ・美容以外で初めて爪のケアをしていただき、ネイルサロンとは違う「ケア重視」で大変嬉しく、勉強になった。
- ・自分の爪がキレイになって嬉しかった。
- ・心地よかつた。
- ・日常の中で子育てや介護などでストレスを感じている人に勧めてあげたい。
- ・気分が上がりました！素敵な活動！メディアに取り上げられたらいいのにと思った。
- ・年代関係なく誰でも勧めたい。
- ・施設の人に勧めたい。
- ・自分でもやってみたい。
- ・爪を気にする仕事なので体験できてよかったです。
- ・気持ちよかつた。
- ・色を塗らなくてもきれいになった。
- ・母や祖母の誕生日プレゼントとしてネイル体験をプレゼントしたい。
- ・福祉ネイルは施設のおばあちゃんが受けるもの、利用するものというイメージで自分は関係ないと思っていた。
- ・誰でもできて通常のネイルサロンよりも本当は敷居が低いものだと感じた。
- ・爪に困っている人に勧めてあげたい。
- ・自分は男性ですが、爪が磨かれることによって気分が上がったりして新しい発見ができた。

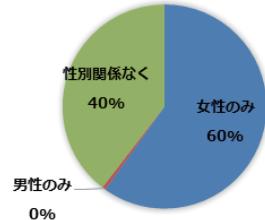
## 【アンケートの回答結果と傾向】



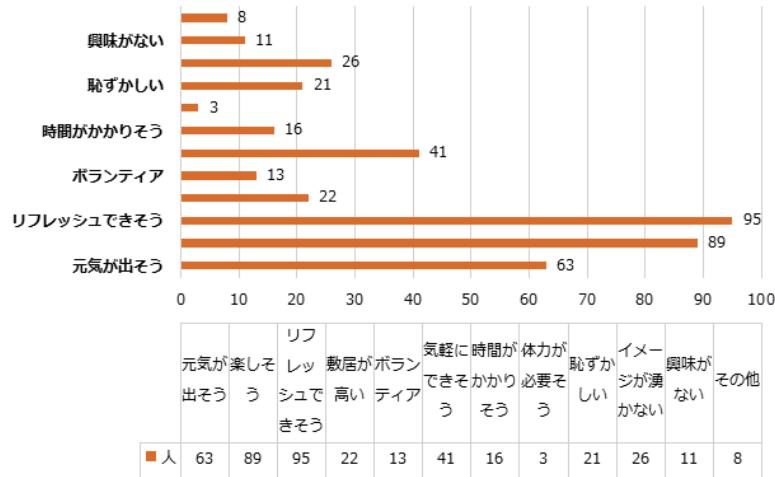
### 質問②：福祉ネイルという言葉を聞いたことがありますか？



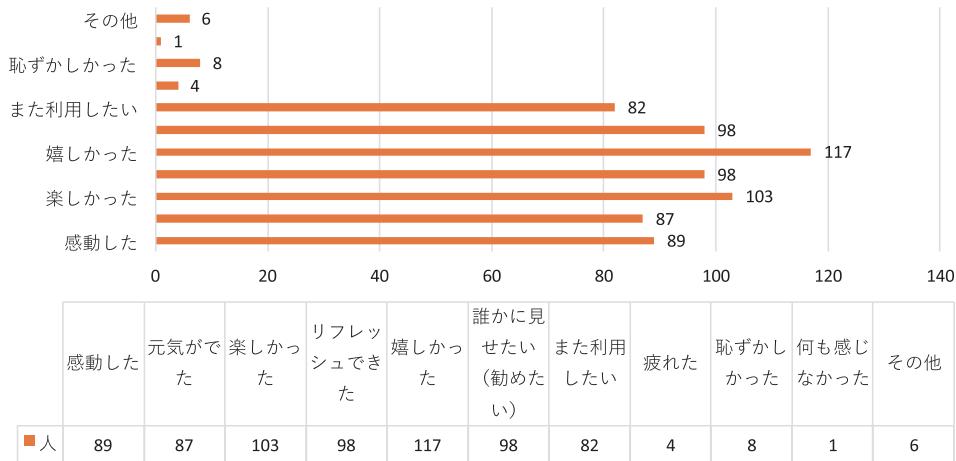
### 質問③：施術対象者のイメージ



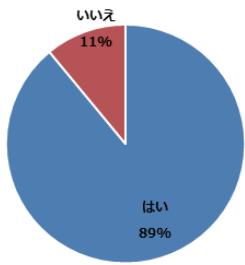
### 質問④：爪みがき体験前の印象



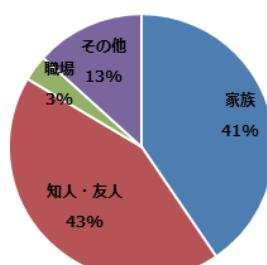
### 質問5：爪みがき体験後の感想



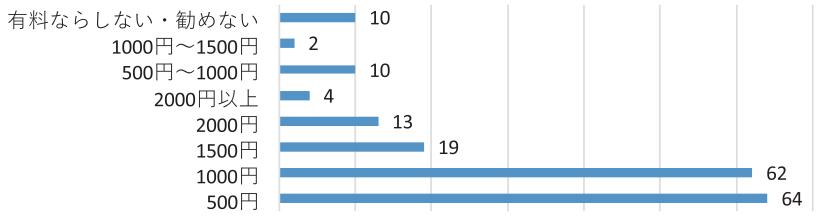
質問⑥：爪みがきを勧めたい人はいますか？



質問⑥：誰に勧めたいですか？



質問⑦：爪みがきはいくらならまた利用したい？他の人に勧めたい？



## 5. 考察

質問②からも分かるように、約7割の方が「福祉ネイルという言葉を聞いたことがない」という結果となり、現段階では福祉ネイルの認知度の低さが浮き彫りとなった。また「ネイル」という言葉を聞くと「マニキュアで爪を彩る」という印象が強く、特に家事をしている方からは敬遠されがちであり、人前で手を出すことに抵抗がある方が多かった。その一方で、「爪みがき」は自身の爪の表面を磨くだけで綺麗になるという手軽さがあり、実際に施術後も綺麗になった爪を見て表情も明らかに変わった体験者様の様子を目の当たりにした。また、周りの方も「やっぱり磨いてもらいたい」という気持ちの変化により、福祉ネイルを知つてもらうきっかけとなつたと感じられる。

今回の主な調査地である三重県松阪市は、日本保健福祉ネイリスト協会（JHWN）の第三回研究集会において報告された「農業従事者が多い地域における福祉ネイルに関する意識調査」の調査地で

ある佐賀県みやき町と共に通点があり、高齢者が3分の1を占める中山間地域であった。今回のアンケート調査にある質問③④⑥の結果では、ネイルに対する需要と施術結果に対する肯定的で前向きな回答が得られている。これらの結果とみやき町での先行研究による結果を比較したところ、福祉ネイル未体験であったことや福祉ネイルに対する印象やイメージが非常に似通っていた。

また、質問④⑤⑥の結果では、体験前は「リフレッシュできそう」や「楽しそう」という意見が多く、体験後は「嬉しかった」、「楽しかった」、「リフレッシュできた」といった肯定的な意見が多く挙がった。そして、体験してくださつた方の約9割が「家族や知人に紹介したい」という結果であった。このような結果となつた理由としては、今回初めて爪みがきを体験し、色を塗らなくとも透明のポリッシュを塗つたような仕上がりになつたことを驚かれたこと。また、自身が予想していた以上の仕上がりで「嬉しさ」や「喜び」の

感情を共有したいという思いに至ったことが影響したと考えられる。

質問⑦の価格帯に関しては、約 35%は 500 円、約 60%は 1000 円または 1000 円以上なら利用したい、との回答となった。500 円と答えた理由の中には、「継続的に施術をしたいためできるだけ安価で施術をしてほしい」や「手頃な価格」という生活していく上での現実的な感想が述べられた。1000 円または 1000 円以上の回答としては、「500 円では安すぎる」「時間をかけてやってもらっているから」などの理由が挙げられており、体験後の感想が価格に反映されているのではないかと思われる。

## 6. まとめ

今回のアンケート調査からは福祉ネイルを知る機会が多いマルシェやイベントへ出向くことが少ない方々が生活圏内で体験会に参加したことにより「福祉ネイル」に興味を持っていただけることや認知度が向上する可能性を伺えた。

現状の営業活動における問題を完全に解決するには至らなかつたが、今回のような「爪みがき」を主軸とした取り組みを長期的に継続していけば、施設に入っている方々のご家族（特に子である 50 代～60 代の方々）が高齢となって介護サービスを利用する際には、福祉ネイルに対しての理解が広まり、費用面に抵抗なく利用していただける可能性が期待できるのではないかと感じた。

## 引用文献

- 1) 平井理沙：農業従事者が多い地域における福祉ネイルに関する意識調査～地域おこし協力隊と福祉ネイル活動のコラボレーションを通じて気づいた福祉ネイルを普及する為の課題～. 日本保健福祉ネイリスト協会第三回研究集会演題抄録集. pp. 13-16, 2022

# 福祉ネイリストによる営業活動で得られたもの

## － 営業勉強会 Neo における営業成績 －

多賀由佳<sup>1)</sup>, 石井智子<sup>1)</sup>, 伊藤佳代子<sup>1)</sup>, 吉田雅子<sup>1)</sup>, 小林千夏<sup>1)</sup>,  
岡林華奈子<sup>1)</sup>, 安井由紀子<sup>1)</sup>, 山内有沙<sup>1)</sup>, 佐藤智美<sup>1)</sup>, 宮嶋真紀<sup>1)</sup>, 荒木ゆかり<sup>1)</sup>

1) 日本保健福祉ネイリスト協会

キーワード：福祉ネイル，営業活動，アンケート

### 1. はじめに

2022年8月～2023年1月まで月1回開催された日本保健福祉ネイリスト協会主催の第1期営業勉強会NEOに10名（活動歴が比較的浅い福祉ネイリスト）が参加した。

#### 【営業勉強会 NEO が目指したこと】

- ・グループで活動することの相乗効果を生み出すこと（例えば、1人で活動するよりもモチベーションが維持されやすくなる）。
- ・目標を数値化して実行する重要性の意識を涵養すること。
- ・活動が停滞している福祉ネイリストに向か、今後の活動を活性化する際に参考となる情報を蓄積すること。

私達は今回、以上の目的を果たすことを念頭に置いた中で活動を行い、この営業勉強会に参加した者に対する効果を検証したので報告させていただく。

### 2. 対象

2022年8月～2023年1月開催の日本保健福祉ネイリスト協会主催「営業勉強会 NEO」に参加した福祉ネイリスト10名。（5名ずつ2チームに分かれて活動）

#### 【Aチーム】

（居住地）愛知：1名、岐阜：2名、三重：2名

※1名が途中離脱

（活動歴）0ヶ月：2名、2ヶ月：1名、8ヶ月：1名、4年：1名

#### 【Bチーム】

（居住地）千葉：1名、神奈川：1名、大阪：2名、福岡：1名

（活動歴）0ヶ月：1名、2ヶ月：1名、5ヶ月：1名、10ヶ月：1名、3年3ヶ月：1名

### 3. 方法

1チーム5名として2チームに分かれ、会社を設立したと仮定。各社、初日に社長、課長、係長を決め、社名、個人目標、会社目標を設定し活動開始した。

※2グループへの社員の割り付けは、日本保健福祉ネイリスト協会（JHWN）の荒木ゆかり理事長によって、それぞれが同等となるよう配慮して決定。

#### 【手順】

①月曜日から日曜日までの1週間単位で、2022/8/20から2023/1/15までの20週間分の期間における

売上・訪問回数・電話回数・筆まめ（お手紙）枚数の4項目について営業勉強会への参加者全員の目標数値と実績数値のデータを記録し、各社の売上トップ1ワースト1の特徴を分析した。

②営業勉強会中の途中離脱者1名にアンケートを実施し、離脱者が出了た要因、今後に活かせることを見出す作業（検討）を実施した。

③営業勉強会中（6週間）と勉強会後（6週間）の営業実績数を出し、営業勉強会が実績にどのように影響を及ぼしたか考察した。

④営業勉強会参加者（途中離脱者除く）へのアンケートを実施し、営業勉強会が福祉ネイリストにもたらす影響、営業活動において大切なことを考察した。

### 4. 結果

①営業勉強会中の成績について（表1）

②途中離脱者へのアンケート結果（表2）

③営業勉強会中と勉強会後の営業実績数（表3）

営業勉強会中において、成績がピークに達したと推察される6週間と営業勉強会直後の3/27～5/7の6週間の売上、営業電話数、訪問数、お手紙数を比較した。営業勉強会中の数値は、A社11月21日～1月1日、B社は11月14日～12月25日のそれぞれの社でピーク時の6週間で算出を行った。

④営業勉強会参加者へのアンケート結果（図1、図2）

### 【A社】

名前 (活動歴)	売上 (円)	訪問回数(回)	電話回数(回)	お手紙数(枚)
C (0 カ月)	5万未満	40	116	148
D (8 カ月)	5~10 万	51	64	179
E (2 カ月)	5~10 万	35	39	95
F (0 カ月) ※棄権	0	9	26	27
G (4 年)	25 万以上	75	65	214

### 【B社】

名前 (活動歴)	売上 (円)	訪問回数(回)	電話回数(回)	お手紙数(枚)
H (5 カ月)	10 万以上	59	145	210
I (3 年 3 カ月)	2~3 万	35	53	123
J (2 カ月)	3~4 万	47	73	121
K (10 カ月)	2~3 万	43	143	67
L (0 カ月)	1~2 万	25	28	103

	チーム内 売上トップ 1
	チーム内 売上ワースト 1

表1. 営業勉強会中の成績について

## 5. 考察

### ①営業勉強会中の成績：売上トップ1とワースト1を比較しての考察

各チーム売上トップ者 2 名の共通点は、お手紙枚数、訪問回数が最多であったことから、訪問回数やお手紙を多く書くことで売上に繋がったと考えられる。

また、両者の工夫した点が以下にまとめた点であったことから、人脈が売上に繋がりやすいと思われる。

#### 【工夫した点】

- 定期訪問が決まったら、系列施設へ横展開して営業をかけた。
- 人脈を増やす。人間関係を振り返る。

(福祉関係の交流会、知人（一見福祉とは無縁な方）もあたった。

一方、チーム内の売上ワースト 2 名の共通点は、活動歴 0 カ月からのスタートであったため、ある程度活動した後、売上に繋がってくるのではないかと考えられる。

### ②途中離脱者のアンケート結果について

アンケートの回答から、営業勉強会への参加、活動は、パソコンの所持の有無、操作に慣れているか、家庭や仕事の環境によって大きく左右される可能性がある。

途中離脱に悔いは「ややある」にも関わらず、再度参加は「しない」ことや、チームメンバーがもっと引きとめていたとしても「辞めていた」と述べられている点から、複数人で活動することが逆にプレッシャーとなり、情報共有はしたいが、営業活動は各々の環境によって自分のペースで行いたい方もいることが推測できる。

### ③営業勉強会中と勉強会後の営業実績数について

営業勉強会後にすべての項目数が減少した。売り上げの減少よりも、電話数、訪問数、お手紙数が著しく減少しており、チームで切磋琢磨して活動していたことにより数をこなせられていたことがわかる。また、一人で活動するよりもチームで活動する方が、営業活動においてよい結果を導き出せると推測できる。

**【質問1】** 営業勉強会前の福祉ネイリストの営業活動に対する気持ちに当てはまるもの全て選択してください（複数回答可）

孤独 楽しい やりたくない 不安 どうしたらよいか分からない どんどん挑戦したい   
怖い 一人で活動したい 情報共有したい チームを作つて活動を活発化させたい

**【質問2】** 営業勉強会前の福祉ネイリストの営業活動に対する気持ちに当てはまるもの全て選択してください（複数回答可）

孤独 楽しい やりたくない 不安 どうしたらよいか分からない どんどん挑戦したい   
怖い 一人で活動したい 情報共有したい チームを作つて活動を活発化させたい

**【質問3】** 退会した理由（複数回答可）

想像していた内容ではなかった 興味がなかった 体調不良 家族の反対 家族の看病 参加者との人間関係 人と関わることが苦手 宿題に苦戦 座学のみだと思っていた パソコン操作などの電子機器類を使いこなせない 時間を割けない（仕事） 時間を割けない（家業） やる気がでなかつた 自分のベースでやりたかった

**【質問4】** 現在、福祉ネイルの営業活動はされていますか？

している していない ※公民館で福祉ネイル施術をしている

**【質問5】** 勉強会を途中離脱されて悔いはないですか？

ある ややある わからない ない 全くない

**【質問6】** 今後、営業勉強会が開催されたら参加されますか？

する しない わからない

#### 【追加口頭質問】

Q：多少の悔いがあるにも関わらず、今後営業勉強会が開催されたら参加しない理由は？

→ あそのまま勢いで頑張れたかもしれないが、また1からやるのは無理

Q：離脱の際にチームメンバーがもっと止めていたら続けていたか？

→ 遣りたい気持ちはあったけれど体がついていかなかった。

子どものことで心労もあったし、やっぱりやめていたと思う。

表2. 途中離脱者に対するアンケートの結果

しかし、訪問、電話、お手紙の件数が減少したにもかかわらず、売上がそこまで減少していないことは、営業勉強会への参加によりコツがつかめており効率よく動けるようになってきたことが推測できる。

#### ④営業勉強会参加者へのアンケート結果について

約8割の参加者が営業未経験にもかかわらず、営業勉強会への参加で約8割が訪問施設を増やすことができた。そのうち約2割が5件以上の訪問施設の増加がみられた。

また営業勉強会後も約7割の参加者に訪問施設数の増加が見られた。営業勉強会中は同じ思いの仲間と切磋琢磨しながら活動することで多くの営業電話をかけたり、訪問したり、お手紙を書いたりすることができていたと感じた。しかし、勉強会が終了すると気が抜けたのか、それぞれの数値が減少した。

営業勉強会に参加したことによって全員がプラスになったと感じており、勉強会前には約5割の参加者に自信がなく、不安、どうしたらよいか分からという参加者が多かった中で、勉強会後には「楽しい」

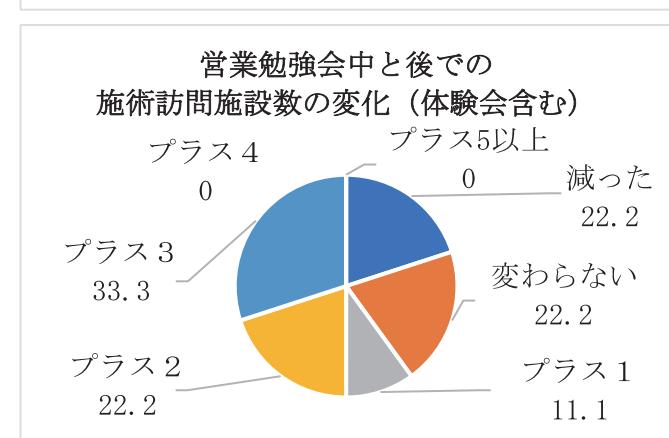
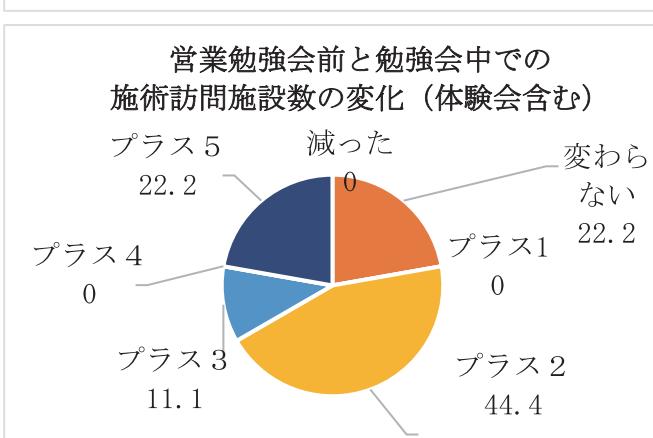
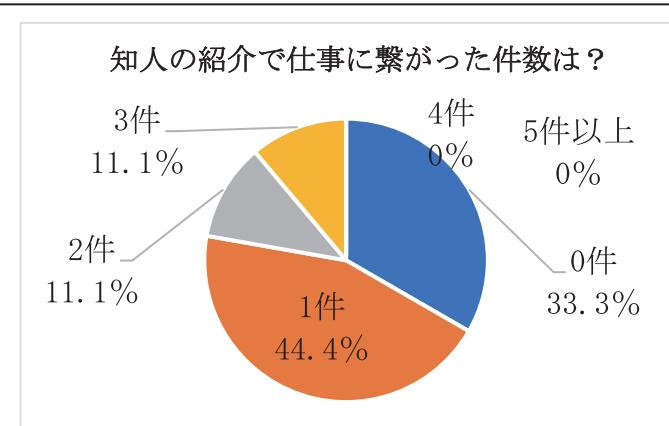
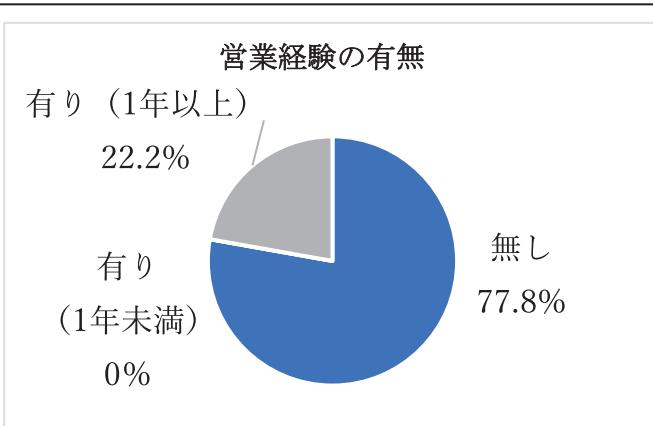
【A社 4名合計】

	勉強会開催中	終了後
売上 (円)	約 16 万	約 11 万
訪問 (件)	72	46
電話 (件)	118	31
お手紙 (枚)	297	67

【B社 5名合計】

	勉強会開催中	終了後
売上 (円)	約 8 万	約 7 万
訪問 (件)	84	32
電話 (件)	193	76
お手紙 (枚)	222	54

表3. 営業勉強会中と勉強会後 (6週間) の営業実績数



営業勉強会中と比べ、勉強会後の実績数の変化 (感覚)

	減った	変わらない	増えた
訪問件数	8 名	0 名	1 名
電話数	8 名	1 名	0 名
お手紙数	9 名	0 名	0 名

図1. 表4-1. 営業勉強会参加者に対するアンケートの結果

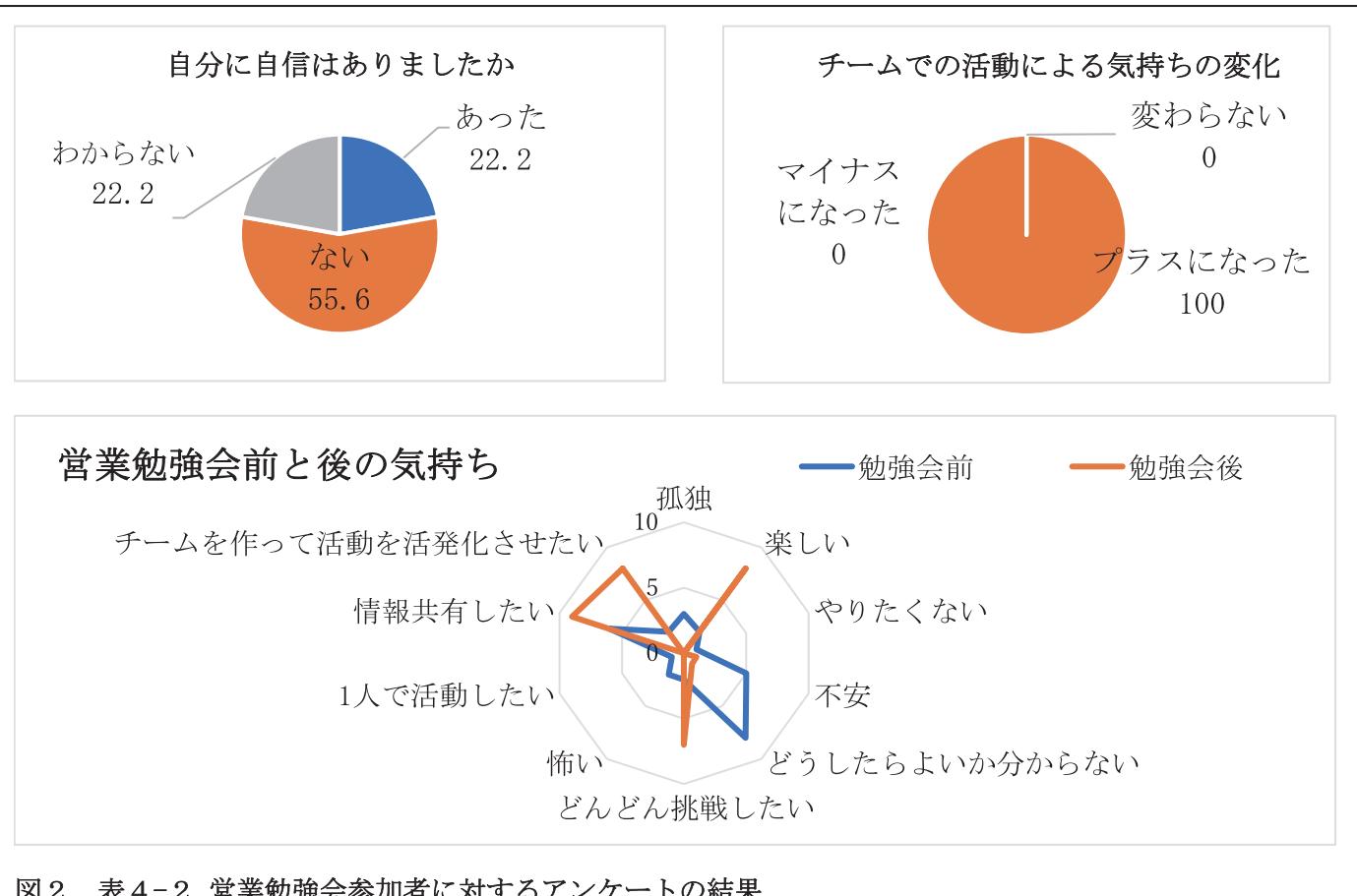


図2. 表4-2. 営業勉強会参加者に対するアンケートの結果

「どんどん挑戦したい」と営業に前向きな気持ちになっていることが読み取れる。

また、知人からの紹介で訪問が決まった方が約7割いることから、営業において人脈の大切さを改めて知ることができた。

また、途中離脱者を減らすために、パソコン操作が必須、宿題が出る、チームで営業成績を競う等の詳細情報を今よりも細かく事前に伝えて参加募集をかける必要があるのではないかと感じた。

## 6. まとめ

福祉ネイリストの営業活動において「営業勉強会 Neo」が良い影響を与えていたと考える。それには、1人で活動することより同じ思いを持った仲間と共に悩みながら活動することで、不安や活動時の悩みを解決でき、営業の成果が出やすいことが分かる。

また、営業活動においては、人脈(同じ思いの仲間や、施設関係者等)、マメさが必要となってくるので、日頃から人脈づくりに力を入れたり、こまめに電話や訪問したり、手紙などを送る等の癖をつけたりすることも大切になってくる。そのような活動を重ねた後に売上の結果がついてくる。

今後活動歴が比較的浅い福祉ネイリストにとって活動スタートのきっかけとなるよう「営業勉強会」への参加をおすすめしたい。

# 美容レクリエーションに関する意識調査

齋藤祐貴<sup>1)</sup>, 近藤あゆみ<sup>1)</sup>, 大西陽子<sup>1)</sup>, 今泉泰枝<sup>1)</sup>,  
多賀由佳<sup>1)</sup>, 石田優季<sup>1)</sup>, 伊藤佳代子<sup>1)</sup>, 荒木ゆかり<sup>1)</sup>

1) 日本保健福祉ネイリスト協会

**キーワード：**福祉ネイル, 美容レクリエーション, 意識調査

## 1. はじめに

福祉ネイリストの営業をしていく際には、福祉ネイルを取り入れようとする施設とそうでない施設があり、その違いは美容レクリエーションに対する意識の違いにあると私どもは考えた。また今回、美容レクリエーションに興味があり、やってみたい等の気持ちがあっても、出来ない理由は何なのかを明確にすれば何か解決方法が見つかるのではないかと考え、導入できない理由に関するアンケート調査を通じ、施設における現状の問題点を洗い出したいと考えた。

一方、福祉ネイルを導入中の施設においては、なぜ福祉ネイルを導入したかの理由を知り、より良くするために何が課題になるのかを明らかにし、より高いレベルのサービスを行う為のヒントを得たいということも考えた。

近年、美容サービスは介護福祉の現場において対象者の QOL を向上させる為に有効であるという認識が従来よりも増して強まっている。よって今回のアンケートを行い、分析することを通じて今後、福祉ネイリストが提供するサービスや営業のアプローチに変化をもたらす可能性があると考えた。そして介護福祉の現場における美容に関連するレクリエーションに対する意識の向上を図り、今よりも更なる QOL の向上に発展させていきたいと考えた。

さらに、福祉ネイルへの認知度が向上することによって福祉ネイリストの社会における地位の向上にも努めていきたいとの思いから今回の取り組みを実施することとなった。

## 2. 対象

介護福祉施設の関係者全般を対象とした。

## 3. 方法

今回のアンケート調査の趣旨について説明文を添付し、一施設につき答えていただける部数を配布した。美容レクリエーション未導入の施設に対しては 11 間のアンケート。美容レクリエーション導入中の施設に関しては 12 間のアンケート調査を実施した。

## 4. 結果

- 美容レクリエーション未導入の施設に対するアンケートの結果（別紙 1）
- 美容レクリエーション導入中の施設に対するアンケートの結果（別紙 2）

## 5. 考察

介護福祉施設で美容レクリエーションを行っているところはまだ少ないので現状であるが、今回の結果から「興味を持っている」、「取り入れたいと思っている」という施設が多いことが確認できた。また、何らかの美容レクリエーションを導入中の施設は前向き・明るい・会話や笑顔が増えるなど利用者の QOL が向上している結果となった。このことからも、美容レクリエーションは、施設・ご利用者からも喜んで頂ける需要性の高い事業であると考えられる。

また美容レクリエーション導入中の施設においては、「利用者の笑顔や表情が明るくなる」・「会話が多くなる」など満足度が高い結果となり、福祉ネイリストに対しての印象としては「アート技術の高さ」や「コミュニケーションを重視した対応」が好評で、高い信頼関係の構築に影響していることから、リピートに繋がっている。

また、ネイル施術後は施設内のスタッフやご利用者を含め、美容・爪への意識が上がっており、

施術継続への必要性を理解されている傾向がうかがえる。

課題としては、施術継続することで新たな爪への悩みが生まれ、福祉ネイリストの技術向上、爪ケアに対する新しい知識などが必要とされている点である。新たな提案を取り入れ、満足度を高めることで施術継続や、利用者の拡大に繋げができると考える。

また、美容レクリエーション未導入施設においては、ハンドマッサージを取り入れている施設が多く、ネイル導入へは、知識不足・費用面が導入への壁となっている。美容レクリエーションを取り入れたいと思っている施設が多いことはわかるが、重要性の認識が施設の中でまだ低いため、導入に至っていないのが現状である。

課題解決への取り組みとしては、施設関係者を対象としたセミナーを開催するなど、福祉業界全体への美容レクリエーションへの知識や意識を高めることが重要と考える。また、施設での美容レクリエーションへの必要性の意識向上・知識向上をすることで、美容レクリエーションの付加価値を高めることができる。また、付加価値を高めることによって、導入の壁となっている費用面に対してもアプローチしやすくなり、今後の導入施設の拡大にも繋げができると考える。

また全体の課題としては、「人手不足」・「知識がない」が上位を占めたが、美容の知識について知りたいと思っている施設が大半であったことから、今後は美容レクリエーションセミナーを開催することが急務であると考える。

## 6. まとめ

今回のアンケート調査では介護・福祉施設では「美容レクリエーション」の「知識や体制」が整えば開催が実現することに繋がり、介入を行えば利用者のQOL向上が期待できることが示唆された。

また介入施設においては、福祉ネイリストの新たな知識、技術向上が求められていることがわかり、今後新しいご提案が可能となることで満足度を高め、福祉ネイリストの地位向上へ繋ぐことができると示唆された。

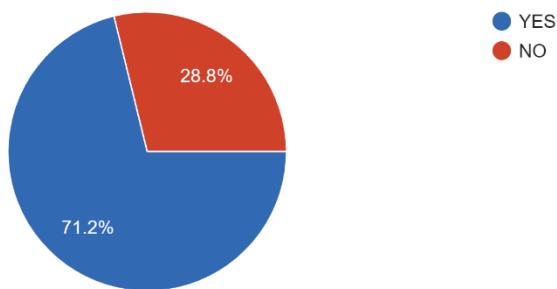
また未介入施設においては、施設様に対しての

セミナー開催の提案を行わせていただくなどの新しい営業の切り口につなげることができ、また知識不足、費用面の導入への壁に対しても、付加価値を高めることで、ご利用施設様への拡大にも繋がると考えらえる。

## 美容レクリエーション未導入の施設に対するアンケート結果

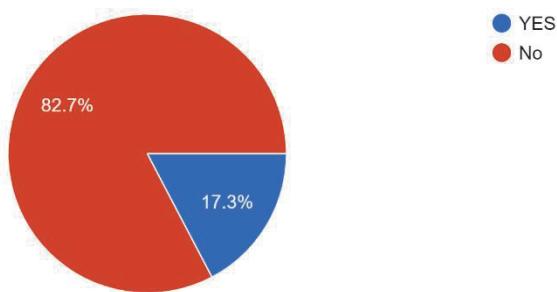
美容レクリエーションを知っていますか

52 件の回答



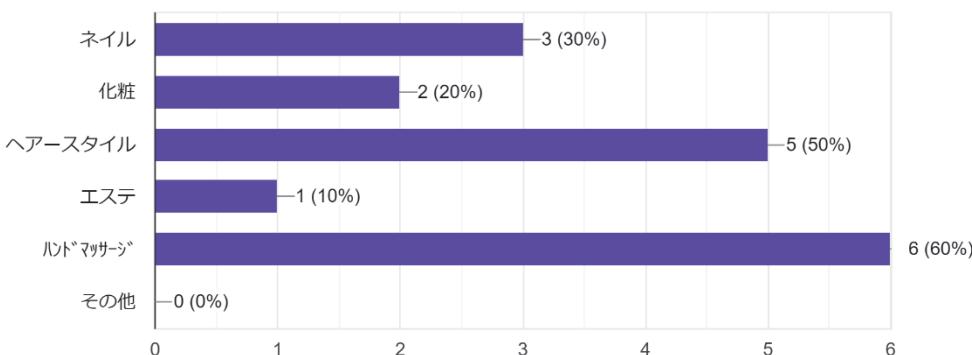
何らかの美容レクリエーションを取り入れていますか

52 件の回答



何のレクリエーションを取り入れていますか

10 件の回答

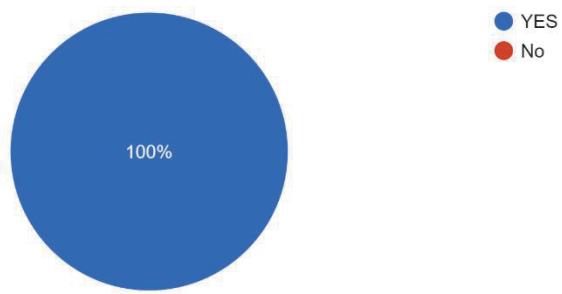


以前に取り入れたことがあるという回答

不定期で開催。母の日イベントとして職員によるハンドマッサージを女性利用者の方へさせていただいたことがある。

## 利用者様の状態が良くなつた

12 件の回答



## どの様な変化がありましたか 9 件の回答

笑顔が増えた

普段とは違う表情を見せた

助成の方は特に嬉しそう

笑顔あり表情豊かになる(焦燥感のある方が落ち着いて過ごせる)

若々しくなる

以前慰問で来てもらって表情が良くなつた

整容に興味が出た 目が輝いて意識が上がる人に見せたり美意識が上がる

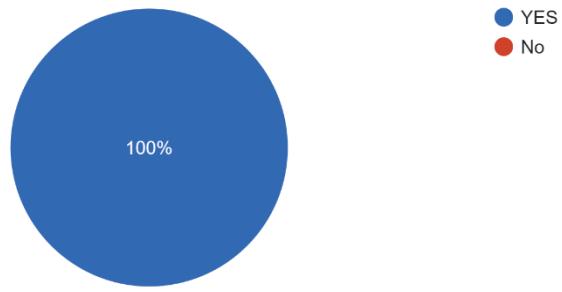
美容をキッカケにポジティブな発言が多くなっていた

綺麗になった手を見て、表情が柔らかく穏やかな時間になったよう。若い頃を思い出すことによって、思い出話しに花が咲く

(利用者様同士で)

## 美容レクリエーションは必要ですか

48 件の回答



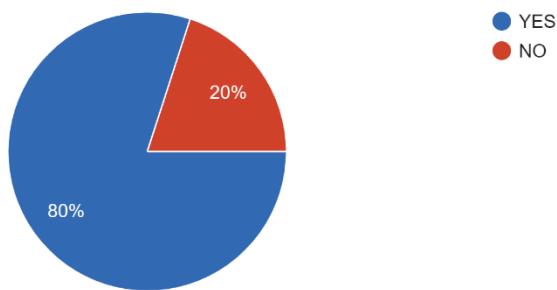
美容は整容の範中だと 思います。化粧をしたい方、ネイル・エステをしたい方は、レクリエーションという位置付けではなく、普通に方法も選択して、出来ることがあるべき姿だと思います。

私たちが美容院やエステに行ったりネイルを楽しんだりしているように、美容が日常にある利用者様も増えてくると思う。そういった点で、美容はレクという括りではなくて整容の範中として選択できることが理想だと考えます。

利用者様が希望すれば訪問理美容を利用するのと同じように福祉ネイルやメイク、エステなども依頼したいけれど、メイク落としやネイル施術後のアフターの問題などが気になるところです。

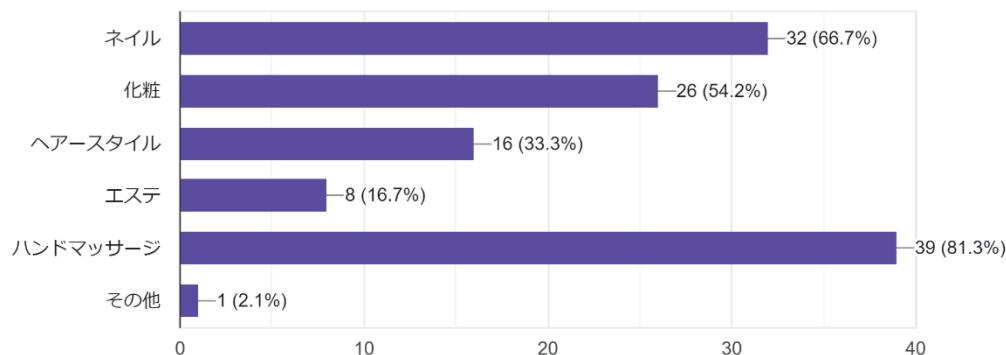
### 美容レクリエーションの知識は必要ですか

50 件の回答



### 美容レクリエーションを取り入れるなら何がいいですか

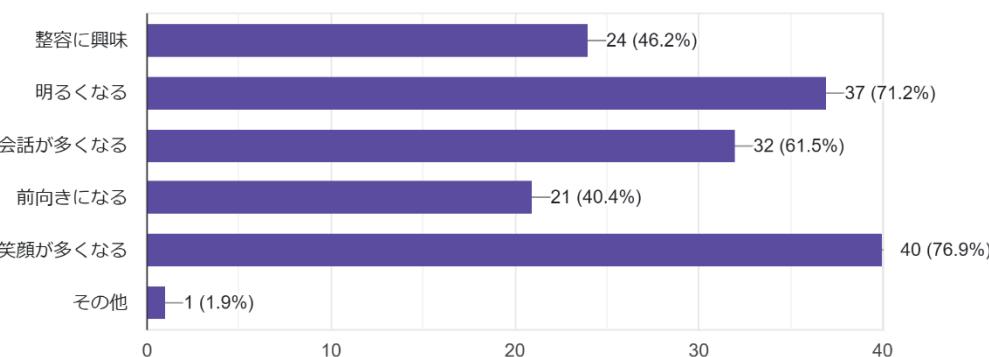
48 件の回答



その他の意見: フットマッサージ、無料でできること、今は具体案がない

### 美容レクによって期待する効果

52 件の回答

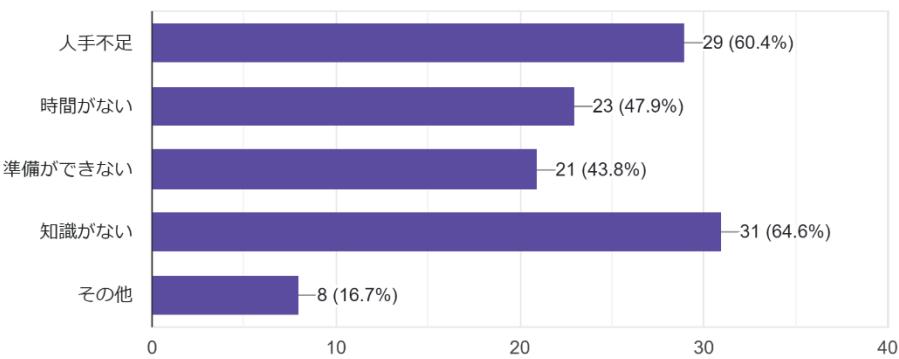


### 【その他にコメントがあった期待する効果について】

外出の機会も増えて、歩行訓練にもなるかなと思います、感情が豊かになる、家族が喜ぶ、会話の幅が広がる

## 美容レクリエーションの課題

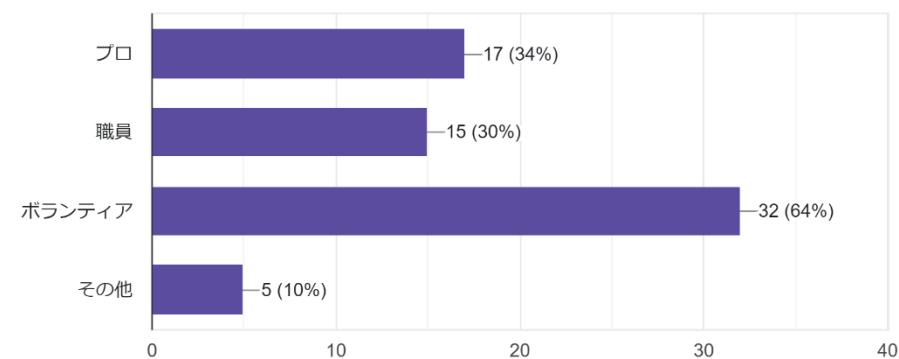
48 件の回答



その他の意見: 家族様の理解、デイなどでは全員が負担のないような金額、金銭的な問題、安全面、片付けができるない後片付けやその他の対応が大変、利用者様のレベルによって対応できる人・できない人ができてしまう、健康上の理由で施術できない方への対応、意識や認識の低さ、農家の方が多く入所している施設なので、利用者本人にお化粧とかの馴染みが少なく、本人に興味を持ってもらえないです。プロであれば料金の問題、化粧・ネイルであれば、アフターの問題がある

## 美容レクリエーションを誰に頼みたいか

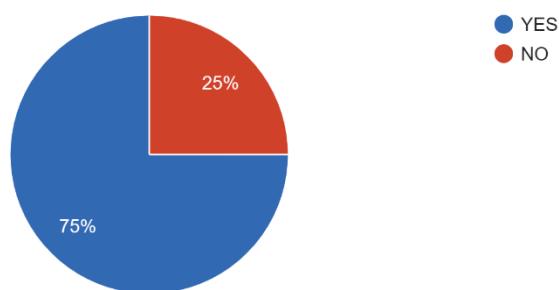
50 件の回答



その他のご意見: レク担当者、福祉の事を理解している方が望ましい、誰でもよい

## 美容レクリエーションを知るセミナーに参加したいか

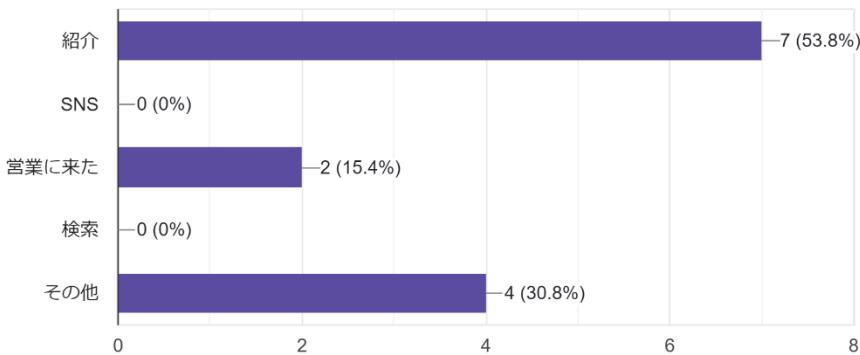
52 件の回答



## 美容レクリエーション導入中の施設に対するアンケート結果

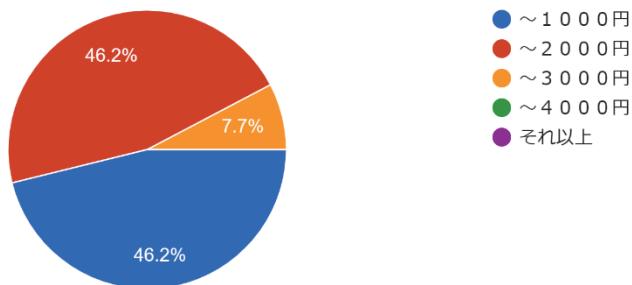
### ネイルレクリエーション導入のきっかけ

13 件の回答



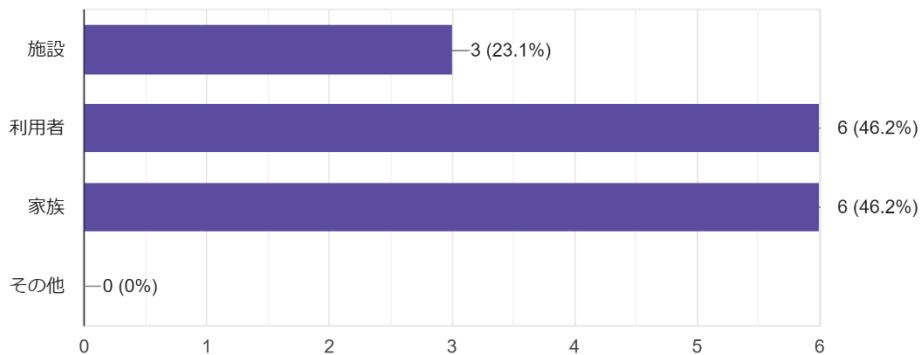
### 平均利用料金

13 件の回答



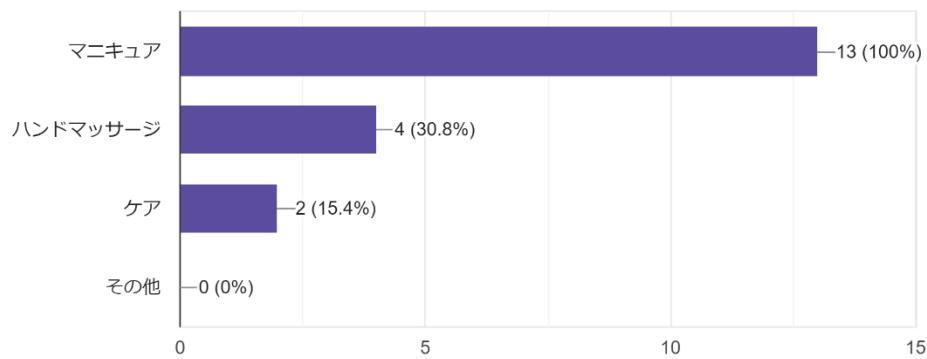
### 料金は誰が支払うか

13 件の回答



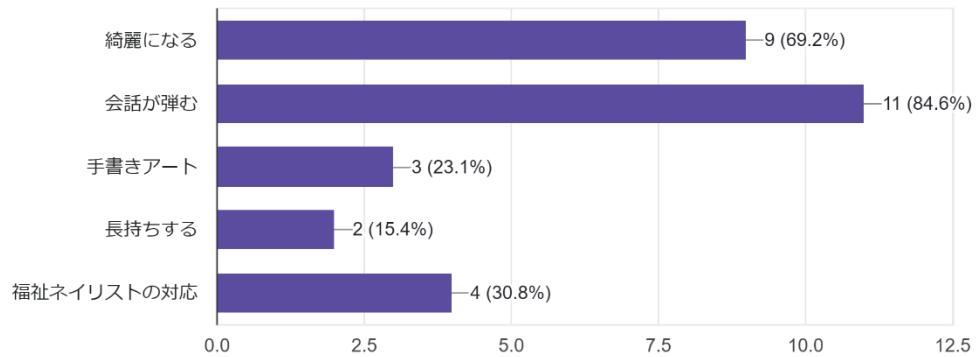
## 人気メニュー

13 件の回答



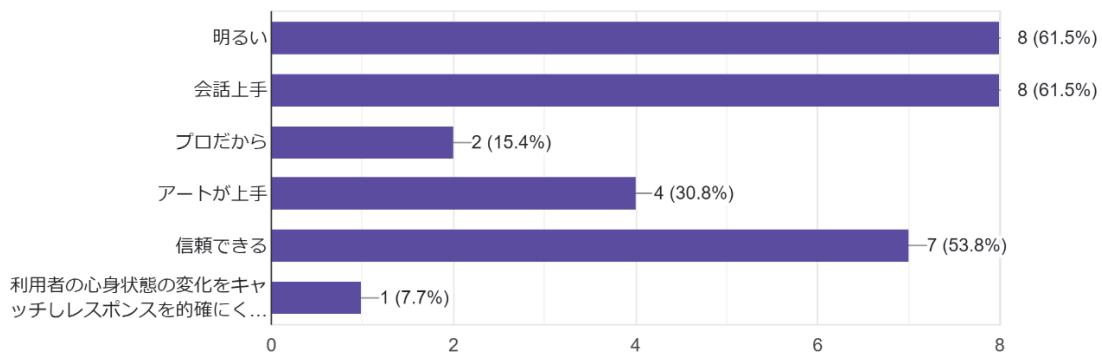
## ネイルレクの良い所

13 件の回答



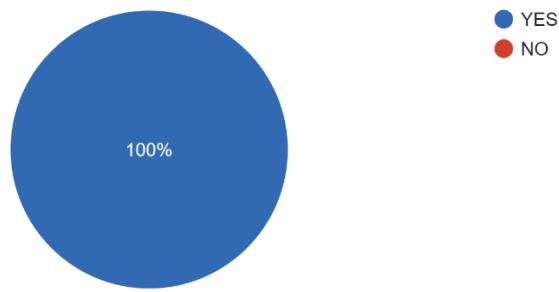
## 担当福祉ネイリストの良い所

13 件の回答



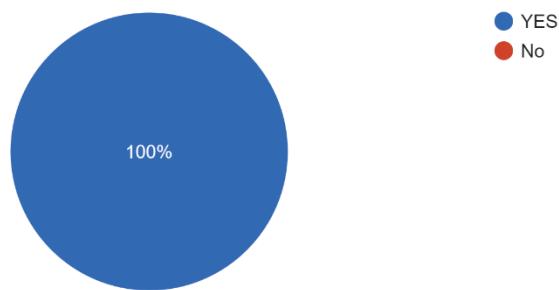
これからも福祉ネイリストに頼みたいか

13 件の回答



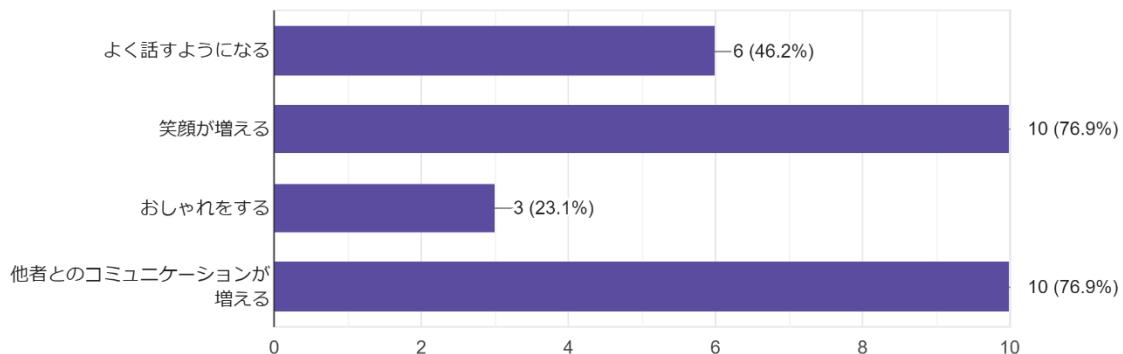
福祉ネイリストが来ると利用者に良い影響がありますか

13 件の回答



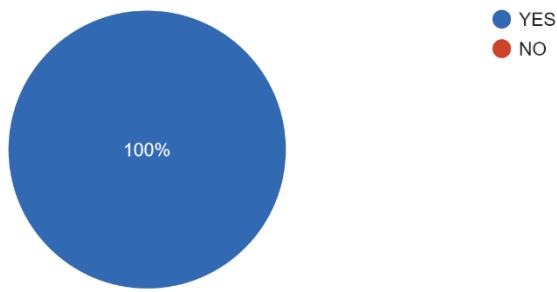
どの様な良い影響がありますか

13 件の回答



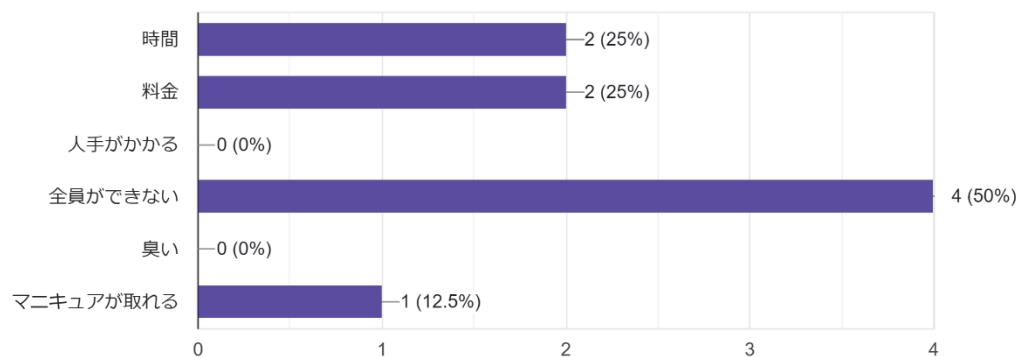
## 福祉ネイリストのネイルレクリエーションを紹介したいですか

13 件の回答



## 福祉ネイリストの課題は何ですか

8 件の回答



## 今後福祉ネイリストに望むこと 7 件の回答

- ・ネイルアートに関心が薄い利用者にもメンテナンスやマッサージの提供を受け入れて貰うようにスキルアップパフォーマンスアップを希望する
- ・福祉ネイルの認知向上と人員増
- ・おしゃれする楽しみを教えて欲しい どの色が似合うのかアドバイスして欲しい 爪の痛みが気になる方の相談につけて欲しい
- ・利用者様家族様スタッフ全員満足している今後もお願ひしたい
- ・利用者向けの講習会の開催
- ・時間の使い方
- ・爪噛みをする障がい児にも対応できる材料の用意 介護現場の知識を深め寄り良い支援に活かして欲しい

## **【その他のご意見】**

### **質問1 取り入れたきっかけについて**

「交流会等で面識が出来、高齢者支援に有益と思った」「クラブハウスというサイトにて」「仕事上の繋がりで」「いきいき支援センターからの手紙にチラシが入っていて気になり SNS の DM を送りました。」

### **質問5 ネイルレクリエーションの良い所**

「包括的なりハビリ効果」

### **質問6 担当福祉ネイリストの良い所は何だと思いますか**

「利用者的心身状態の変化をキャッチしレスポンスを的確にくれます」

### **質問9 どのような良い影響がありますか**

「利用者さん同士で指先を見て会話が増えていた」

### **質問11 福祉ネイリストの課題は何ですか**

「取ることに手間がかかる」

「受け手の技術に対しての認識が低評価なため、金額に対して不満を持つ方がいたため、もっと色々なところでネイルが評価されていることを見せていかないといけないのかなと思う。なので、個人としてでももっと活動を増やし(先行投資)、実績を残していくことを勧めます。」「爪が痛む方がいた」

# 障がい者スイマーに対する福祉ネイル介入 ～選手本人と周囲の人々における変容に着目して～

内海紀公子<sup>1)</sup>, 石井智子<sup>1)</sup>, 前田有里<sup>1)</sup>, 白石尚子<sup>1)</sup>, 小林千夏<sup>1)</sup>, 多賀由佳<sup>1)</sup>

1) 日本保健福祉ネイリスト協会

キーワード：福祉ネイル, パラリンピック, アスリート, アンケート調査

## 1. はじめに

内海<sup>1,2)</sup>は、日本保健福祉ネイリスト協会主催の第2回研究集会において、ネイルカラーリングがスポーツ選手における心理的側面や競技パフォーマンスに及ぼす良好な影響について示唆するとともに、第3回研究集会においては東京2020オリンピック・パラリンピックなどに出場している選手個人や選手団全員に対するネイルカラーリング介入が個人やチームに与えるポジティブな心理的効果について報告している。

そこで今回、私たちは知的障害者水泳連盟との関わりを通じ、障害をお持ちの方でも福祉ネイル介入によってモチベーションの向上や、やりがいにつながるのではないかと考え、福祉ネイルブースをジャパンパラ水泳記録会などにおいて設置させていただけ運びとなった。そして継続的にブースを設置させていただけ中で感じられた選手や関係者の皆様の変容を研究させていただきたいと思い、今回アンケート調査を行わせていただき、興味深い知見が得られたので報告させていただく。

## 2. 対象

ジャパンパラ水泳記録会開催期間中、2日間で福祉ネイルブースに参加された選手、保護者、大会関係者に対して、福祉ネイル介入が終了後のタイミングでアンケートを実施した（合計86名）。

## 3. 方法

Google formを用いて対象者に対し、福祉ネイル介入後にアンケート調査を実施、もしくはその場でのヒアリングを行わせていただいた。

## 4. 結果

今回のアンケート調査の結果を以下に列挙させていただけ（図1～図3）。

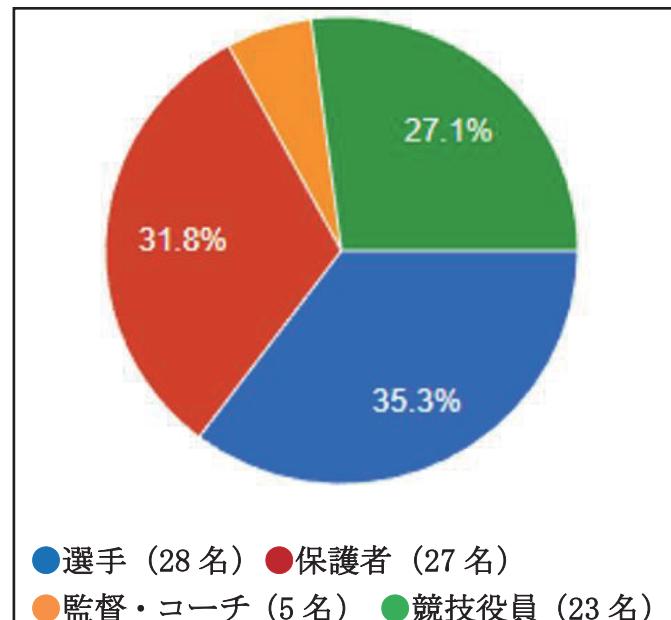


図1. 回答者の内訳

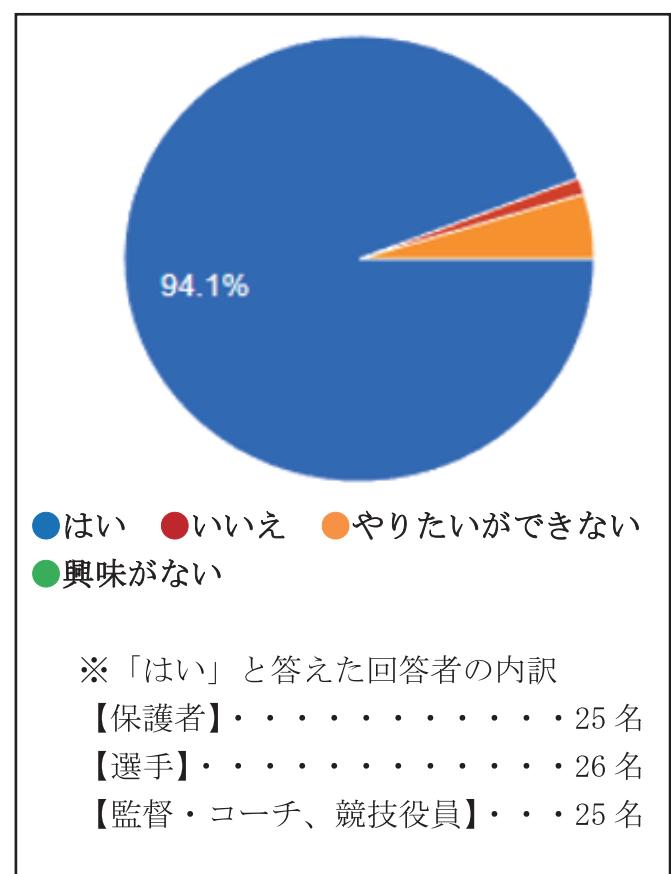
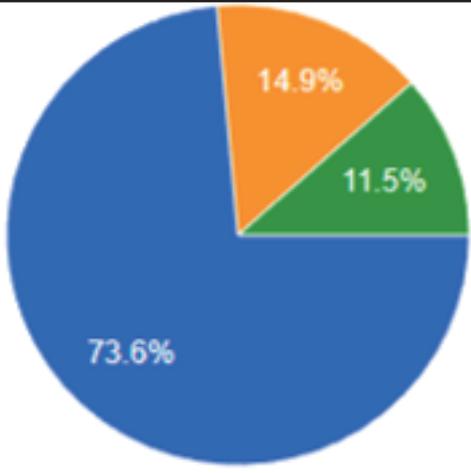


図2. ネイル施術が選手自身のモチベーションの向上に繋がっていると思いますか？



- 良い影響がある
  - 悪い影響がある
  - ネイルすることは競技や試合には関係ない
  - わからない

※「良い影響がある」と答えた回答者の内訳

〔保護者〕……………19名

〔選手〕・・・・・・・・・・・・・・・・・23名

【監督・コーチ、競技役員】・・・19名

※「競技に関係ない」と答えた回答者の内訳

【選手】・・・・・・・・・・・・・・・・・ 2名

【監督：ヨウ一 手 競技役員】：・・・ 5名

※ 「わからない」と答えた回答者の内訳

【保護者】・・・・・・・・・・・ 2名

【選手】：…………… 2名

【監督：ヨウヒー 韻技役員】・・・2名

### 図3. ネイルカラーリングを実施することは競技や試合にどのように影響しますか？

## 5. 考察

#### 考察①【選手個人の競技への寄与】

今回の調査では、「選手の保護者」、「選手ご自身」、「監督・コーチ、競技役員」という3つの属性の方々から、ほぼ同数でアンケートへのご回答をいただくことができた(図1)。

各属性における多くの方々から「ネイルによる何らかの影響がある」とお答えいただく結果となり、ネイル施術が選手自身のモチベーションの向上に繋がっていると考えている対象者は全体にお

ける 94.1%にのぼった。また「ネイルによる何らかの影響がある」とお答えいただいた対象者のうち「よい影響がある」とお答えいただいたのは回答者全体の 73.6%となった。

このことから、障がい者スイマーを対象とした福祉ネイル介入が、競技者のモチベーションや競技中のパフォーマンスへ寄与する可能性が少なからず存在していると考えられる。また、今回の調査の際に日本パラリンピック委員会の委員長である河合純一氏にも福祉ネイル介入の体験していただく機会を得た。その結果、同氏からは「ネイルでモチベーションが上がれば、良いタイムにつながるということはあり得るでしょう」という感想を頂戴できた。

## 考察②【水につかっているスポーツとしての爪への影響と競技力】

水泳（競泳）は、練習中や試合中に常に「爪が水につかっている」という特性があるため、爪がふやけやすく、脆弱化しやすい状況に置かれている。ネイルブースを訪れる方の中で、自閉症やこだわりの強い方は、爪噛みによって爪のほとんどをなくしてしまう方が多く見受けられた実態がある。そのようなケースでは、福祉ネイル介入を行うことで、爪の先端部分におけるガタガタの状態や、柔らかさが紛らわされて爪を伸ばせるようになっていった事例が何件か存在した。このような事例においては、それ以降も福祉ネイル介入を継続することによって「爪噛みが解消された」という報告が確認された。

また今回のアンケート調査では「爪のお悩みに関する質問項目」も設けており、「爪の割れ」や「欠け」が気になるという回答者が全体の約半数(55%)存在していた。そして「福祉ネイル介入に期待すること」に関する質問に対して「爪の保護」に興味を示された回答者が約40%を占める結果となった。試合における記録が決定づけられる最後の壁へのタッチの際には、指先が強くタッチ盤に触れるため、爪が割れてしまったり、破損したりする競技者も多いことから「水に強い補強」を要望されるケースが今回の施術ブースにおいて散見された。

### 考察③【福祉ネイルが選手を取り巻く方へ及ぼす影響】

今回の調査を実施した際、競泳会場での福祉ネイルのブース開設は3度目であり、回を重ねるごとに福祉ネイル介入を楽しみにされている競技者が増加していった実態がある。また、ブースを訪れる方々の中には保護者も含まれるようになり、保護者の方々からは「障がいを持った子供が産まれてからは自分が美しくいることに目を向けている精神的余裕や時間がなかった」、「自分の爪を彩ることに気持ちが向かなかった」という発言を聴取できた。今回、競泳選手である子供がプールで泳いでいる時間帯にネイルへの施術を受けたことによって、保護者ご自身における精神面をリフレッシュさせる良い機会となって、その後、子供に対するサポートにおいて以前よりも優しく接することができるようになったり、親子関係が更に良好な内容となったりしたというコメントも聴取した。我が子が彩爪介入を受けた後に、喜びながら競技に打ち込んでいる姿を少し遠くから眺めている保護者様のまなざしがとても素敵なものになっている様子を見し、選手自身だけではなく選手を取り巻く関係者においてもポジティブな影響が波及していると考えられた。

## 6.まとめ

今回の調査を通じ、障がい者水泳競技において選手への福祉ネイル介入を実施することによって競技に取り組む際のモチベーション向上や競技力の向上につながる可能性が示唆された。

また、障がい者水泳競技に取り組む子供を持つ保護者に対してネイル介入を実施することを通じて気分のリフレッシュが実現すれば、選手と保護者の双方における心豊かな時間が発生しやすくなり、より良い親子関係の創出に寄与することにつながりやすくなることも期待できる。このことは、「美容サービスを通じて生活に彩を放ち、万人が輝きある人生を送れるようサポートすることで社会に貢献する」という日本保健福祉協会（JHWN）の理念に合致しており、同時に「福祉ネイリストの使命」として掲げられている「美容を通じて感動を与えること」の達成にも大きく寄与できる。

今後、障がい者スポーツやスポーツ分野において、どのようなことが求められているのか、また、私ども福祉ネイリストが、どのようなアプローチで福祉ネイル介入を行うことが有効であるのかを考えて邁進する所存である。

## 引用文献

- 1) 内海紀公子, 土橋麻子, 荒木ゆかり 他: ネイルカラーリングがスポーツ及び運動に及ぼす影響についての意識調査～モチベーションや競技に及ぼす影響を中心としたアンケート調査～. JHWN 第2回(学術)研究集会演題抄録集, pp. 1-4, 2021
- 2) 内海紀公子:国際大会に出場しているスポーツ選手におけるネイルの有用性に関する研究. JHWN 第3回(学術)研究集会演題抄録集, pp. 17-21, 2022

# 健常高齢者への福祉ネイルが与える QOL の向上による興味・関心の変化

北川 貴惟<sup>1)</sup>, 岡本 京子<sup>1)</sup>, 坂本 将徳<sup>1,2)</sup>

1) 日本保健福祉ネイリスト協会, 2) 医療法人未来 介護老人保健施設 古都の森

キーワード：福祉ネイル，QOL，興味，関心

## 1. はじめに

私は現在、理学療法士として老人保健施設で働いている。理学療法士としてリハビリをしている中で利用者様を評価する際に「興味・関心チェックリスト」という尺度を使用する。この尺度を用いた評価を実施すると、QOL が低下している利用者様は生きがいや意欲も低下傾向にあり、尺度の項目に対して興味・関心を示すことが少く感じる。また、無関心な言動やネガティブな発言が目立つ印象を受ける。それに対して QOL の高い利用者様は生きがいや意欲も高い印象があり、尺度の項目に対して興味・関心を示し、関心を示す言動やポジティブな発言が目立つ。

のことから QOL を向上させることで生きがいや意欲の向上に繋がり、興味や関心も比例して向上すると考えた。川久保らによると化粧よりネイルの方が何かしたくなるなどの「行動の積極性」の項目が有意に高いと報告されている。<sup>1)</sup> この結果は化粧と比較してネイルが環境に依存せず、自ら目視で確認できるからではないかと考えられている。のことからネイルという簡易かつ目につきやすい手法を用いることで上記に述べた QOL を向上し、生きがいや意欲も相乗して向上するサイクルに繋げることが健常高齢者に対し可能であるかを検証したい。

## 2. 対象

対象はネイル経験のない健常高齢者 2 名を対象者として選定した。

### ①対象者：H 様

80 歳代女性、家事はすべてご本人が行う。ネイルに対して拒否的。「私なんて…」とネガティブな発言が多く見られる。またヘバーデン結節による手指の変形と疼痛がある。その影響により何事にも「めんどくさい」と感じている。また変形した手

を見られたくないため、手袋やアームカバーを年中つけている。

### ②対象者：M 様

80 歳代女性、家事は本人の娘が中心に行うも、掃除や洗濯はご自身で行う。趣味が多く（卓球やカラオケ、清書、散歩、動画鑑賞）活動的な性格。日課として散歩は 1 時間以上行う。また孫やひ孫に会えるのが楽しみで化粧を行う習慣があり、ご自身で行う。

## 3. 方法

### 1) 評価頻度

初回のネイル施術前と最終回のネイル施術後に実施。

### 2) ネイル介入頻度

約 6 カ月間の計 5 回実施

### 3) 評価尺度

#### ①興味および関心の評価

興味・関心チェックリスト

#### ②生きがいの評価

生きがい意識尺度 (Ikigai-9)

#### ③意欲の評価

Vitality index

#### ④QOL の評価

HUI3 classification system

## 4. 結果

### I. H 様の評価結果（初期評価、最終評価、介入期間中の変化）

#### 【初期評価】

##### ①興味・関心チェックリスト

ADL・IADL ともに手の疼痛はあるが自分で行う。しかし、外出や他者との交流はめんどくさいと考えている。また、趣味は読書とゲームで現在も行っている。ヘバーデン結節発症前は他にも書道、ピア

ノ、ギター、編み物、お花など多趣味だったが、現在は痛みにより行っていない。

②Ikigai - 9 : 27 点

下位項目 I : 8 点

II : 11 点

III : 8 点

③Vitality index : 9 点

④HUI3 : 14 点

の少なさや ADL、IADL に対して「めんどくさい」等のネガティブな言動多く見られた。また手を隠す仕草多く見られた。

しかし、介入を進める中でポジティブな言動が増え、口癖のように発言していた「めんどくさい」との発言が無くなった。また、昔行っていた趣味活動であるピアノを知人の前で披露していた。他にも買い物等の外出頻度も増えている。

## 【最終評価】

①興味・関心チェックリスト

初期評価時と比べると外出や他者と交流をする場に自分から参加するようになった。また、昔趣味として行っていたピアノをするようになった。

②Ikigai-9 : 39 点

下位項目 I : 12 点

II : 13 点

III : 14 点

③Vitality index : 9 点

④HUI3 : 11 点

感情と痛みの項目でそれぞれ得点変化あり。

・感情の項目では「少し幸せである：2点」→「幸せで、自分の人生に前向きになれる：1点」へ変化。  
・痛みの項目では「中等度からひどい痛みがあり、できない活動がいくつかある：4点」→「軽度から中等度の痛みがあるが、通常の活動はできる：2点」へ変化している。

## 【介入期間中の変化】

・主観的变化（本人自身の評価）

手を見られるのが恥ずかしいとは思わなくなり、見てもらいたいと感じるようになった。また、手袋やアームカバーを付けなくなった。ネイルをしてもらうようになってから身なりに気を付けるようになり、服を買いに行ったり手や爪の手入れをするようになった。

・客観的变化（知人からの評価）

以前は黒の服がほとんどだったが、今は明るい色の服をよく見かけるようになった。

・客観的变化（施術者からの評価）

介入初期は手の変形と疼痛により、趣味活動

## II. M様の評価結果（初期評価、最終評価、介入期間中の変化）

### 【初期評価】

①興味・関心チェックリスト

ADL 動作自立。 IADL 動作は掃除や洗濯はご自身で行うが、その他は同居している娘が行う。趣味も多く活動的。散歩は毎日の日課で 1 時間程度、毎日行っている。

②Ikigai-9 : 38 点

下位項目 I : 14 点

II : 11 点

III : 13 点

③Vitality index:10 点

④HUI3:11 点

### 【最終評価】

①興味・関心チェックリスト

趣味活動に対し活動的である。また、昔行っていた編み物を最近になって再開したこと。

②Ikigai-9 : 42 点

下位項目 I : 15 点

II : 15 点

III : 12 点

③Vitality index : 10 店

④HUI3:11 点

### 【介入期間中の変化】

・主観的变化（本人自身の評価）

ネイルをすると気分が上がる。またみんなに褒められて嬉しい。

・客観的变化（知人からの評価）

活動量や活動内容に大きな変化はないが、いつも楽しみにしている様子が伺える。

また活動量はもともと多いが散歩など趣味活動に対しより積極性が増し、楽しみにしているように感じる。

#### ・客観的变化（施術者からの評価）

介入当初はネイル施術に対し恥ずかしいという発言が多く、目立たないマット系の色を選択していたが、回数を重ねる度に濃い色やラメ入りの色を選択するようになった。

### 5. 考察

#### I. H様に対する考察

福祉ネイル介入において HUI3 の評価結果から QOL 向上が示唆される。初期評価時の得点が 14 点だったのに対し、最終評価では 11 点と向上している。下位項目である感情と痛みの項目に変化がみられたことが影響していると考えられる。介入当初は手指の疼痛による影響からか ADL 動作や IADL 動作に「めんどくさい」という感情があり、ネガティブな発言が多く見られた。しかし、介入を続けていく中で「めんどくさい」と発言することが無くなり、ポジティブな発言が目立つようになった。堤谷ら<sup>2)</sup>によると美容に身近に触れることで対象者は活力がわきポジティブ思考となると報告されている。今回の得点からも先行研究で報告された知見と同じく、HUI3 の得点に表れており、感情の項目で 2 点（初期評価）→1 点（最終評価）、痛みの項目で 4 点（初期評価）→2 点（最終評価）と得点の変化が確認できた。

次に生きがいの評価尺度である Ikigai-9 の得点で、27 点（初期評価）→39 点（最終評価）と生きがいにも変化が見られており、下位項目 I～III のすべてにおいて得点が向上した。介入当初は手指の変形により手を見られることに対し抵抗があり恥ずかしいと感じていた。そのため、年中手袋やアームカバーで手を隠していた。しかし、介入を続ける中で「変形した手指を恥ずかしがらなくていい」「彩られた爪を見て欲しい」という意識に変化したと考えられ、意識の変化が爪だけでなく服装や言動にも影響を及ぼしたと考えられる。

Vitality index の得点では 9 点（初期評価）→9 点（最終評価）と得点の変化は見られなかっ

た。評価項目の“リハビリ・活動”の項目が初期評価時、最終評価時ともに 1 点だった。得点の変化は見られなかったものの、「めんどくさいが仕方なくする」とネガティブな回答していた初期評価時に比べ、最終評価時には「誘われたら楽しみで外に出たくなる」とポジティブな回答に変化していた。

興味・関心チェックリストでは手指の変形と疼痛により辞めていたピアノを再開していた。

これらの結果より、介入前に想定していたネイル施術により QOL が向上することで生きがいや意欲の向上に繋がり、昔行っていたピアノという趣味を再開し、知人の前で披露するという行動につながったと推測する。

#### II. M様に対する考察

福祉ネイル介入行うものの、HUI3 の評価結果は初期評価時と最終評価時の得点は同じく 11 点と変化はみられなかった。よって評価得点による QOL の向上は確認できなかった。しかし、趣味活動の積極性が増し、楽しみにしていると客観的変化が見えているため、QOL が向上した可能性があると推測する。

次に Ikigai-9 の評価結果は 38 点（初期評価）→42 点（最終評価）と生きがいの得点に向上がみられた。特に下位項目 II は 11 点（初期評価）→15 点（最終評価）と数値の変化が確認された。下位項目 II の評価内容として「未来に対する積極的・肯定的姿勢」を問うものである。これは知人からの客観的評価に述べたように、もともと活動量は多いが趣味活動に対し積極性が増し、楽しみにしているように感じられた。

Vitality index の得点は 10 点（初期評価）→10 点（最終評価）と得点の変化はみられなかつた。これは Vitality index の最高得点が 10 点であり、初期評価時から意欲が高かったことを示している。

興味・関心チェックリストでは趣味に対し活動的だが最終評価時では、昔行っていた編み物を再開したとの発言見られた。

これらの結果より趣味活動を積極的に行っていった M 様は QOL が介入前から高い水準だったため、

評価得点による向上は認められなかった。しかし、客観的変化からの行動や言動の変化は確認することができた。生きがいの評価では、特に Ikigai-9 の下位項目 II の「未来に対する積極的・肯定的姿勢」が向上したことで、昔行っていた趣味活動（編み物）を再開するという行動に繋がったと考えられる。

以上 H 様、M 様の結果から介入 6 カ月で 5 回という短期間での介入であったが、ネイル介入による QOL の向上により生きがいの向上が示唆された。以前は行っていたが、現在は辞めていた趣味活動の再開に繋がったなどの変化がみられたことは有意義であったと考える。介入前の研究仮説では、意欲の向上も見られると考えていたが、今回の介入では向上がみられなかつた。しかし、Vitality index のカットオフ値は 8 点以上であることから、H 様、M 様ともに初期評価時から高い意欲を継続しており、数値での変化は確認できなかつたと考えられる。今後は別の意欲に関する尺度を用いての検証も行っていきたい。

## 6. まとめ

在宅で生活されている健常高齢者に対してネイル介入を行い、評価尺度を用いた検証を行つた。意欲の尺度による得点の変化はみられなかつたが、QOL や生きがいの尺度では得点の変化が確認され、興味・関心に関する尺度に関しても比例して変化する結果となつた。

次回は施設入居者に対して、QOL の低下みられる方を対象者として、本研究と同様の効果がみられるのかを検証したい。

## 引用文献

- 1) 川久保惇, 笠原亮多朗, 小口孝司:ネイルは化粧を超えるか?. 日本心理学会大会発表論文集  
日本心理学会第 79 回大会, 2015
- 2) 堤谷めぐみ, 小川奈美子, 若林紋 他:化粧やネイルケアが高齢者のライフスタイルや QOL と免疫能の向上に及ぼす影響. コスメトロジー研究報告 16 : p76-86, 2008

# 高齢者施設における福祉ネイル利用の拡大を目指した美容サービスの取り組み

戸田美那<sup>1)</sup>, 東條綾乃<sup>1)</sup>, 比嘉奈津子<sup>1)</sup>, 斎藤祐貴<sup>1)</sup>, 佐藤三矢<sup>1,2)</sup>, 荒木ゆかり<sup>1)</sup>

1) 日本保健福祉ネイリスト協会 2) 東京通信大学 人間福祉学部

キーワード：福祉ネイル，高齢者，美容サービス

## 1. はじめに

私は、2021年7月より月に2回の頻度で福祉ネイルを中心とした美容サービス（爪磨き、ハンドトリートメント、ネイルカラーおよびアート、フェイシャルエステ）を提供するために、通所介護事業所において定期訪問を行わせていただいている<sup>1)</sup>。

そして当初より美容サービスの利用人数の変化を調査してきており、福祉ネイルの利用者拡大を目指しながら美容を通じた整容活動の支援を行うことにより涵養されていく自尊心や心が明るく前向きになる気持ちを大切に、美容サービスを通して喜びを届けたいとの思いで活動を続けている。

健康寿命の延伸と通所介護事業所のニーズが拡大する中、福祉ネイルのみならず、美容を通して利用者様の表情が明るく、笑顔が増える変化が確認できることに可能性を感じている。

そこで2023年2月からは新たにヘッドマッサージを導入し、更なる啓発活動を行ないながら、参加人数の推移や、利用者に対する変化を検討したのでここに報告する。

## 2. 対象

2022年1月～2023年6月の期間において通所介護事業所（1日約18名通所）を利用された利用者様を対象とした。

## 3. 方法

自宅への持ち帰り用のお手紙にて、「〇〇（施設名）美容の日」と題して開催日時予告・告知を行うとともに、参加者募集の申し込み予約のご案内を行う。

### ●提供可能な美容サービス

#### 【福祉ネイル／画像1】

- ・爪磨き 10本につき 15分
- ・ハンドトリートメント 15分
- ・カラーリング 10本+アート 1本につき 20分



画像1. 福祉ネイルの様子

#### 【エステ／画像2】

- ・フェイシャルエステ 15分

（スキンケア・フェイスマッサージ・眉毛メイク）



画像2. フェイシャルエステの様子

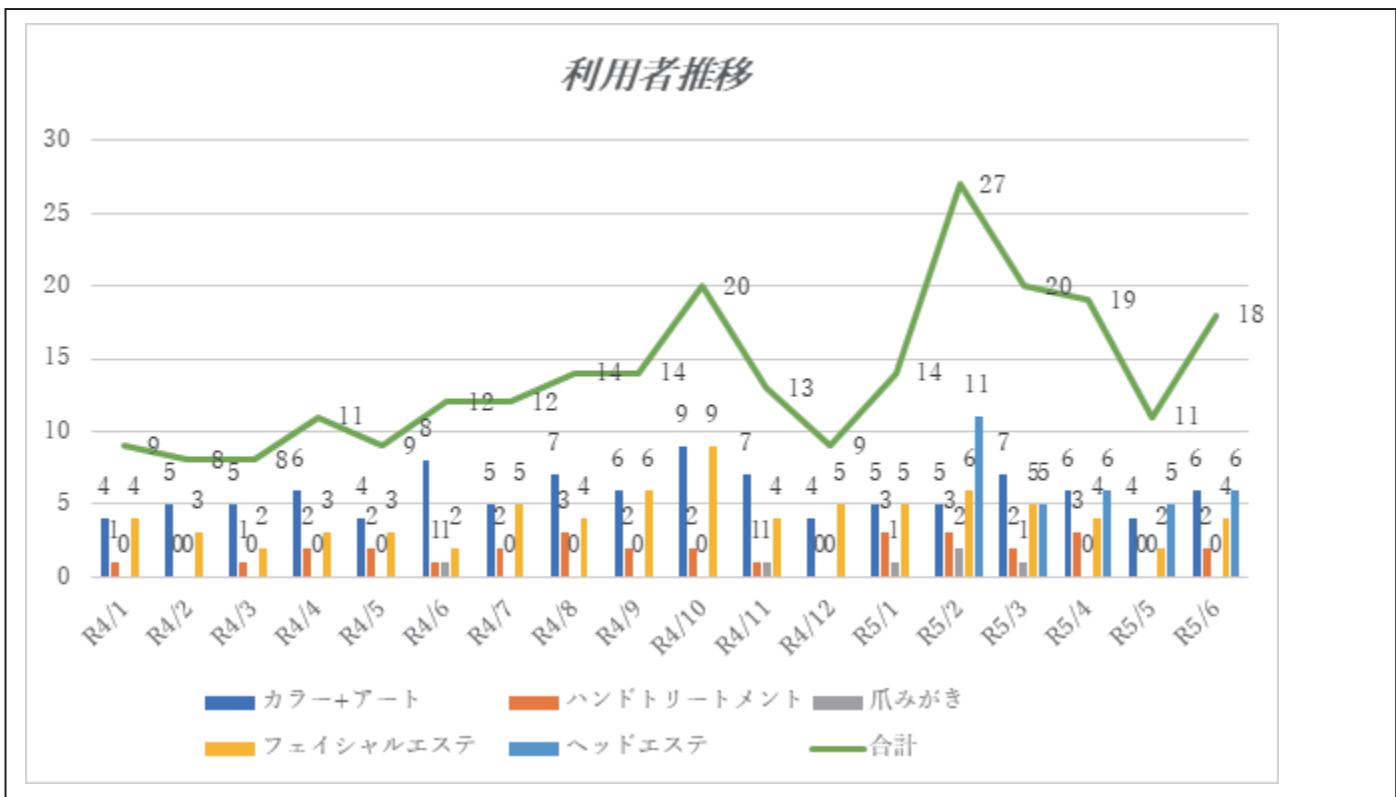


図1. 美容サービスにおける利用者の推移

た。

#### 【マッサージ／画像3】

- ・ヘッドマッサージ 15分



画像3. ヘッドマッサージの様子

今回、それぞれの参加人数を集計し、福祉ネイルとフェイシャルエステ、ヘッドマッサージの参加人数の推移をグラフ化し、参加人数の変化について検討を行なった。また、複数美容メニューを導入することによる利用者様の変化についても検討し

#### 4. 結果

##### 【利用者様の参加人数の推移】(図1)

- ・各美容メニューともに、気候の安定した行楽シーズンに利用者人数が顕著に増える傾向が確認された。
- ・ネイルメニュー、フェイシャルエステとともに参加者比率は女性10割であった。
- ・男性のヘッドマッサージ利用者は3名であった。
- ・2023年2月にヘッドマッサージを導入し、今までネイル・フェイシャルエステを利用したことのなかつた方からの申し込みが増加した。

##### 【利用者様からの意見】

- ネイルカラーを塗って、爪に色が付いている事に気がついてもらえる事がとても嬉しい。
- 同居人の家族や、病院の先生など、会話のきっかけにもなるし、私の爪を楽しみにしている人がいる。
- 毎日が変化の少ない生活の中、月に一回行うエステの時間は心からリラックスできるし非日常的な時間でとてもワクワクする1日。
- エステの後はどこかへ出かけたい前向きな気持ちになれる。
- ヘッドマッサージを行い、怠かった頭が軽くな

ってスッキリした。

- 亡き母が良く頭を揉んでいたけど、気持ち良いし自分をリラックスさせるために行なっていたのね。昔の母の姿を思い出した。
- 昔は毎日左手の薬指に豪華なお気に入りの指輪をつけていた。今は娘に譲ってしまったため、私の薬指に指輪は無いけどネイルアートは絶対この指にすると決めている。私の気取った指先はいつも薬指だから。
- 高齢だからと、顔の毛穴に対して悩みを持っていることを言うのが恥ずかしかった。勇気を出してフェイシャルエステを受けてみたらどんどん自分の肌が変わっていく感覚がある。今まで肌に手をかけた事は無かったから、今の肌が自分で一番ツルツルしている実感がある。娘とも美容の話をするようになって、化粧品を買ってきてくれたり、化粧のアドバイスをくれたり、身だしなみに気をつけることは何歳になっても大事な事と思う。

## 5. 考察

2019年より定期訪問を重ね、福祉ネイル、フェイシャルエステ、ヘッドマッサージへとメニューの選択肢を増やしてきたが、その度に利用者は増えていることが確認できた。ご利用者様によって個々のニーズに合った美容を提供することで、選択肢が増え、利用人数が増える傾向にあると推測される。

また、外出が増える行楽シーズンに利用者が増える事が分かった。推測ではあるが、外出するために容姿を当たり前のように整えるが、整えた自分の姿を確認することで、気分の高揚や満足感が高まり、外出意欲をさらに高めているのではないかと考える。

男性の利用者様に対しては、自席に着席した状態で行えるヘッドマッサージを勧めている。男性に対するご案内の工夫も必要と感じているが、一度ヘッドマッサージを受けた男性のリピート率は現在100パーセントである。「こんな（気持ちの良い）ことをしてもらったのは初めてだ」との発言からも伺えるように、他人事になっている意識を変えるアプローチの工夫が必要だと感じる。

このように美容サービスへの参加人数が増加してきていることから、利用者の方々における月2回の「美容の日」は、現場で着実に定着し、このことに伴って美容への意識が高まっていることは事実であり、訪問を続ける重要性を確認できた。

## 6. まとめ

本取り組みでは、手元を美しくする福祉ネイルと顔を美しくするフェイシャルエステ、リラックスとリフレッシュを感じて頂けるヘッドマッサージの美容メニューを導入することで利用者の変化を検証した。

「いつまでもキレイでいたい」という想いは、人それぞれ差異があるように、どのサービスを望まれるかも様々である。選択肢を増やすことによって参加に繋がる事例が今回の取り組みを通じて確認できた。

自らに改めて手をかける美容サービスにより、ネイルであれば美しい色彩をまとい、変化する自分を楽しむことによって人間が生来的に持っている欲求を満たし、気分が好転することをサポートできるこの活動は。きわめて有意義であると考える。

今後も福祉現場で利用者さまから関心を示される企画や、利用者さまの笑顔がより増えていく取り組みを発展させ、継続していくことによって、まだ見ぬ笑顔を引き出していくたい。

## 引用文献

- 1) 戸田美那, 東條彩乃, 坂本将徳 他 : 高齢者施設における福祉ネイル利用者拡大を目指したフェイシャルエステ, pp.45-47, 2022

# 男性の障がい者における福祉ネイルへの関心度（ケーススタディ） レクリエーションの一環としての福祉ネイルの待ち時間と施術中における会話の変化

辻村 さおり<sup>1), 2)</sup>

1) 日本保健福祉ネイリスト協会, 2) 社会福祉法人 精神障害者社会復帰促進協会 ふれあいの里

キーワード：男性，障がい者，福祉ネイル

## 1. はじめに

私が福祉ネイルの資格を取得し、活動を始めようと意気込んでいた矢先のタイミングで新型コロナウィルスが世間を大きく揺さぶったため、福祉ネイリストとしての活動が大きく阻害された背景がある。福祉や介護の関係者に対して声をかけるも一律に「コロナが治まつたらね…」と返答され、私は途方に暮れた。

調理師としての仕事を辞めて福祉ネイルの学校へも行った私は、生活のため仕事を探さなければならならず、「そうだ、施設で働けば福祉ネイルをさせてもらえるかもしれない」と考え、面接で福祉ネイルへの熱い思いを語り、有料老人ホームと障がい者の地域活動支援センターで採用していくだけ運びとなった。

有料老人ホームの面接時には「いつでも福祉ネイル介入をして下さい」的な感じであったものの、実際は一度も実施させていただけず絶望感が私を襲ったが、地域活動支援センター「ふれあいの里」では月1回のプログラムとして福祉ネイルの時間をとることを実現していただいた。この施設では、主に精神障害の方が収集される施設であり、女性は少なく、福祉ネイルに关心を持つ男性は非常に少ないのが実情であった。

このような状況の中で「爪を磨くことの推奨」から声をかけてさせていただき、福祉ネイルに対して徐々に興味をもってくださる人が増えていった。その中でも50代の精神障害を持つA氏と20代の知的障害を持つB氏がネイルに興味を持って「爪に色を塗ってほしい」と言ってくださるようになり、毎週「ネイルします」という発言へと心の変容があった。

そこで今回、2名の対象者（A氏、B氏）における2年間にわたる心境や会話内容の変化に着目し、「男性対象者がネイルに興味を持って笑顔になるまでの様子」を追跡し、対象者の方々の保佐人と

保護者、施設からの同意を得ることができたので、日本保健福祉ネイリスト協会の第4回研究集会において報告させていただく運びとなった。

## 2. 対象

### 【A氏／56歳】

精神障がい者で、ご家族はなく保佐人の承諾を得て 同施設に入居中。平日は就労B型へ通われており、日曜日は予定がなく2階センターを利用しに来られている。性格は、さみしがり屋で常に誰かとしゃべっていたいと思われている。洗濯物を回す際にに入る柔軟剤が大好きで、たくさんあるにもかかわらず、すぐに買ってしまう。お金の管理はご自身ではできないため、1回の食事ごとに事務所にお金を取りに行っていただくようにしている。月1回の福祉ネイルの準備をしていると「何してるん？」と当初から興味津々の様子がうかがえた。今回は爪に施術している際の会話や気持ちの変化に着目して検討を行った。

### 【B氏／25歳】

家族と同居されており、平日の午前中は作業所に通われており、作業所での仕事を終えて昼食を済ませてた後、同施設に来館されている。施設では午後からお絵描きセットで絵を描く時間、タブレットで音楽を聴く時間をとられて過ごされている。日曜日は朝から来館され、お絵描きとタブレットでの音楽鑑賞の合間に福祉ネイルブースの席が空いたタイミングで駆け寄って来られて「ネイルを塗ってほしい」と発言されるようになった。B氏は、いつも必ず4時45分まで来館されているので、予約の人を優先しており、私が「待ってね」と言うと黙って自分の席へ戻って自席に座られる。最初の半年間は興味すら持たない様子であったが、その後に福祉ネイルに対して興味を持たれるようになり、今では「毎月塗ってほしい」と発言されるようになった。

### 3. 方法

今回、当施設で毎月実施しているレクリエーションのプログラムである福祉ネイル介入において、「A氏とB氏が自分もネイル介入をしてほしいと感じるようになった時期」と「ネイリストとの距離感」に関する情報について、施設で残されている日々の報告書から精査した。ここでは特に、私が入職してからの2年間の気持ちや気分、施術している際の会話の変化に着目して検討した。

### 4. 結果

#### 1) A氏の経過

【20●●年4月】 野球が好きなAさんは、プロ野球開幕に合わせて黄色のベース地に阪神タイガースのマークを親指に描いて嬉しそうに「みんなに見せてくるわ」と発言されてネイルブースから離れる姿が印象的であった。普段の生活において非常にこだわりが強く、コレと思ったら何があっても変えることはしない性格であるが、その後はネイルの色や柄を「福祉ネイリストにおまかせ」とされる月が多く見受けられるようになっていった。

【20●●年6月】 ネイルの日ではない日に「爪取ってきたからやってー」と発言され、「○日だからそれまで待ってね」という内容の会話を1か月の間に何度もする。私が「○日ですよ」言いかけたら「あーわかるてる」や、別の日には「爪は○日やなあ・・・」と認識されたうえで当日ブースに来てくださるようになった。「今日は黒がいいなあ」とおっしゃるので黒に金のラメを乗せてみた。

【20●●年8月】 福祉ネイルを施術してほしい時間帯と、福祉ネイルブースが空いている時間帯が合わず、「もうええわ」と、いささか立腹されている様子で発言されて部屋へ戻って行かれた。

【20●●年9月】 午前中に就労B型の作業を終えてグループホームへ戻られたが、午後からは退屈なので、地活センターへ来館された。「今日は爪の日?」と問いかかけられたので、「爪の日は日曜日ですよ」と返答すると「わかった」と素直に自席へ戻って行かれた。

【20●●年10月】 ハロウィーンの日に合わせ、施術内容をハロウィーン仕様にしてみたところ、

非常に嬉しそうな笑顔で「ありがとう」と発言された。

【20●●年12月】 ほかの利用者様が福祉ネイルブースに多く来られていたため、順番を待ちきれず部屋へ帰られた。A氏の順番が到来したタイミングで電話をかけるも出られず、当月の施術は実現できなかった。

【20●●年2月】 「赤がいい」と発言されたが、赤けだと目立つのでファイヤーなシールはどう?と聞くと「オッケー」と言ってくれたので施してみた。



20●●年4月



20●●年6月



20●●年10月



20●●年2月

#### 2) B氏の経過

B氏は、アニメキャラクターのプリキュアが大好きで、いつもスマホやタブレットでプリキュアの音楽を聴かれて過ごされている。私が当施設での福祉ネイル活動を開始して最初の半年間くらいは見向きもされなかつたが、他の利用者様への施術を行っている時に横目でチラチラと見てこられるようになった。

B氏が通われている作業所が食材を取り扱う活動をされており、当初は自らが「ネイルはNG」で

あると思われていたが、私の手が空いた際に「Bさんもネイルされますか」と声をかけると「はい、します」と発言され、このタイミングがB氏への福祉ネイル介入の契機となった。そして翌月からは「ネイルします」、「月曜日に取ります」、「お仕事です」と話してくださるようになった。お母さんにネイルをしたいことを申されたことが推察され、福祉ネイルへの前向きな考えが強まった様子がうかがえた。

開始当初、何色にするのかが決まらないため、私が「お任せでいいですか」と尋ねると、「これとこれはピンク」、「これとこれは青」、「これとこれはオレンジ」と自発的に発言された。翌月からは同じ内容で色を指定されるようになった。

日曜日は10時の開館に合わせ、昼食を用意して来館され、いつも座っている席に着座される。B氏も先述のA氏と同様に予約が不可の属性であり、私の顔を見て「ネイルします」と発言されるため、私が「順番がきたらお呼びしますね」と言うと必ず待っていてくださる。

B氏はいつでも「今回の色はどうしましょう?」と尋ねると「これとこれはピンク」、「これとこれ青」、「これとこれはオレンジ」と指示されるが、夏季には「スイカを描いてもよろしいですか」と尋ねると嫌とは言わず「はい」と返事をされる。12月にはクリスマス仕様にしても喜びなどの肯定的な感情は見受けられなかった。B氏は、聞いたことは答えてくださるけれども、嫌なのか良いのかを伝えていただけないという特性があったため、もしかしたら私の方的な自己満足で福祉ネイル介入を行っているのではないかと不安になることがあった。



20●●年10月



20●●年2月

## 5. 考察

### 1) A氏について

A氏は、私が他の利用者様と会話をしながらネイル介入を行っている際には高い頻度で会話に混ざって来られたり、ときに怒ったりされることもあり、ネイルが好きというよりも施術者私との会話を楽しんでいる印象が強く感じられることが多かった。他者と触れ合いながら会話を楽しむということは、認知機能が低下している方々へ介護手法であるユマニチュードの特徴と一致していると思われる。今回は喜怒哀樂が激しいタイプの精神機能面を有するA氏において、福祉ネイル介入を通じたユマニチュード的な効果が作用したのではないかと考えられた。

私が物を落とした際には素早く拾いに来られるという優しい側面も見受けられるようになった。

現在は残念ながら現場の事情によって福祉ネイルの施術が行えなくなってしまった経緯がある。A氏は施術が行えなくなった最初の3ヶ月間の時期には「爪の日はないの」と聞いてこられた。私が「今はセンターの職員ではなくてグループホームの職員になったから、ネイルはできなくなったんですよ」と説明を行うと、A氏は平穏にそれを受容してくださるようになってしまった。そして、私がグループホームで夕食の提供をしていることから、A氏からは「今日は食堂?」という質問に変わっていた。

今回の一連の福祉ネイル介入を通じて、A氏と私の良好な人間関係を構築することができたと感じられたため、福祉現場におけるネイル介入というツール(手法)は、ケアを行う側とケアを受ける側との信頼関係の増幅に寄与すると考えられた。

### 2) B氏について

今回の発表に際しB氏の保護者様に同意をお願いする文書を送付し、そのお返事の中で「毎月ネイルをした日には嬉しそうに帰って来て、2人の妹に両手を広げて見せていた」との記載が存在していた。そして妹さん方から、「キレイやね」、「かわいいね」などの肯定的な発言があると、B氏が非常に嬉しそうな表情であるとの報告を受けた。今回の一連のネイル介入は、B氏ご本人だけではなく、ご家族へも良好な効果が得られたのではないかと

考えられた。

## 6. まとめ

福祉ネイル介入とは、おしゃれのアイテムだけのものではなく、良好な会話を生み出すツールとしても利用が可能であり、言葉にできなくても相互の手を触れ合い、施術者が話しかけてみることによって思いが通じ合えるということが実感できた。ユマニチュードの要素が多く含まれている福祉ネイルは、認知症によってスムーズな会話が実現できない場合や、寝たきりを余儀なくされている身体状況の対象者でも福祉ネイルを活用しながら話しかけることによって心豊かな日常の創出に寄与できる可能性がうかがえた。

# 深爪の改善に対して福祉ネイリストが介入できることに関する検討 ～自閉症を有する日本知的障害者水泳連盟所属の水泳選手1名との関わりを通じて～

石井智子<sup>1)</sup>, 内海紀公子<sup>1)</sup>

1) 日本保健福祉ネイリスト協会

キーワード：福祉ネイル，深爪改善，知的障害者，自閉症

## 1. はじめに

2019年開催された日本保健福祉ネイリスト協会（JHWN）の第1回研究集会において梅村<sup>1)</sup>は、シールのように剥がせるタイプのジェルネイルを用いたネイル介入を継続的に実施することによって発達障害（自閉症・チック症）に伴う「噛み爪」の緩和や改善を期待できる可能性を報告している。そこで梅村氏の先行研究を参考として今回、マニキュアカラーリングを用いた福祉ネイル介入を用いた深爪の改善を目的とした取り組みを実施したので報告させていただく。

2022年11月、(社)日本知的障害者水泳連盟様のご厚意により、同連盟が開催されている水泳競技会の会場での福祉ネイル体験会を実施させていただく機会を得た。その会場で連盟加盟選手である知的障害者（自閉症）の男性（松田天空選手）に対して福祉ネイル介入を実施し、深爪の状態を確認したうえで爪やすりの使い方や理想的な爪の状態をお伝えし、ネイルを塗ることによって爪を伸ばせる可能性があることをお伝えした。その翌日、松田選手のお母様より試合の結果は満足いかなかったけれども、試合後も松田選手の機嫌がよかつたとの報告をいただき、その後もネイルをとても大事にし、爪を初めて伸ばせているとのご連絡をいただいた。

このことがきっかけとなって、その後の継続的な福祉ネイル介入が深爪や爪噛みでお悩みの多くの方々への解決の一歩となる可能性を示したいと考え、不定期ではあるが、水泳大会が開催されるごとに福祉ネイル介入を行わせていただけた。

そこで今回、合計3回の福祉ネイル介入の結果について検討を行ったので報告させていただく。

## 2. 対象

対象者は先述のとおり(社)日本知的障害者水泳

連盟所属の水泳選手である知的障害者（自閉症）の松田天空選手1名である。このたび、マニキュアカラーリング10本の施術を不定期に3回の福祉ネイル介入を行った。具体的な実施日は以下のとおりである。

【1回目の介入】・・・2022年11月27日

【2回目の介入】・・・2023年1月9日

【3回目の介入】・・・2023年3月4日

## 3. 方法

松田選手は、以前から深爪のお悩みを抱えられており、素の爪（画像1）の状態で過去写真撮影を行ったもの（福祉ネイル介入前）から、福祉ネイル介入1～3回目の画像を通じて爪の状態の変化を観察した。

また今回、松田選手の競技生活をサポートされているご家族様や所属チームコーチを対象とした記述式のアンケート調査（別紙①）を実施し、その内容をもとに松田選手の精神面の変化と福祉ネイル介入との関連性を検討した。

## 4. 結果

アンケート結果（別紙②）と施術写真からの爪の状態の変化（別紙③）からも分かるように、松田選手は幼少期から深爪や爪噛みの行為が止められず、これまで一度も爪が伸ばせない状態にあつたが、このたびの合計3回の福祉ネイル介入によって深爪状態が治り、爪を噛む行為が消失し、健康的な爪の状態を維持したままネイルを楽しむことが出来るようになった。

介入を開始したタイミングは松田選手の競技生活において、現在所属するNECグリーンスイミングへ移籍した時期と一致しており、担当コーチとの関係性も良好な状況であった。また、2024年に

フランスで開催されるパリ 2024 夏季パラリンピック出場に向けての様々な世界大会で素晴らしい結果を残した直後であったこともあり、精神的に非常に良い状態であったということがアンケート結果からわかった。

## 5. 考察

今回の結果より、初回の施術時（2022/11/27）の深爪状態であっても、マニキュアカラーリングの実施によって、健康な爪の状態の対象者に対してマニキュアカラーリングを行った場合と同様に、爪が美しくなる喜びが得られていることが伺えた。

福祉ネイル介入を受けるまでの松田選手における選手生活においては、試合後には機嫌が悪いことが多かったとのことであった。しかし、このたびの福祉ネイル介入によって情緒の安定に繋がり、笑顔で過ごす時間が増えたことを松田選手ご本人のみならず、ご家族やご友人、担当コーチ等、信頼できる身近な方々と共に共有・共感し合えたことが非常に有意義であったことがアンケート調査結果から推察された。

自分自身をありのまま受け止めてもらえた環境の中で、カラーリングされた爪を大事にしたいという思いから、ご自身でもっと綺麗になりたい、爪噛みを辞めたいという意識が自然と芽生え、2回目と3回目の介入を経て、長年の爪への執着が薄れていったものと思われる。今回の取り組みによって、マニキュアカラーリングをすることが深爪改善に必ず繋がるということを証明することはできないが、利用者様に寄り添い、接遇に重きを置く福祉ネイルの中の1つのメニューであるマニキュアカラーリングの施術が、深爪改善のきっかけをもたらしたのではないかと推察できる。

また、結果でも示したように今回の介入開始のタイミングが松田選手ご自身の競技生活が非常に順調に進み始め、精神的に安定していたことは福祉ネイル介入による深爪改善の効果を大幅に底上げしたものと思われる。そのため、福祉ネイリストが初見の対象者に対して福祉ネイル介入を実施する際には、事前に対象者の精神状態に関する情報を得たうえで施術に臨むということが、介入効果を向上させる重要な準備となるではないだろう

か。

## 6. まとめ

今回はシングルケースではあるものの、福祉ネイルの介入によって深爪や爪噛みが消失する可能性を示せたことは非常に意義深いと考える。また、梅村氏の先行研究であるジェルネイルを用いたネイル介入と同様にして、福祉ネイリストが使用する「施術時間が短いマニキュアカラーリング」を用いた場合でも改善傾向が見られたことも大変意義深いことであったと考える。

知的障害または発達障害<sup>2)</sup>を有している人々においては、深爪状態である方や爪噛みを止めたくても止められないという方が多い傾向にあり、親御さんなども改善するべくあらゆる対策を講じられながらも結果が伴わない場合が多いようである。そこで深爪や爪噛みでお悩みの多くの方々へ解決策の1つとして、福祉施設や医療機関、学校を含む教育機関などで福祉ネイル介入の声が挙がる社会を創造していく為に、今後も研究活動を継続していきたい。

## 引用文献

- 1) 梅村美紗紀：長年にわたって障がいの一つとして諦めていた“噛み爪”へのアプローチに関する検討-わずか2か月でネイル介入が及ぼした対象者の心理面における劇的変化-. 日本保健福祉ネイリスト協会第1回学術研究集会抄録集, pp. 7-8, 2019
- 2) 井手正和：なぜ発達障害の人は爪を噛むのか…身体が痛みに気づけない「感覚鈍麻」という不思議な感覚. プレジデントオンライン（掲載日：2023/02/17, 閲覧日：2023/09/09)  
<https://president.jp/articles/-/65779?page=1>

<別紙②>  
記述式アンケート結果まとめ

		新井 静 コーチ 松田選手のお母様	河合 大輔コーチ NECグリーンスイミングクラブ 溝の口
■ Q1:2022年以前、松田天空選手のお爪の状態が深爪であるという認識はありましたか？	認識していた（幼少期から。生まれてから伸びたことが無い）	一般社団法人日本知的障害水泳連盟所属選手指導の口	NECグリーンスイミングクラブ 溝の口
Q2:2022年以前に、松田天空選手の深爪改善を図るために試されたことと結果について教えてください。	バイターストップ（苦いマニキュア）を塗る。いつの間にか苦み慣れて（？）舐めたり噛んだりしていた。	認識していた（2019年頃）	認識していない
Q3:松田天空選手の競技生活について、変化があったこと・転機などがあれば時期も併せて教えてください。	2008年…一般のスイミングに頼み込んで入らうが半年で脱落 2009年…障害者専用のスイミングで泳げるようになる 2011年…渡米 2012年…スペシャルオリンピックスで水泳 2015年夏…日本帰国し障害者チームに入る。知的水運に登録し競泳をスタート 2018年…育成選手に 2020年…強化選手になるもクラス分けのための海外遠征には行けず時間が過ぎる 2021年…東京パラの派遣標準記録を突破するもクラス分けが間に合わず出場できず 2022年…3月ようやくクラス分け遠征でイタリアへ！ 6月世界選手権（マデイラ）、11月OAゲームズブリスベン	特ににはやっています。爪を噛んでいるときに声を掛けた。	2022年にNECグリーンスイミングへ移籍。 2022年11月8日VIVITUSアジアオセニアにてバタフライ200m世界新で金牌

<p>Q4:2022/11/27（日）セントポー ル・アクアティックセンターで開 催された第25回日本知的障害者 選手権(25m)水泳競技会にて、初 めて松田天空選手が福祉ネイルの 施術体験をされた際のことについて質問致します。</p> <p>①福祉ネイルの施術後の松田天空 選手の様子やいつも様子と違つた 変化があればエピソード等を教 えてください。</p>	<p>真っ赤に仕上げていただいたのでどうしてもクリスマスまで持たせたいと粘っていました。施術中に石井さんからも「伸ばしてみよう」「爪がもう少しだ大きくなつたら色も凄く映えるよ」などと言つてました。笑顔が多かったです。</p> <p>嬉しいことに爪を見せてくれました。笑顔が多かったです。</p> <p>ネイル後は指先を気にかけていました。</p>
<p>②福祉ネイル施術後の周りの反応 や評判は如何でしたか？</p>	<p>時代の流れもあってか、ほぼ褒められることばかりでした。以前アンクにネイルさせて（指數本、黒いネイル）練習に参加したことがあります、「プールではダメ」と当時のコーチに注意されたことがあります。公共の施設を使用した練習だつたからなのか、そのコーチの独断は嫌だ」と後ろ向きになつたことがあります。公共でも他の大きなプール（辰巳や横浜）ではネイルしている方がたくさんいらっしゃるので「不公平だ！」と文句を言つていましたが話していました。</p> <p>・・・今回は所属コーチも凄く褒めてくれたことでアンクの気持ちもさらにアガりました。「おしゃれしています。SNSでもネイルをほめてくれる方もいて、これはもう深爪なんかに戻るわけにはいかないと思ったのですね。</p> <p>私は「良いねー！！！」と褒めました。</p>

<p>③福祉ネイル施術後に明らかに変わったこと（爪切りの方法や形状や長さ・爪を気にする頻度など）があれば教えてください。</p>	<p>それまでは少しでも伸びびで白い部分が1ミリでも見えると即座に切って（摘んで）いました。そのためいつも爪切りがアンクの部屋やアンクの服のポケットなど、行ネイル後、爪を噛まなくなり度は増えた。</p> <p>まつていります。爪切りをほとんど使わず、ネイルファイルを使うように。</p>	<p>これまでには少しでも伸びびで白い部分が1ミリでも見えると即座に切って（摘んで）いました。そのためいつも爪切りがアンクの部屋やアンクの服のポケットなど、行ネイル後、爪を噛まなくなり度は増えた。</p>
<p>Q5・2023/1/9（月・祝）千葉国際総合水泳場で開催された第6回知的障害者選手権新春水泳競技大会にて2回目に松田天空選手が福祉ネイルの施術を受けた際のことについて、質問致します。</p> <p>①福祉ネイルの施術後の松田天空選手の様子やいつも様子と違った変化があればエピソード等を教えてください。</p>	<p>2回目の施術時に石井さんはじめ皆さんに驚いてもらったり、褒められたりしたことは本人もうれしかったと思います。ネイルのベースが出るよと教えていたので、今は何色にしようかなあと考えたり。指先がキレイだとウキウキするようでした。</p>	<p>次回もネイルベースが出るのか？楽しみにしていました。</p> <p>ネイル後は指先を気にかけていました。</p>
<p>②評判は如何でしたか？</p>	<p>前回に引き続きなので、あんくが派手なネイルになっていても周りは特に驚くことも無く普通に「カワイイ」「キレイ」といってくれます(#^~#) SNSでちょこっと移つた爪も褒めてもらったりしてうれしいようです。</p>	<p>私は「良いねー！！！」と褒めました</p>
<p>③福祉ネイル施術後に明らかに変わったこと（爪切りの方法や形状や長さ・爪を気にする頻度など）があれば教えてください。</p>	<p>爪切り頻度は明らかに減りました。切りすぎ無くなっています。切る、というより整えるに変わったと思います。</p>	<p>ボロボロだった爪が少しずつ綺麗に生え変わった</p> <p>爪を気にする頻度は増えた。</p>

<p>Q6:2023/3/4～3/5 静岡県富士水泳場で開催された2023 日本パラ水泳春季チャレンジレース兼2023 年度日本代表選手選考競技会にて3 回目に松田天空選手が福祉ネイルの施術を受けた際のことについて、質問致します。</p> <p>①福祉ネイルの施術後の松田天空選手の様子やいつも様子と違った変化があればエピソード等を教えてください。</p>	<p>前回より「ギラギラしたい」という要望をかなえていただき、本人大満足でした。何度も眺めでは「今回は青が気に入ったなあ」と嬉しそうでした。でも色にうるさい人なので「もっと色が選べたらいいな」と。乾かした後に少しでも触れると取れそうになるところが不安だそうですがぐぐに安心して動かせれるようのがあればいいなあ(ズレることをきにしなくていい)と言っていました。</p>	<p>暑み癖、いじることが減り、レースに集中出来ていそうと思う。</p> <p>ネイル後は指先を気にかけていた。</p>
	<p>②福祉ネイルはすっかり定着(?) していい、「今回はどんなのにしたの?」というかんじで聞いてくれるや評判!は如何でしたか?</p>	<p>仲間や他の保護者から「今回は何色にするの?」と声を掛けられたりして、コミ―！！」と褒め言葉が広がっている。</p>
	<p>③福祉ネイル施術後に明らかに変わったこと(爪切りの方法や形状や長さ・爪を気にする頻度など)があれば教えてください。</p>	<p>ネイルを楽しみにしている、自宅でも楽しんでいるようです。爪が綺麗になりました。</p>

<p>知的障害や自閉症の人は深爪の人が多いと思います。あんくのように指先がキレイになると切らなくなったり「深爪でもいいよ」というところをもつとアピールしてもいいかもしれません。深爪だと「どうせ塗つても」という気持ちが楽しみにしている選手が多くいるので、引き続き設置の方にもありますしね~。深爪なら深爪なりにかわいくなることをもつと知っていますよね。大会会場へのベース設置、特に女子たちはワクワクしているようです。しかし、設置されていることも知らない人も多いので、広報も必要かもしれません。</p>	<p>その他、ご意見・福祉ネイルや大会会場への福祉ネイルベース設置に対する今後のご要望・ご感想などお聞かせください</p>
--	---

□松田天空選手の爪の状態の変化

・2020/8/26（松田さんの母撮影）



・2020/9/15（松田さんの母撮影）



・2021/3/21(Aさんの母撮影)



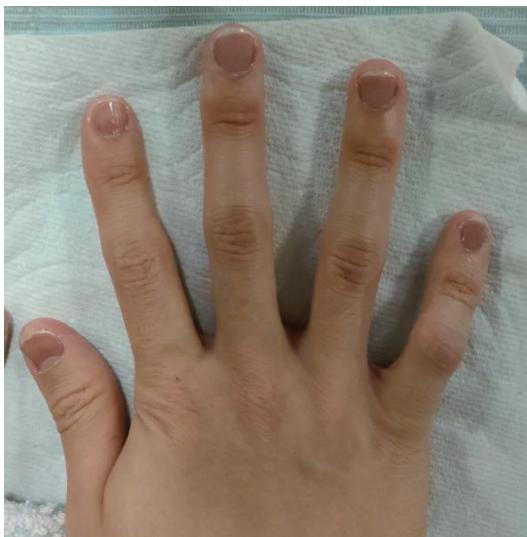
・2021/8/6(Aさんの母撮影)



・2022/11/27 福祉ネイル初回



・2023/1/9 福祉ネイル介入 2 回目



・2023/3/4 福祉ネイル介入 3回目



一般社団法人 日本保健福祉ネイリスト協会  
第4回（学術）研究集会 演題抄録集

監 修 東京通信大学 教授 佐藤 三矢

著 者 一般社団法人 日本保健福祉ネイリスト協会

発行者 荒木ゆかり

発行所 株式会社 イングカワモト

印刷所 〒 466-0008 名古屋市中区栄4-17-18

TEL : 052-241-3825

発売元 一般社団法人 日本保健福祉ネイリスト協会

万一、落丁乱丁のある場合は送料当社負担でお取替えいたします  
一般社団法人 日本保健福祉ネイリスト協会宛にご連絡ください

©Japan Health Welfare Nailist Association Printed in Japan



JHWN

一般社団法人  
日本保健福祉ネイリスト協会

Japan Health Welfare Nailist Association